

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 国語

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・新出漢字は脚注としてびきに示してあり、さらに資料編に部首、筆順、用例の一覧がある。 ・文法は、「文法の窓」と「文法の解説」の二部構成となっている。 ・読みや考えを深めるための学習ポイントを「てびき」に示している。 ・学習目標や付けたい力については巻末に一覧がある。また、各学習教材の初めにも学習目標を書いている。	・教材冒頭は吹き出しによる「問いかけ」で課題を示し、教材末のてびきで学習目標と振り返りを配置し、振り返りは学んだことを自分の言葉でまとめるように示している。(1年P.36、P.40) ・学習活動の手順(上段)に沿って具体例や対話(下段)を示している。学習のポイントは「言葉の力」として囲みで示している。レポート完成例を示す中で、そのポイントを明示している。1年「書くこと」「調べて分かったことを伝えよう『食文化』のレポート」(P.70-P.76) ・「読むこと」における学習の手引きでは、目標達成のための設問と自分の言葉で振り返る視点が示されている。「広がる言葉」として言葉に着目し、語彙を豊かにするための手立てがある。 ・この教材で身に付ける資質・能力を「言葉の力」として明示している。(2年「走れメロス」P.169-P.170) ・単元の直前にある「学びの扉」(2年P.46)、巻末の基礎編「学びを支える言葉の力」(2年P.250)で習得した知識・技能を「話すこと・聞くこと」の教材の中で活用できるようになっている。(2年P.47-P.49) ・本編の後ろに「学びを支える言葉の力」として3領域の学習の基礎を取り上げて学べる基礎編があり、本編とのつながり、他教科や生活へのつながりが示されている。また、巻末折込で「学びを支える言葉の力」まとめ一覧を示している。	・1年の古典単元の冒頭に古典導入教材として「移り行く浦島太郎の物語」を配置している。また、3年間で学ぶ古典作品を示している。 ・古典作品として1年(伊曾保物語、竹取物語、故事成語)2年(枕草子、徒然草、平家物語、漢詩)3年(和歌、おくのほそ道、論語)がある。 ・各学年の前見返しに巻頭詩がある。中扉に1年(詩7編)2年(短歌7首)3年(俳句7句)がある。 ・巻末の資料編に伝統的な言語文化に関わる教材がある。1年(さまざまな古典作品)2年(書き手の肖像—清少納言と兼好法師、望郷の詩—杜甫と李白、能「八島」より、狂言「神鳴」より)3年(恋歌をよむ、「おくのほそ道」の旅、人形浄瑠璃「曾根崎心中」より、歌舞伎「勧進帳」より) ・近代文学作品として本編・資料編に1年(「月夜の浜辺」中原中也、「トロッコ」芥川龍之介)2年(「落葉松」北原白秋、「走れメロス」太宰治、「坊ちゃん」夏目漱石)3年(「形」菊池寛、「初恋」島崎藤村、「レモン哀歌」高村光太郎、「最後の一句」森鷗外)がある。 ・教科横断的な学習教材を各学年に配列している。1年(P.135:社会、P.172:道徳・保健体育)2年(P.128:社会)3年(P.63:理科、P.75:理科、P.128:社会、P.135:社会、P.197:社会・理科・家庭)等。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、字体や色使い、レイアウトに配慮している。 ・古典教材における資料は、1年 折り込み両面で「竹取物語」五人の貴公子の求婚の場面紹介(絵巻)。(1年P.137-P.140) 2年 折り込み両面みひらき4ページ分を使って「源平合戦」絵巻を掲載(2年P.131-P.134) 3年 折り込みの両面を使って「おくのほそ道」旅程図、12世紀の平泉想定図等を掲載。(3年P.137-P.140) ・「読むこと」の各教材では教材のテーマや著者に関連した本の紹介がある。 ・読書案内はテーマやジャンル別でまとめてあり、紹介文と全ての表紙写真がついている。(3年間で295冊) ・二次元コードがあり、インターネットを通して動画や音声、映像等を閲覧することができる。	・本編中に読書単元を設けている。(1年) ①教材「碑」(P.80-P.91)、読書案内(P.92)比べ読み4冊+(P.93)広げ読み8冊、読書活動「図書館で調べよう」(P.94) ②教材「風を受けて走れ」(P.172-P.179)、読書案内(P.180)比べ読み4冊+(P.181)広げ読み8冊、読書活動「本のポップを作ろう」(P.182) ③教材「トロッコ」(P.210-P.217)、コラム「作家と作品」(P.218-P.219)、読書案内(P.220-P.221)日文6冊+外国文4冊 ・基礎編(資料編)に読書案内がある。(1年)読書案内 有名人のおすすめの本3冊(P.287)分野別45冊(P.288-P.291) ・本編と基礎編とを関連させながら、言語活動を含めた情報の取り扱いに係る単元を設けている。(1年) ①単元「表現を考える」(教材「ニュースの見方を考えよう」(P.184-P.191)、学びの扉「分類する・比較する」(P.192)+基礎編(P.226-P.229)、言語活動「話し合いて理解を深めよう」(P.193-P.198) ②学びの扉「事実と考えを区別する」(P.96)+基礎編(P.230-P.233)、学びの扉「根拠を挙げて考えを述べる」(P.106)+基礎編(P.234-P.237)、言語活動「根拠を明確に述べて書こう」(P.107-P.111)

	・新出漢字は脚注と教材末に示しており、資料編に部首、筆順、用例の一覧がある。 ・文法は、「文法の窓」に示してある。また、文法のまとめに関連して解説を示している。 ・内容の整理と考えを深めるための学習ポイントを「学びの道しるべ」に示している。 ・学習教材ごとに学習目標を提示しており、領域別に付けたい力を巻頭に表でまとめている。	・巻頭にある各教材の「付けたい力」に基づいた学習目標を明示し、教材末では目標を再確認しながら学びを自分の言葉で振り返るよう示している。(1年P.20,P.29) ・1年「書くこと」「調べたことを整理してわかりやすくまとめる」(1年P.54-P.59) 上段に学習活動の手順を示し、下段ではそれぞれの学習活動におけるポイントや思考の方法を示している。また、作品例を示す中で、そのポイント説明がなされている。最後に他教科や社会生活へのつながりを示している。 ・「読むこと」における学習の手引き(「学びの道しるべ」)は「内容を整理する」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」の4段階構成になっており、振り返りでは振り返りキーワードが示され、学んだことを自分の言葉でまとめさせるようになっている。最後に「学びを広げる」として学習したことを活用して取り組む課題が提示してある。 ・手引きの課題と関連付けた「思考の方法」や教材に関連した語彙を取り上げた「語彙を豊かに」の図みがある。(2年「走れメロス」P.216-P.218) ・手引き(「学びの道しるべ」)に関連して学習できる読み方を学ぶコーナーがある。(2年P.218)(3年間で22の方略) ・巻末折込みみとして「読み方を学ぼう一覧」で読むときに役立つ「技」や「こつ」を繰り返し確認できるようにになっている。(3年時には1-3年で学んだ22の方略全てを掲載している)	・1年の古典単元の冒頭に古典導入教材として「月を思う心」を配置している。 ・古典作品として1年(竹取物語、故事成語)2年(枕草子、徒然草、平家物語、漢詩)3年(和歌、おくのほそ道、論語)がある。 ・巻末の資料編に伝統的な言語文化に関わる教材がある。1年(落語の世界、落語「桃太郎」、日本文学名作集)2年(那須与一「平家物語」より、歌舞伎の世界、歌舞伎「外郎売」、日本文学名作集)3年(能・狂言の世界、狂言「柿山伏」、日本文学名作集)がある。 ・近代文学作品として本編・資料編に1年(「トロコ」芥川龍之介)2年(「大阿蘇」三好達治、「走れメロス」太宰治)3年(「初恋」島崎藤村、「坊ちゃん」夏目漱石、「高瀬舟」森鷗外)がある。 ・教科横断的な学習教材を各学年に配列している。1年(P.16,P.116:社会,P.37:英語,P.40:理科,P.44:理科,P.56:社会)2年(P.16:音楽,P.40:数学,P.44:理科,P.56,P.76:道徳,P.226:音楽)3年(P.44:音楽・美術・家庭科,P.78,P.142:道徳,P.150:美術,P.162:社会,P.206:音楽)等。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、字体や色使い、レイアウトに配慮している。 ・古典教材における資料は、1年 折り込み片面で「竹取物語」五人の貴公子の求婚場面紹介(絵巻)。(P.125,P.126)挿絵も絵巻になっている。2年 折り込み片面で「平家物語」の源平合戦の場面を紹介。(P.125,P.126)また、挿絵も一部絵巻を使用。3年 折り込み片面で「おくの細道」の旅程図を紹介。(P.125,P.126) ・「読むこと」の各教材では教材のテーマや著者に関連した本の紹介がある。 ・読書案内は、資料編にテーマごとに分類しており、表紙絵と紹介文がある。また、「私の読書体験」として、各学年作家の読書に対してのエッセイを掲載している。 ・二次元コードがあり、「読み方を学ぼう」を活用した図解例等を閲覧することができる。	・本編の単元中に、関連指導として読書指導を入れている。(1年) 第3単元中にエッセイ「私の読書体験 本を読むことのおもしろさ」(P.92-P.93) ・本編と資料編の間に「読書の広場」としてジャンル別の作品紹介をして、実際の作品を6ジャンル分掲載している。(1年) 「小さな図書館」で分野別に47冊紹介(P.238-P.243) 教材「電車は走る」(P.244-P.249)、「紅鯉」(P.250-P.259)、「古事記」(P.260-P.265)、「この小さな地球の上で」(P.266-P.271)、「食感のオノマトペ」(P.272-P.274) ・本編で情報の取扱いに係る単元を設定し、単元末に言語活動を設定している。(1年) 第6単元「情報を関連づける」(P.141-P.154)、教材「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」(P.142-P.143)、資料A「防災に関するデータ」(P.144-P.145)、資料B「『みんなでいるから大丈夫』の怖さ」(P.146-P.149)、言語活動「行事案内リーフレット(必要な情報をわかりやすく伝える)」(P.150-P.154) ・資料編で情報収集の具体的な手順や法的な留意事項を示し、本編の言語活動を行う際に参考となるようにしている。(1年) 情報を活用する(P.276-P.283) ・情報探しの方法(P.276-P.281)+引用と著作権(P.282-P.283) ・本編の単元の中に情報の活用に係る言語活動を設定している。(1年) 第8単元中に言語活動「意見文 根拠を明確にして考えを述べる」(P.196-P.199)、第2単元中に教材「読み方を学ぼう①説明文の基本構造『ペンギンの防寒着』」(P.40-P.43)と教材「クジラの飲み水」(P.44-P.51)、言語活動「レポート 調べたことを整理してわかりやすくまとめる」(P.54-P.59) 第4単元中に教材「読み方を学ぼう④三角ロジック」(P.104-P.105)と言語活動「スピーチ 構成を工夫して魅力を伝える」(P.108-P.111)
--	---	--	--	---	---

教出

・新出漢字は脚注と「みちしるべ」に示しており、教科書末に部首、筆順、用例の一覧がある。 ・文法は「文法の小窓」に示しており、巻末に文法の解説を掲載している。 ・学習のポイントを「みちしるべ」に示しており、語句、重点、振り返りを示している。 ・学習目標は学習教材の初めに示しており、学習内容の重点を巻頭に表でまとめている。	・各教材の冒頭に学習目標を示し、教材末の手引きには振り返りが評価の観点チェックの形式で示している。(1年P.34,P.40) ・1年「書くこと」「読み手を意識して報告文を整える」(P.219-P.221)学習活動の前に「学びナビ」として学習するポイントを示している。上段に学習活動の手順と学習の重点を明示、下段では学習の助けとなるヒントを示している。報告文のモデルを示し、そのポイント説明がある。最後に他教科へのつながりも示している。 ・「読むこと」における学習の手引き(「みちしるべ」)は「内容を読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」と振り返りの構成になっている。(2年「走れメロス」P.265) ・教材文や活動の前に学習の方法を習得する「学びナビ」をおき、読み方や読む観点を明確にし、内容を把握するための方法等を学ぶように構成している。(2年P.246-P.247)	・1年の古典単元の冒頭に古典導入教材として「昔話と古典一箱に入った桃太郎」が配置されている。 ・古典作品として1年(竹取物語、故事成語)2年(枕草子、徒然草、平家物語、論語)3年(和歌、おくのほそ道、漢詩)がある。 ・各学年の後見返しに文学とゆかりのある風景を紹介した「ふるさとを巡る」がある。各学年に「四季のたより」のページが4ページある。1年(P.30,P.74,P.108,P.234)2年(P.44,P.92,P.120,P.240)3年(P.72,P.88,P.114,P.242) ・巻末の「言葉の自習室」に伝統的な言語文化に関わる教材がある。1年(銀のしずく降る降る、蓬萊の玉の枝と偽りの苦心談—竹取物語、伝統芸能へのいざない 落語、小倉百人一首、十二支と月の呼び名)2年(扇の的—平家物語—季節をうたう、近代文学史年表)3年(日本文学の名作)。 ・近代文学作品として本編・資料編に1年(「ふしぎ」金子みすゞ、「蜘蛛の糸」芥川龍之介、「オツベルと象」宮沢賢治、「春」安西冬衛、「耳」堀口大祐、「虫」八木重吉、「雪」三好達治)2年(「坊ちゃん」夏目漱石、「走れメロス」太宰治)3年(「最後の一句」森鷗外、「初恋」島崎藤村)がある。 ・教科横断的な学習教材を各学年に配列している。1年(P.76:社会・理科・道徳・技術家庭・総合的な学習、P.86:理科・社会、P.170:社会・道徳、P.27:英語)2年(P.207:理科、P.65:総合的な学習、P.54:理科・社会、P.104:社会・道徳)3年(P.234:社会、P.90:音楽)等。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、字体や色使い、レイアウトに配慮している。 ・古典教材における資料は、1年「竹取物語」で絵巻を紹介している。(P.117)また、挿絵にも絵巻を使用している。2年「平家物語」で絵巻を紹介している。(P.123)また、屏風絵と合戦地図も紹介している。(P.127)3年「おくの細道」の旅程図を紹介している。(P.118,P.119)また、平泉の写真や、漢詩では長安城、黄鶴楼の写真に掲載している。 ・「読むこと」の各教材では著者に関連した本の紹介を作者紹介の中に示している。 ・読書案内は「広がる本の世界」にテーマごとに表紙絵と紹介文がある。 ・二次元コードがあり、インターネットを通して動画や音声、映像等を閲覧することができる。	・本編の単元の中に言語活動を含む読書活動を設定している。(1年)第3単元中に小説「ベンチ」(P.52-P.58)+読書活動「みちしるべ(ポップ作り)」(P.59)第5単元中に小説「蜘蛛の糸」(P.128-P.133)+作品解説・作者紹介(P.134-P.137) ・単元と単元の間に「図書紹介」を入れている。(1年 P.28,P.50,P.70,P.106,P.184,P.232,P.239)9分野×各10冊＝90冊 ・資料編に4ジャンルの作品の一部または全部を示している。(1年)伝記「銀のしずく降る降る」(P.286-P.295)、古典「蓬萊の玉の枝と偽りの苦心談」(P.296-P.297)、詩「花の詩画集」(P.298-P.299)、小説「デューク」(P.300-P.304) ・本編の単元中に「メディアと表現」として説明的文章や演習として情報の取扱い方の学習を設定している。(1年)第3単元中に教材「全ては編集されている」(P.62-P.63)と教材「写真で『事実』を表現する」(P.64-P.67)、言語活動「材料を整理して案内文を書く」(P.71-P.73)第4単元中に言語活動「根拠を明確にして意見文を書く」(P.99-P.101)と教材「広告の情報を考える」(P.102-P.105)第8単元中に言語活動「読み手を意識して報告文を整える」(P.219-P.221)と言語活動「発言を結び付けて話し合う」(P.223-P.225)、教材「漫画で『物語』を表現する」(P.226-P.229)
--	--	--	---	--

・新出漢字は脚注と教材末に示している。また、巻末に部首、筆順、用例の一覧がある。 ・文法は、「文法への扉」で示しており、教科書末に関連した解説と問題を示している。 ・学習のポイントは学習教材末に示しており、読みと考えを深めるものである。 ・学習教材末に目標と振り返りが示されており、学習内容の重点を巻頭に領域別に表でまとめている。	・教材冒頭に学習目標が示され、教材末の学習の振り返りでは学んだことや理解したことを自分の言葉で書く設問になっている。(1年P.22、P.29) ・1年「書くこと」「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」(1年P.138-P.143)最初の見開きで学習活動が一覧できる構成になっている。上段は、学習目標、既習事項の提示、学習過程、学んだことを生かせる場面の提示の構成。下段ではポイントや具体例が示されている。レポートの例や統計資料の例を挙げてそのポイントを示している。 ・「読むこと」における学習の手引き(「学習」)は「見通しを持つ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」の構成になっている。 ・教材を読むときのポイントや学習用語を「学習の窓」として、図解入りで下段に示している。(2年「走れメロス」P.212-P.213) ・巻頭折込に他教科や日常でも使える思考ツールが示され、巻末には「学習の窓」一覧として文章を読むための基本的な観点や「情報整理のレッスン」一覧として情報を整理するための基本的な観点をまとめるなど、主体的な学びにつながるツールが示されている。	・古典単元に古典解説として1年(古典の世界)3年(和歌の世界)、古文音読教材として1年(いろは歌)2年(平家物語冒頭)3年(古今和歌集 仮名序)を配置している。 ・古典作品として1年(竹取物語、故事成語)2年(枕草子、平家物語、徒然草、漢詩)3年(和歌、おくのほそ道、論語)がある。 ・各学年の前見返しに巻頭詩がある。中扉・後見返しに1年(時を表す言葉)2年(色の名前)3年(季節の言葉)がある。各学年に「季節のしおり」が4ページある。1年(P.31、P.94、P.152、P.196)2年(P.27、P.90、P.146、P.194)3年(P.27、P.92、P.142、P.194) ・巻末「学習を広げる」に伝統的な言語文化に関わる教材がある。1年(百人一首を味わう、言葉とくぐさの伝統芸能—古典落語)2年(敦盛の最期—「平家物語」から、家の作りやうは—「徒然草」から、古典芸能の世界—能・狂言、郷土ゆかりの作家・作品)3年(古典芸能の世界—歌舞伎・浄瑠璃、古典・近代文学の名作、日本文学の流れ)。 ・近代文学作品として本編・資料編に1年(「大阿蘇」三好達治、「坊ちゃん」夏目漱石)2年(「月夜の浜辺」中原中也、「走れメロス」太宰治、「形」菊池寛)3年(「初恋」島崎藤村、「高瀬舟」森鷗外) ・教科横断的な学習教材を各学年に配列している。1年(P.62:数学、P.42、P.126:理科、P.46:美術、巻頭:音楽・社会、P.84、P.88:保健体育、P.190、P.22、P.84、P.86、P.96:道徳)2年(P.42、P.188:理科、P.14、P.124:社会、P.74、P.170、P.180、P.184:美術、P.144:音楽、P.60:保健体育、P.92、P.106、P.34:道徳)3年(P.56、P.64、P.98:社会、P.84、P.200:音楽、P.62、P.124、P.126:技術家庭、P.28、P.246、P.259、P.14、P.42、P.94、P.178、P.188、P.196、P.166:道徳)等。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、字体や色使い、レイアウトに配慮している。 ・古典教材では、1年「竹取物語」では五人の貴公子の求婚場面の絵巻を紹介している。(P.166-P.167)また、挿絵にも絵巻を使用している。2年「平家物語」では源平合戦図屏風や戦いの場所の地図が掲載されている。(P.148-P.149)3年「おくのほそ道」では、旅程図が掲載されている。(P.156-P.157)また、各学年古典教材の導入に冒頭等が毛筆で描かれた文が掲載されている。 ・2年「君は「最後の晩餐」をしっているか」では、レオナルド・ダ・ヴィンチの作品が折り込み両面で紹介されている。(P.171-P.174) ・「読むこと」の各教材では教材のテーマや著者に関連した本の紹介がある。 ・読書案内にはテーマやジャンル別でまとめてあり、全て表紙写真と紹介文がついている。また、「私の一冊」として、スポーツ選手や俳優等のおすすめする一冊を掲載している。 ・二次元コードがあり、インターネットを通して動画や音声、映像等を閲覧することができる。	・本編中で、図書の紹介や読書活動を含め、読書単元を設定している。(1年)単元「読書生活を豊かに」(P.82-P.93)(読書活動「読書を楽しむ」(P.82-P.83)、図書(3冊)紹介「本の中の中学生」(P.84-P.89)、図書(分野別に30冊)紹介「本の世界を広げよう」(P.90-P.92)、コラム「本との出会い」(P.93))単元「読書に親しむ 考える人になろう」(小説「君たちはどう生きるか」(P.190-P.191)、エッセイ「楽しい制約」(P.192-P.193)、図書(分野別に18冊)紹介「本の世界を広げよう」(P.194-P.195)) ・資料編で2ジャンルの作品の一部を示し、読書活動の知識・技能面での留意事項を示している。(1年)小説「坊ちゃん」(P.278-P.287)、説明文「幻の魚は生きていた」(P.288-P.291)、読書活動「読書感想文の書き方」(P.292-P.293) ・本編中に情報の取扱いに係る単元を設定している。(1年)単元「情報社会を生きる」(P.60-P.66)情報を集めよう(P.60-P.61)+情報を読み取ろう(P.62-P.63)+情報を引用しよう(P.64-P.65)+著作権について知ろう(P.66)) ・単元中に情報の取扱いに係る学習活動を設定している。(1年)第1単元中に言語活動「情報を的確に聞き取る」(P.30)と教材「情報整理のレッスン 比較・分類」(P.32-P.33)、言語活動「情報を整理して書こう」(P.34-P.37)・第2単元中に教材「思考のレッスン1 意見と根拠」(P.52-P.53)第5単元中に教材「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」(P.126-P.135)と教材「思考のレッスン2 原因と結果」(P.136-P.137)、言語活動「根拠を示して説明しよう」(P.138-P.143)、言語活動「話し合いの展開を捉える」(P.145)、言語活動「話題や展開を捉えて話し合おう」(P.146-P.149)
---	--	--	---	---

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 書写

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・姿勢、筆記具の正しい持ち方について写真や絵で示している。 ・楷書の基本の点画の書き方についての説明は2ページに渡って説明がある。行書の点画については作品の中で説明をしている。 ・筆づかいには朱色と薄墨色で動きが分かるようになっている。	・毛筆教材は見開きで構成し、左面に手本がある。基本単元の構成は最初に目標を明示した後、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」の構成になっている。 ・「書写のかぎ」として文字を正しく書くためのポイントを示している。 ・活用単元として身近な活動を題材にして身につけた知識・技能を生活の中で生かす場面を設定している。 1年「職場訪問をしよう」(P.45-P.47) 2年「本のポップを書こう」(P.64-P.65) 3年「思いを文字で表そう」(P.91-P.93) ・巻末に教科の学習や生活で使う書式と解説をまとめた「書写活用ブック」がある。	・手書きの価値や意義・文字の役割を考える単元やコラムを掲載している。(P.82-89) ・文字文化に親しむことができるコラム「文字のいずみ」を掲載している。 1年(P.19,P.28,P.40,P.44,P.48,P.97) 2年(P.61,P.72,P.74,P.78,P.101) 3年(P.84,P.90,P.94,P.96,P.105,P.109) ・書き初めは各学年に配置されている。各学年半紙2,長半紙2の手本がある。長半紙については、巻末に原寸大手本1,縮小版1,参考として他に書き初めにふさわしい言葉の例が8ずつある。1年は楷書と行書,2年と3年は行書の内容となっている。学習のポイントや姿勢の写真を示している。 ・国語や他教科の内容につながる題材を取り上げている。 国語(P.25,P.26,P.39,P.42,P.46,P.48,P.55,P.64,P.71,P.78,P.96)活用ブックP.4,P.7)社会(活用ブックP.4,P.6)理科(活用ブックP.4)技術(活用ブックP.5)美術(P.85)等	・カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮している。 ・巻末資料漢字(楷書と行書)一覧表には、常用漢字2136字と人名用漢字863字を掲載している。 ・毛筆の手本は左側のページにある。教科書サイズがAB版である。 ・各学年で系統性を持たせ、日常の書式等の作品例を載せている。 ・書き初めの手本は折り込み形式で巻末に3学年ともまとめている。 ・二次元コードがあり、インターネットを通して動画や音声等を閲覧することができる。	・各学年「生活に広げよう」のテーマ単元を設定して言語活動例を示している。 (1年)「案内の手紙を書こう」(P.26-P.27)、「年賀状を書こう」(P.42-P.43)、「職場訪問をしよう」(P.45-P.47) (2年)「本のポップを書こう」(P.64-P.65)、「防災訓練に参加しよう」(P.75-P.77) (3年)「思いを文字で表そう」(P.91-P.93)
三省堂	・姿勢、筆記具の持ち方についての正誤を写真や絵で示している。 ・楷書の点画の説明は2ページに渡って説明がある。行書の点画については作品の中で説明をしている。 ・筆先の動きを青い矢印で示していて、筆の動きが分かるようになっている。	・各教材を見開きで構成し、左面に手本がある。「目標を確かめよう」「書き方を学ぼう」「見つけよう・考えよう」「毛筆で書こう」「学習を振り返ろう」の構成になっている。単元の終わりに毛筆で書いて習得したことを他教科の学習や日常生活・社会生活でも活用できる硬筆による書き込みページがある。最後に単元を通して学んだことを自分の言葉でまとめるようになっている。 ・「書き方を学ぼう」のコーナーで書き方のポイントを示している。 ・各学年に活用単元として「やってみよう」がある。 1年「グループ新聞を作ろう」(P.48-P.49) 2年「情報誌を作ろう」(P.66-P.67) 3年「名言集を作ろう」(P.76-P.79) ・巻末には資料編として日常の書式とそのポイントが明示されている。折込で「書き方を学ぼう」一覧がある。	・手書きの価値や意義・文字の役割を考える単元やコラムを掲載している。 (P.24,P.25,P.26,P.27,P.72,P.73,P.74,P.75,P.80) ・文字文化に親しむ資料「書写の広場」がある。 (P.90,P.91) ・書き初めは巻末に配置されている。1年は原寸大手本1,縮小版1で、内容は楷書と行書である。2年は原寸大手本1,縮小版3で、内容は楷書と行書である。3年は毛筆手本原寸大手本1,毛筆縮小版1,硬筆手本1で、内容は楷書と行書である。 ・国語や他教科の内容につながる題材を取り上げている。国語(P.34,P.35,P.49,P.67,P.76,P.77等)社会(P.34,P.35,P.56,P.57)理科(P.31)美術(P.74,P.75,P.76)等	・カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮している。 ・巻末資料漢字(楷書と行書)一覧表には、2136字を掲載している。 ・毛筆の手本は左側のページB5サイズである。 ・各学年の「やってみよう」の単元と資料編に日常の書式等の作品例を挙げている。 ・書き初めの手本は折り込み形式で最後に3学年ともまとめている。 ・二次元コードがあり、動画を閲覧することができる。	・各学年「やってみよう」のテーマ単元を設定して言語活動例が示している。 (1年)「グループ新聞を作ろう」(P.48-P.49) (2年)「情報誌をつくろう」(P.66-P.67) (3年)「名言集を作ろう」(P.76-P.79)

教出	・姿勢、用具の持ち方について写真で示している。 ・楷書の点画の説明は2ページに渡って説明がある。行書の点画については作品の中で説明をしている。 ・筆づかいは朱色と薄墨色で動きが分かるようになっている。	・見開き完結型の構成で毛筆は右側に手本がある。「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の構成で単元の最後に学習を生かして書く教材が例示され、各教科の書く活動と連動している。(1年P.30-P.31) ・学校生活や日常生活に生かす活動例がある。 1年「おすすめの本の帯やポップを作る」「ポスターを書く」(P.36-p.37) 2年「新聞を書く」「掲示物に案内を書く」「案内状を書く」(P.82-P.85) 3年「メッセージカードを書いて伝えよう」「未来の自分に向けて手紙を書こう」(P.98-P.99) ・巻末には実社会で活用できる「書式の教室」がある。	・手書きの価値や意義・文字の役割を考える単元やコラムを掲載している。 (P.54,P.56,P.57,P.78,P.79,P.82,P.83,P.84,P.85,P.94,P.95,P.96,P.97,P.98,P.99) ・文字文化に親しむことができるコラムを掲載している。1年(P.22,P.23,P.34,P.35,P.38,P.39)2年(P.71,P.80,P.81,P.86) ・書き初めを巻末に配置している。各学年原寸大手本1,縮小版1,参考として他に書き初めにふさわしい言葉の例が6つずつある。1年は楷書と行書,2年と3年は行書の内容となっている。学習のポイントや姿勢の写真を示している。 ・国語や他教科の内容につながる題材を取り上げている。国語(P.1,P.12,P.28,P.29,P.36,P.37,P.69,P.72,P.73,P.74,P.75,P.76,P.77,P.82,P.92,P.93),社会(P.13,P.38,P.80),理科(P.30,P.31,P.34),美術(P.54),数学(P.94)等	・カラーバリエーションを含むユニバーサルデザインに配慮している。 ・巻末資料漢字(楷書と行書)には,小学校で学習した1026字,中学校で学習する1110字を掲載している。 ・毛筆の手本は右側のページにある。教科書サイズがAB版。 ・日常の書式等の作品例等は各学年の「学習を生かして書く」の単元にある。 ・書き初めの手本は折り込み形式で最後に3学年ともまとめている。 ・二次元コードがあり,動画を閲覧することができる。	・単元の中の一活動として言語活動を入れている。 (1年)「学習内容を効果的にノートに書こう」(P.12-P.13),第2単元中に「学習を生かして書く—配列—校庭の植物観察をレポートにまとめる」(P.30-P.31),手紙を書く(P.32-P.33),「学校生活に生かして書くおすすめの本の帯やポップを作る」(P.36)ポスターを書く(P.37) (2年)第3単元中に「学習を生かして書く」,新聞を書く(P.82-P.83)・掲示物に案内を書く(P.84)・案内状を書く(P.85) (3年)第3単元中の「三年間の学習の成果を生かそう」という小単元中に選択課題(A:メッセージカードを書いて伝えよう,B:未来の自分に向けて手紙を書こう)を設定。(P98-P.99)
光村	・姿勢、筆記具の持ち方について写真で示している。 ・漢字の点画の説明は2ページに渡って説明があり,行書の点画については行書の特徴として1ページにポイントをまとめ,作品の中で具体的に説明している。 ・筆づかいは朱色と薄墨色で動きが分かるようになっている。	・主要教材は4ページで構成されており,見開き2ページで「目標」「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「学習を振り返る」の5段階で学習をすすめ,続く見開き2ページで主要教材の手本を示している。「書写ブック」を使用して毛筆の学習を生かして硬筆の学習に取り組めるようになっている。 ・各学習におけるポイントを「学習の窓」として囲みで示している。 ・国語科をはじめ,他教科や学校生活で活用する例がある。 1年「目標を書こう」(P.50) 2年「行書を活用しよう」(ノート,本の帯等)「壁新聞を作ろう」(P.80-P.82) 3年「冊子にまとめよう」(P.108) ・巻末に「日常に役立つ書式」がまとめられている。	・手書きの価値や意義・文字の役割を考える単元やコラムを掲載している。 (P.64,P.65,P.90,P.91,P.94,P.95,P.104-P.107,P.118) ・文字文化に親しむことができる資料やコラムを掲載している。 (前見返し,P.48,P.49,P.84,P.85,P.88,P.89,P.92-P.95,P.98,P.99,P.157) ・書き初めを巻末に配置している。各学年原寸大手本1,縮小版3ずつある。各学年とも楷書と行書の内容となっている。 ・国語の内容につながる題材を取り上げている。 (書写ブックP.8,P.9,P.15,P.18,P.19,P.22,P.23,本編P.64,P.65,P.80,P.81,P.82,P.90,P.91,P.106,P.107,P.110-P.115,P.117)	・カラーバリエーションを含むユニバーサルデザインに配慮している。 ・巻末資料漢字(楷書と行書)一覧表には,常用漢字2136字と人名用漢字863字を掲載している。 ・毛筆の手本は2ページに渡って掲載しているものと,1ページに掲載しているものがある。 ・各学年で系統性を持たせ,日常の書式等の作品例を載せている。 ・書き初めの手本は折り込み形式で最後に3学年ともまとめている。 ・二次元コードがあり,動画を閲覧することができる。	・単元の中の一活動として言語活動を入れている。 (1年)第1単元中に「【学校生活】目標を書こう」(P.50) (2年)第2単元中に「【国語・学校生活】行書を活用しよう」(P.80-P.81),「【国語】壁新聞を作ろう」(P.82)第3単元中に「楷書と行書の使い分け」(P86-P.87) 3年 第3単元中に「【国語】冊子にまとめよう」(P.108) ・資料編(日常に役立つ書式)に「手紙の書き方」(P.110-P.113),「葉書の書き方」(P.114),「入学願書の書き方」(P.116),「送り状の書き方・原稿用紙の書き方」(P.117),「【日常生活】年賀状を書こう」(P.118)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 社会（地理的分野）

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効な絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・1単位時間が見開きページとなっており、タイトルの横に学習課題を提示している。(P.20等) ・章の始めに、小学校の内容を記載している。(P.6等) ・ページの下に「チェック」「トライ」というコーナーがあり、その日に習った知識を使って、自分の言葉で説明する学習活動がある。(P.77等) ・北方領土、竹島、尖閣諸島といった領土をめぐる問題をかかえる島々について、日本固有の領土という記述に加え、地理的特色をもっているか、考えさせるようにしている。(P.26-P.27)	・各章のところに、スキルアップやまとめの活動(P.18-19等)、地理にアクセス(P.201等)に加えて、各単元の前に、導入の活動(P.184等)がある。 ・資料のところに、みんなでチャレンジという、写真を見比べたり、グループで話し合う学習活動が記載している。(P.55等) ・3分野の関連を意識した分野関連マークがある。(P.166-P.167)	・3大宗教については、見開きページ、イスラム教の人々の生活については1ページ使用して記載している。(P.50-P.51,P.70) ・東北地方の内容では、伝統的な産業や生活・文化について取り扱っており、過去の災害の教訓をどのように生かすか考えさせるようにしている。(P.246-P.256) ・教科横断的な学習の充実に関する内容として、「地域調査の手法」では、高知県高知市を例に自由研究の手順を資料とともに示している。(P.143等)	・新しい単元に入る前に、キャラクターが学ぶ視点について吹き出しで記載してある。(P.183等) ・本文の記述の中に、参考にしたい資料の番号が記載してある。(P.10等) ・南アメリカ州のところでは、現地の人々のインタビューが記載してある。(P.118)	・見開きページの右下に、学習した内容をキャッチフレーズという形で考えさせるようにしている。(P.227等) ・各章のまとめのところでは、自分の言葉でまとめる学習活動がある。(P.52-P.53等) ・各章のまとめのところでは、更に学びを深めるために探究課題という学習活動がある。(P.125等)
教出	・1単位時間が見開きページとなっており、タイトルの下に学習課題を提示している。(P.10等) ・本文記述と関連があるページを下の欄に紹介している。(P.35等) ・見開き右側に、「確認」「表現」コーナーがある。(P.53等) ・北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土という内容を記載している。(P.24-P.25)	・単元の終わりに「第1章の学習を振り返って整理しよう」というコーナーが設けてあり、生徒が地図やグラフを使って、習った内容をまとめる学習ができるようになっている(P.46等)。	・世界の諸文化を言語と宗教(3大宗教)を中心に表記している。(P.44-P.45) ・「東北地方」の単元では、伝統的な生活・文化や災害からの教訓を受け継ぐ人々の暮らし、自然環境の特色を取り扱っている。(P.246-P.257) ・教科横断的な学習の充実に関する内容として、「現代日本の課題を考えよう」では、「林業と持続可能な未来-紀伊山地を例に」といった教材がある。(P.214等)	・世界の諸地域の節頭に地図と写真(P.48-49)、日本の諸地域の節頭に写真(P.174-P.175)がある。 ・キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を提示している。(P.182等) ・本文記述と関連のある図版・資料を示した番号を本文に記している。(P.190等) ・ワイド版(AB版)に合わせた大きさの資料や図が掲載している。	・章末に「学習のまとめと表現」のコーナーがある。(P.201等) ・単元の終わりの「学習のまとめと表現」において、意見交換をする活動が設定されている。(P.81等)
帝国	・1単位時間が見開き1ページとなっており、タイトルの横に学習課題を提示している。(P.4等) ・学習上、重要な語句を説明した「解説」がある。(P.75等) ・右下の脚注に「確認しよう」「説明しよう」を置き、学習した内容を確認することができる。(P.21等) ・地理の基本的な技能を身に付けるための、「技能をみがく」というコーナーがある。(P.5等) ・北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土という内容を記載している。(P.20-P.21)	・「身近な地域調査」では、テーマを決め、調査方法、野外調査、まとめまでの方法が詳細に明記している。(P.130-P.141) ・各節の最初に、生徒の学びを促すための問いを記載している。(P.96等)	・世界の宗教が、人々の生活とどのように関わっているか、2ページで記している。(P.42-P.43) ・東北地方の単元では、伝統的な生活・文化や災害からの教訓を受け継ぎ、その後の人々の取組を扱っている。(P.258-P.259,P.268) ・教科横断的な学習の充実に関する内容として、「地域の在り方を考える」では、「自然環境の再生から資源循環型社会へ」という教材がある。(P.186等)	・各州の節頭ページに、地域の姿を実感できるように、地図や写真を載せている。(P.48-P.49等) ・キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を提示している。(P.54等) ・本文記述と関連のある図版・資料を示した番号を本文に記している。(P.208等)	・章末の「節の学習を振り返ろう」では、基礎的な学習を押さえた上で、地理的な見方・考え方を働かせて、自分の言葉で説明するようにしている。(P.200-P.201等)
日文	・1単位時間が見開きページとなっており、タイトルの左に学習課題が提示している。(P.14等) ・ページの下に、復習として小学校で学習した問いを記載している。(P.142等) ・見開きページ右側に「確認」コーナーがあり、学習した内容を自分の言葉で説明する活動が設定されている。(P.167等) ・北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土という内容を記載している。(P.18-P.19)	・各章にアクティビティというコーナーがあり、みんなで調べたり、話し合ったりする学習活動が記載してある。(P.115等) ・各節の最初に、生徒の学びを促すために、「追究するテーマ」や「深めよう」というコーナーを記載している。(P.55,P.167等)	・世界の宗教が、人々の生活とどのように関わっているか、2ページで記している。(P.40-P.41) ・東北地方の単元では、伝統的な生活・文化や災害による社会の変化、震災からの復興と災害に強い地域づくりについて取り扱っている。(P.240-P.245) ・教科横断的な学習の充実に関する内容として、「自由研究」では「巨大地震にそなえる過疎地域の取り組み」といった教材がある。(P.190等)	・各州の節頭ページに、地域の姿を実感できるように、地図や写真が載っている。(P.44-P.45等) ・キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を提示している。(P.54等) ・本文記述と関連のある図版・資料を示した番号を本文に記している。(P.75等)	・章末の「学習のまとめ」では、学習した用語を問う問題を出題している。(P.205等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 社会（歴史的分野）

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・全体を7章構成とし、第1章で歴史学習の進め方を、第2章～第7章で章ごとに社会の変化と対応させてその内容を示している。 ・1単位時間の内容を見開きとしてタイトル右に「学習課題」として「どのような・どのように」という問いかけを記載しており、1単位時間における課題を提示している。 ・各見開きページの左下に世紀や時代を表すスケールを付け、この学習が全体の中でどの位置にあるかを示している。 ・1単位時間の学習課題に対するまとめを「チェック」として見開きページの右下に示している。 ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句解説欄の番号を入れている。 ・「読み取る」「まとめる」等の基礎的・基本的な技能を身に付けるために「スキルアップ」のコーナーを設けている。(P.25,P.33等) ・各章末に語句や年表を用いてその章の学習をふり返り、基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.58,P.94等)	・各章の冒頭に「導入の活動」として年表や絵画・写真資料等を入れている。活動を通して生徒が章の課題をつまむように構成し、「探究課題」と「探究のステップ」を明示している。(P.18-P.19,P.62-P.63等) ・掲載資料等をどのように読み解けば学習課題の追究に繋がるのかを理解させるために「見方・考え方」の欄を設けている。(P.26,P.32等) ・各章末にその章の探究課題をステップに沿ってまとめ、課題を解決するシートを掲載している。 ・各章末に「まとめの活動」として、思考ツール等を用いたまとめを行うようにしている。(P.60-P.61,P.96-P.97等) ・ICTを活用しての学習を進めやすくなるために「Dマーク」を付け、QRコードからインターネットを利用した学習ができるようにしている。(P.25,P.45等)	・巻頭で日本の国宝、重要文化財、巻末で主な史跡を紹介し、ページ内の資料等にも国宝や重要文化財、世界遺産のマークを入れている。 ・掲載資料に「分野関連マーク」「教科関連マーク」を入れ、他分野や他教科との関連内容について示している。(P.25,P.28,P.29等) ・各章末に「資料から発見」「もつと歴史」「地域の歴史を調べよう」で、人々の暮らしや地域の伝統文化等を紹介している。(P.52-P.57,P.88-P.93等)	・ユニバーサルデザインフォントを採用し、1ページあたりの行数を20行まで、1行あたりの文字数を28字としている。内容本文のページについてはほぼ全てのページを同一レイアウトとしている。 ・色彩デザインに関する専門家に編集協力を依頼し、全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインされている。また、特別支援教育に関する校間も行われている。 ・先生と生徒のキャラクターが章始めの学習課題設定の場面と章末の学習課題の解決場面で登場し、学習を促すことばをかけている。(P.18-P.19,P.59-P.61等) ・章始めの年表等に歴史上の人物を漫画絵で表現したり、「導入の活動」に時代の様子を表現する絵を使用している。(P.18,62等)	・グループで対話的に取り組む「みんなでチャレンジ」を入れている。(P.19,P.22等) ・1単位時間の学習課題に対するまとめの「チェック」の後に、文章表現を行わせる「トライ」を見開きページの右下に付けている。 ・各章末に「まとめの活動」として、思考ツール等を用い、分析や考察に基づいて時代の特色を文章でまとめるようにしている。(P.60-P.61,P.96-P.97等)
教出	・全体を7章構成とし、第1章で歴史学習の進め方を、第2章～第7章で章ごとに社会の変化に対応させてその内容を示している。 ・1単位時間の内容を見開きとしてタイトルの下に「学習課題」として「どのような・どのように」という問いかけを記載しており、1単位時間における課題を提示している。 ・各見開きページのタイトル上に世紀や時代を表すスケールを付け、この学習が全体の中でどの位置にあるかを示している。 ・1単位時間学習課題に対するまとめを「確認」として見開きページの右下に付けている。 ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句解説欄の番号を入れている。 ・問いを通じて歴史学習の基礎的・基本的な技能を身に付けるために「歴史の技」のコーナーを設けている。(P.8-P.9,P.23等) ・各章末に地図や年表を用いてその章の学習をふり返り、基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.56-P.57,P.92-P.93等)	・各章の冒頭に登場人物が章の課題を出している。次ページに「学習を始めよう」を入れ、絵画資料等をから時代の様子を探り章の学習への導入としている。(P.17-P.19,P.59-P.61等) ・掲載資料等をどのように読み解けば学習課題の追究に繋がるのかを理解させるために「読み解こう」の欄を設けている。(P.75等) ・各章末にその時代の特色をまとめる活動がある。(P.58,P.94等) ・ICTを活用しての学習を進めやすくなるために章始めに「まなびリンク」を付け、QRコードからインターネットを利用した学習ができるようにしている。(P.17,P.59等)	・巻頭で「私たちにつながる歴史」として伝統行事等を巻末で主な道跡や史跡を紹介し、ページ内の資料等にも国宝や重要文化財、世界遺産のマークを入れている。 ・ページ下に「関連」を付け、他分野との関連内容について記述している。(P.140等) ・「身近な地域の歴史を調べよう」「歴史を探ろう」で、人々の暮らしや地域の伝統文化等を紹介している。(P.36-P.37,P.52-P.55等)	・ユニバーサルデザインフォントを採用し、1ページあたりの行数を23行まで、1行あたりの文字数を29字としている。内容本文のページについてはほぼ全てのページを同一レイアウトとしている。 ・色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮されている。また、特別支援教育監修も行われている。 ・先生と生徒のキャラクターが各所に登場し、学習課題を出したり資料に対する問いを立てている。 ・章始めの「学習を始めよう」では想像図や絵画・写真資料を大判で入れている。(P.18-P.19,P.60-P.61等)	・1単位時間の学習課題に対するまとめの「確認」の後に、文章表現を行わせる「表現」を見開きページの右下に付けている。また、各節末には「〇節をとらえる」として節の学習課題に対するまとめを文章で表現するようにしている。 ・各章末に「学習のまとめと表現」として、政治や文化について説明させたり、時代のまとめやその理由を文章で表現するようにしている。(P.58,P.94等)

帝国	・全体を第1部・第2部とし、第1部では歴史学習の進め方を、第2部を第1章～第6章に分けて章ごとに社会の変化に対応させてその内容を示している。 ・1単位時間の内容を2～3ページ分とし、タイトルの右に「学習課題」として「どのような・どのように」という問いかけを記載しており、1単位時間における課題を提示している。 ・各見開きページの右端に世紀や時代を表すスケールを付け、この学習が全体の中でどの位置にあるかを示している。 ・1単位時間の学習課題に対するまとめを「確認しよう」として見開きページの右下に付けている。 ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句解説欄の記号を入れている。 ・歴史学習の基礎的・基本的な技能を身に付けるために「技能をみがく」のコーナーを設けている。(P.5,P.7,P.8等) ・各章末に地図や年表を用いてその章の学習をふり返り、基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.56～P.57,P.92～P.93等)	・各時代ごとに「タイムトラベル」として、当時の町並み等の絵の読み解きから各時代の学習への導入としている。章ごとにはタイトル下に「章の問い」を明示している。(P.14,P.24,P.25等) ・各章末に「章の学習を振り返ろう」として、章の問いに対するまとめを行うようにしている。(P.56～P.57,P.92～P.93等) ・ICTを活用しての学習を進めやすくするために章始めと「タイムトラベル」や章末のタイトル横にQRコードを付け、インターネットを利用した学習ができるようにしている。(P.14,P.24,P.56等)	・巻頭で「日本各地の伝統行事と祭り」として伝統行事等を巻末で「歴史の舞台を訪ねよう」として主な遺跡や史跡を紹介し、ページ内の資料等にも国宝・世界遺産のマークを入れている。 ・文化に関わる内容のページは資料を多く入れて4ページ扱いとしている。(P.44～P.47,P.52～P.55等) ・ページ下に「小学校・地理・公民との関連」を付け、小学校での学習内容や他分野との関連内容について記述している。 ・「地域史」「歴史を探ろう」で、人々の暮らしや地域の伝統文化等を紹介している。(P.31,P.32～P.33等) ・各時代ごとの「タイムトラベル」ではその時代の様子を表現する想像図を大判で入れている。(P.24～P.25,P.34～P.35等)	・歴史について多面的・多角的に思考する「多面的・多角的に考えてみよう」を入れている。(P.144～P.145,P.188～P.189等) ・1単位時間の学習課題に対するまとめの「確認しよう」の後に文章表現を行わせる「説明しよう」を見開きページの右下に付けている。また、各節末には「第〇節の問いを振り返ろう」として節の学習課題に対するまとめを文章で表現するようにしている。 ・各章末に「章の学習を振り返ろう」として、その中に「歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう」を入れ、各章の学習課題についてステップごとに時代のまとめを表現するようにしている。
山川	・全体を7章構成とし、第1章で歴史学習の進め方を、第2章～第7章で章ごとに社会の変化に対応させてその内容を示している。 ・1単位時間の内容を見開きページとし、タイトルの下に学習の課題を「どのような・どのように・なぜ」という問いかけを記載しており、1単位時間における課題を提示している。 ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句解説欄の記号を入れている。 ・各ページの写真やグラフ等に関連してその見方や考え方を示す欄を設けている。 ・各章末に地図等を用いてその章の学習をふり返り、語句等について基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.60等)	・各章冒頭の見開きページで、写真資料等と年表を入れてその時代を概観し、学びの方向性の記述とともに章の学習への導入としている。(P.14～P.15,P.62～P.63等) ・各章末にその時代の特色を表を用いてまとめを行うようにしている。 ・ICTを活用しての学習を進めやすくするために資料等の横に「くわしく見てみよう」としてQRコードを付け、インターネットを利用した学習ができるようにしている。(P.25,P.47等)	・巻頭で日本の世界遺産を紹介し、ページ内の資料等にも国宝や世界遺産のマークを入れている。 ・「歴史を考えよう」で各時代の文化財等を詳しく取り上げている。(P.56～57,76～77等) ・「地域からのアプローチ」「歴史へのアプローチ」で、人々の暮らしや地域の伝統文化等を紹介している。(P.32～P.33,P.46～P.47等)	・1ページあたりの行数が最大限の34行まで、1行あたりの文字数を32字としている。内容本文のページについては様々なパターンのページレイアウトがある。 ・色覚の個人差を問わず、多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮している。 ・2,8,13,16,18世紀については「〇世紀の世界」として、その当時の世界の様子を地図を中心に絵で表現している。(P.26～P.27,P.48～P.49等) ・1単位時間のまとめとして「ステップアップ」を見開きページの右下に付けている。 ・各章末にその時代の特色を文章を用いてまとめを行うようにしている。(P.60～P.61,P.100～P.101等)
日文	・全体を1編構成とし、第1編で歴史学習の進め方を、第2編～第6編で編ごとに社会の変化に対応させてその内容を示している。また、第5編は第1章と第2章に分けて構成している。 ・1単位時間の内容を見開きページでまとめ、タイトルの左に「学習課題」として「なぜ・どのように・どのような」という問いかけを記載しており、1単位時間における課題を提示している。 ・各見開きページの右端に世紀や時代を表すスケールを付け、この学習が全体の中でどの位置にあるかを示している。 ・1単位時間の学習課題に対するまとめを「確認」として見開きページの右下に付けている。 ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句解説欄の記号を入れている。 ・歴史学習の基礎的・基本的な技能を身に付けるために、基本用語の説明や「スキルUP」のコーナーを設けている。(P.8,P.9,P.41,P.57等) ・各編末に地図や年表を用いてその章の学習をふり返り、基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.62,P.104,P.156等)	・各編冒頭の見開きページに前後の時代を象徴する絵画・写真資料等を入れ、それらを見比べる活動を導入としている。ページ内に編の「めあて」を明示し、次の見開きページには年表と世界地図等を入れてその時代の世界の動きを表している。(P.14～P.15,P.64～P.65等) ・各編末に「アクティビティ」として、時代の特色をまとめる活動を行うようにしている。(P.63,P.105等) ・どのような視点で学習を進めれば学習課題の追求に繋がるのかを理解させるために「見方・考え方の欄」を設けている。(P.20等) ・ICTを活用しての学習を進めやすくするために「デジタルマーク」を付け、QRコードからインターネットを利用した学習ができるようにしている。(P.107,P.149等)	・巻頭で「私たちと歴史とのつながり」として伝統行事や衣食住を巻末で主な史跡を紹介し、ページ内の資料等にも国宝や世界遺産のマークを入れている。 ・文化に関わる内容のページは資料を多く入れて4ページ扱いとしている。(P.48～P.51,P.78～P.81等) ・ページ下に「小学校」「公民」等小学校での学習内容や他分野との関連内容について記述している。 ・生活の向上や文化の発展、平和などに取り組んだ先人を紹介する「先人に学ぶ」を入れている。(P.79,P.131,P.140等) ・「地域に学ぶ」で日本各地に残る文化や伝統について触れている。(P.39,P.85,P.92等)	・ユニバーサルデザインフォントを採用し、1ページあたりの行数が最大限の31行まで、1行あたりの文字数を30字としている。内容本文のページについては数パターンのページレイアウトがある。 ・特別支援教育・カラーユニバーサルデザインに関する校閲を行い、カラーユニバーサルデザインに配慮している。 ・先生と生徒のキャラクターが各所に登場し、学習課題を出したり資料に対する問いを立てている。 ・第1編始めには歴史上の人物を漫画絵で表現したり、編始めのページには絵画・写真資料を大判で入れている。(P.6～P.7,P.14～P.15等) ・編始めに「地図で見る世界の動き」として地図を中心に当時の世界の様子を写真や絵で表している。(P.16～P.17,P.66～P.67等) ・1単位時間ごとに示された見方・考え方に対応した表現活動として「深めよう」が設定されている。 ・各編末に「アクティビティ」として、着目点を絞ってその時代の特色について説明させたり、時代のまとめを文章で表現するようにしている。(P.63,P.105等)

育鵬社	・全体を序章～第6章で構成し、第1章～第3章を第1部、第4章～第6章を第2部としている。序章で歴史学習の進め方を、第2章～第7章で章ごとに社会の変化に対応させてその内容を示している。 ・1単位時間の内容を見開きページとし、タイトルの下に「何ができるでしょう」「調べてみましょう」「どのような」という表現で記載しており、1単位時間で追究する課題を提示している。 ・各章末に地図や年表を用いてその章の学習をふり返り、基礎的・基本的な事項についてまとめる部分を設けている。(P.66～P.67,P.100～P.101等) ・本文中の行間に掲載史料のページや番号を入れたり、ページ端にある語句説明欄の番号を入れている。 ・本文の内容や登場人物を詳しく解説するために「歴史ビュー」「人物クローズアップ」の欄を設けている。(P.35,P.37,P.61等)	・各章の冒頭見開きページに「歴史絵巻」としてその時代の流れを人物や出来事の絵で紹介し、次の2ページで絵画や写真資料等を読み取る活動を入れて章の学習への導入としている。 ・章末に「『私の博物館』をデザインしてみよう」を入れ、学習活動で捉えたその時代の特色を自らでまとめるようにしている。(P.65,P.99,P.151等)	・巻頭4ページを「日本の美の形」として文化財を巻末4ページで主な世界遺産や遺跡・史跡を紹介し、ページ内の資料等にも国宝や世界遺産のマークを入れている。 ・各章の始めに「海洋国家・日本の歩み」として船舶に関する資料を入れている。(P.19,P.69,P.103等) ・日本の文化や国の成り立ちに関わるテーマを取り上げ、「歴史ズームイン」として掲載している。(P.28～P.29,P.44～P.45等)	・1ページあたりの行数を23行まで、1行あたりの文字数を30字としている。内容本文のページについては、ほぼページを同一レイアウトとしている。 ・先生と生徒のキャラクターが各所に登場し、学習課題を出したり資料に対する問いを立てている。 ・章始めの「歴史絵巻」で歴史上の人物や出来事を漫画絵で表している。(P.20～P.21,P.70～P.71等)	・1単位時間の学習課題に対するまとめとして文章表現を行わせる欄を見開きページの右下に付けている。 ・各章末に「学習のまとめ」として政治や文化について年表や資料からその説明を文章で表現するようになっている。(P.66～P.67,P.100～P.101等)
学び舎	・見開きごとにタイトルを「一つにつながるユーラシア」「悪党の世の中」等の項目で示し、タイトル右横に「モンゴル帝国」「南北朝の内乱と室町幕府」等の学習事項を示している。見開きごとには課題を提示していないが、章ごとに「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で学習課題を提示している。 ・大項目の導入の見開きページに、写真や絵図で歴史的対象を掲載している。また、それぞれの対象が関連する位置を掲載した地図に示すことで、学習への興味・関心を高めている。 ・各章のはじめに学習課題を示している。	・「歴史を体験する」コーナーがあり、事例を紹介している。	・世界遺産や史跡を写真や地図で紹介している。	・歴史地図・グラフ 歴史地図・グラフ 歴史地図・グラフをカラーユニバサルデザインにしている。	・部の学習まとめでは、時代の特徴と時代の転換を振り返りながら、自分の言葉で表現するようにしている。

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 社会（公民的分野）

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル右横に「どのように」「どのような」という問いかけを記載しており、小単元で追究する課題を提示している。 ・見開きページの最後に「チェック」を設定し、小単元の学習内容の中心となるキーワードなどを本文から抜き出す形で提示している。 ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるための具体例として学校でのトラブルを絵図で示し、解決のための話し合いの様子や経過を紹介している。(P.25-P.31) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「領土をめぐる問題の現状」を設定し、竹島や北方領土、尖閣諸島をめぐる問題について、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組を文章や写真、地図、新聞記事で示している。(P.184-P.185) ・国旗・国家に関する記述については、本文に項目「国旗と国歌」を設け、写真「独立を喜ぶ南スーダンの人々」(P.182)「国際連合本部の前に並ぶ加盟国の国旗」(P.183)を示している。 ・小単元「平等権①」で部落やアイヌ民族、在日韓国・朝鮮人への差別問題について記述し「もっと公民」でアイヌ民族やLGBTについて示したり(P.72-74)、「公民にアクセス」と題し、学習内容の関連資料として「ハンセン病」についての記述がある。(P.49) ・大単元に「基礎・基本のまとめ」を設け、学習した用語を説明したり図中の空欄に語句を入れる活動などを行うようにしている。(P.121等)	・大単元の導入において、2～3枚の写真を掲載し、それぞれのキャラクターに「どのように」「どのような」「何がらがうのか」などの問いを示している。(P.75等) ・学習の導入の活動として、「だれを市長に選ぶ？」を設定し、大単元の探究課題へとつなげている。(P.76-P.77) ・中単元では、「探究のステップ」として問いを示している。(P.78等) ・持続可能な社会のために解決すべき課題として「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つを設定し、「5つのテーマの中から、解決すべき課題を設定」する「資料を集め、探究」する。「アクションプランとしてレポートにまとめ」という方法で課題解決の手順を示している。 ・QRコードや「Dマーク」を示し、インターネットを用いて他の分野や他教科と関連させて学習ができるようにしている。	・全体を6章構成とし、第1章で大きな現代社会の見方・考え方を示し、第2章から第5章で章ごとに「人権」「政治」「経済」「国際」を、終章でSDGsの実現に向けた学習内容を示している。 ・中単元において、見開きごとにタイトルを「私たちの生活と文化の役割」「伝統文化と新たな文化の創造」「多文化共生を目指して」の項目で示している。(P.18-P.22) ・巻頭・巻末に「伝統・文化」「環境・エネルギー」「人権・平和」「防災・安全」「情報・技術」に関する写真を掲載している。 ・大単元の導入ページにおいて、関連する「小学校の社会で習ったことば」を示している。(P.37等) ・掲載資料に「分野関連マーク」や「教科関連マーク」を入れ、他分野や他教科との関連内容について示している。(P.124-P.125等) ・本文の背景は白、写真や図表本文以外の背景には色が付けられている。	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・単元導入の資料には、キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を示したり、学習活動を促したりしている。 ・資料には見開きごとに通し番号が付けている。 ・「18歳へのステップ」として、選挙の公示から議員決定までの流れを写真や図を用いて、見開き1ページで示し、18歳に向けて準備するページを設けている。(P.88-P.89)	・見開きページ目の最後に学習内容の要約や説明をする「トライ」を設定している。 ・大単元末に中単元の「探究のステップの問いを解決しよう」と題し、「ランキング」や「ウェビングマップ」等の思考ツールを用いて整理・分析を行い、理由を記入するスペースを設けている。(P.32-P.33) ・大単元の導入に「導入の活動」、大単元末に「まとめの活動」を設け、ディベートや企画を発表する等の活動を設定している。(p.176-P.177等)
教出	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル及び学習内容を明記し、「どのように」「どのような」という問いかけを記載しており、小単元で追究する課題を提示している。 ・見開きページ目の最後に「確認」を設定し、小単元の学習内容の中心となるキーワードなどを本文から抜き出したり、説明する形で提示している。 ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために「合唱コンクールの練習」や「ごみ収集車の新たな設置」を例に、ルールについて考えたり、ルールをつくらする過程を絵図で示している。(P.28-P.31) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「日本の領土をめぐる」を設定し、「読んで深く考えよう」で「日本と近隣諸国との外交関係」として「中国との外交関係」「北朝鮮との外交関係」を文章と写真で示している。(P.198-P.199) ・国旗・国歌に関する記述については、本文に項目「国旗と国歌」を設け、「南アフリカ共和国の国旗の変化」や「公民の意 国旗と国歌の歴史」を示している。(P.194-P.195) ・「差別をしない、させない平等権①-」で部落やアイヌ民族、外国人に対する差別について記述し「読んで深く考えよう」で、ハンセン病問題やLGBTについての読み物資料を示している(P.48-P.49、P.52)。 ・大単元末に「学習のまとめと表現」を設け、基礎から応用へ「STEP 1～3」までを設定している。(p.34-P.36等)	・大単元の導入において、3～4枚の写真を掲載し、写真に関する説明文とページ数が示してある。(P.191等) ・学習の導入として、「地方議会ウォッチングに行こう」と題し、地方議会について触れている。また、「学習の見直し」を示し、単元を貫く問いを設定している。(P.82-P.83) ・中単元では、それぞれタイトルの下に問いを示している。(P.78等) ・持続可能性を妨げる主な課題として「環境・資源」「平和・人権」「経済」「健康」「教育・文化」「情報」「犯罪」の7つのテーマを設定する。その中から1つテーマを選び、「私の提案」自分を変える。社会を変える。」をつくる。(P.230-P.231) ・大単元の導入ページにおいて、「まなびリンク」と題し、QRコードを設け、インターネットを用いた学習ができるようにしている。	・全体を7章構成とし、第1章で大きな現代社会の見方・考え方を示し、第2章から第6章で章ごとに「人権」「政治」「経済」「社会」「国際」を、終章でSDGsの実現に向けた学習内容を示している。 ・中単元において、見開きごとにタイトルを「豊かな生活を実現するために暮らしの中の文化」「伝統文化の継承と文化の創造 グローバル化する社会と日本の文化」の項目でしめしている。(P.20-P.23) ・巻頭に「伝統・文化・自然を受け継ぐ」「国際社会で活躍する」「科学・技術が進歩する」「未来への思いをつなぐ」に関する写真をそれぞれ3枚掲載している。巻末には、「持続可能な未来を目指す人々」と題し、写真や文章を掲載している。 ・小単元ごとの学習内容と関連する小学校での学習内容が見開き左ページの下に示している。(P.66-P.67) ・小単元ごとの学習内容と関連する分野や教科の学習内容が見開き左ページの下にある。SDGsの目標との関連が見開き右ページの下に示している。(P.130-P.131等)	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・単元導入の資料には、キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を示したり、学習活動を促したりしている。 ・資料には見開きごとに通し番号が付けている。	・見開き2ページ目の最後に学習内容に関して自分の言葉で説明する「表現」を設定している。 ・大単元末の「学習のまとめと表現」では、「STEP3 第1章全体のテーマについて、次の問いに答えよう」のように、「章の問い」への答えを理由とともに考えさせる活動を設定している。(P.36等) ・特設ページ「言葉で伝えあおう」を6テーマ設定し、表現活動を中心としたテーマ学習を設定している。(P.68-69等)

帝国	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル右横ら「どのような」という問いかけを記載しており、小単元で追究する課題を提示している。 ・見開きページ目の最後に「確認しよう」を設定し、小単元の学習内容の中心となるキーワードなどを本文から抜き出す形で提示している。 ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために「防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう」を例に①状況を確認する②設置場所を話し合うという課題を絵図で示している。(P.17-P.20) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「領土をめぐる取り組み」を設定し、北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる問題について取り扱っており、写真「海上保安庁の船に挟まれた中国船」、その右側に「尖閣諸島を巡って」という解説文を掲載している。(P.175-P.176) ・国旗・国歌に関する記述については、本文に項目「国旗と国歌」を設け、写真「ビョンチャンオリンピックで優勝し、日の丸を掲げて喜ぶチームバシュートの選手たち」を示している。(P.173) ・小単元「平等権と差別されない権利」で部落差別について(P.45-46)、「日本社会の差別の現実」でアイヌ民族、在日外国人、病気・障害者への差別について記述し(P.47-48)、「未来に向けて」でアイヌ民族(P.48)、「よりよい社会を目指して」では、「偏見や差別をなくすために」と題し、ハンセン病や部落差別について示している。 ・大単元末に「章の学習を振り返ろう」で「まなんだことを確かめよう」を設け、学習した用語を一問一答形式で確認したり、図中の空欄に語句を入れる活動などを行うようにしている。(P.105-P.106等)	・大単元の導入において、「学習の前に」を設け、大単元の学習内容と身近な生活とをリンクさせる活動が設定されている。(P.107-P.108等) ・大単元の学習の導入の活動として「学習の前に」と題し「私たちの暮らしと憲法の関係を見てみよう」を設定し、大単元の学習内容を概観するよう示している。(P.27-P.28) ・大単元ごとに「章の問い」を設け、中単元ごとに問いを示している。(P.173等) ・持続可能な社会のために「これまでに挙がった課題」として「現代社会」「政治」「経済」「国際」の4つを「設定」「課題を決め」「資料を集め」「考察し」「レポート」にまとめるという方法で課題解決の手順を示している。(P.204-P.210) ・QRコードを示し、インターネットを用いて学習ができるようにしている。	・全体を4部構成とし、第1部で大まかな現代社会の見方・考え方を示し、第2部から第4部で「政治」「経済」「国際」についての学習内容を示している。 ・文化に関わって、中単元において、見開きごとにタイトルを「生活に思いつく文化」「日本の伝統と文化」の項目で示している。(P.9-P.12) ・巻頭「伝統・文化」に関する写真を掲載している。巻末には、「防災・減災を通じた社会参画」の取組を写真とその説明で示している。 ・大単元の導入左ページ上に「小学校との関連」を文章と写真で示している。(P.2等)	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・資料には見開きごとに通し番号が付けてある。 ・「先輩たちの選択」でインタビュー形式で国会議員等の仕事を紹介している。(P.85-P.86)	・見開き2ページ目の最後に「学習内容をもとに理由や役割を説明をする」「説明しよう」を設定している。 ・大単元末に「章の学習を振り返ろう」「2 見方・考え方を働かせて考えよう」で「自分の考えを整理しよう」「意見交換を通して自分の考えを深めよう」「章の問いへの答えを理由とともに考えよう」の3ステップで「章の問い」への答えを理由とともに考えさせる活動を設定している。(P.106等) ・特設ページ「アクティブ公民」を10テーマ設定し、ディベート等の活動を設定している。(P.67-P.68等)
日文	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル左に「どのような」という学習課題を記載しており、その下に「見方・考え方」を示し、小単元で追究する課題を提示している。 ・見開きページの最後に「確認」を設定し、小単元の学習内容の中心となるキーワードなどを本文から抜き出したり、説明したりする形で提示している。 ・「アクティビティ」で「きまりについて考えよう」「合意する方法について考えよう」「効率と公正の考え方」「きまりの変更について評価してみよう」という課題を設定している。(P.25-P.31) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「日本の領土をめぐる問題」を設定し、「公民+α」では「日本の領土をめぐる問題の解決に向けて」と題し、北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる問題についてそれぞれの問題の整理と領土解決に向けた世界の取組を文章と写真と地図で示している。(P.182-P.185) ・国旗国歌に関する記述については、本文の項目「国家と国家主権」中に記述があり、写真「平昌オリンピックで入賞し、自国の国旗を掲げる選手」「試合前に国歌を斉唱するサッカー日本代表の選手」を示している。(P.180) ・小単元「差別のない社会へ」で部落、アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人への差別問題について記述し(P.52-53)、「公民+α」で、ハンセン病について説明し、新聞記事を掲載している。(P.57) ・大単元末に「学習の整理と活用」で「学習内容と語句の整理」を設け、学習した用語を説明したり、図中の空欄に語句を入れる活動などを行うようにしている。(P.32等)	・大単元の導入において、漫画を通して、大単元の「見方・考え方」をとらえ、学習内容につなげるよう示している。(P.34-P.35等) ・持続可能な社会のためのレポートを作成するため、「伝統・文化」「政治・経済」「人権・平和」「環境・科学・技術」の中から「テーマを設定」し、「資料の収集と読み取り」「考察と構想」「まとめと評価」という手順を示している。(P.212) ・デジタルマークを示し、ウェブページにあるデジタル資料を参照できるようにしている。(P.11等) ・デジタルマークを示し、ウェブページにあるデジタル資料を参照できるようにしている。(P.11等)	・全体を6編構成とし、第1編で大まかな現代社会の見方・考え方を示し、第2編(第1章と第2章に区分している)から第5編「人権」「政治」「経済」「国際」を、終章でSDGsの実現に向けた学習を示している。 ・文化に関わって、中単元において、見開きごとにタイトルを「現代社会における文化」「日本の伝統文化の特徴と多様性」「世界の中の日本の文化」の項目で示している。(P.18-P.23) ・巻頭に「これからの社会をどんな社会にしたい?」と題し、SDGsに関連した写真を掲載し、その中で「伝統・文化」に関する写真を1枚示している。 ・大単元の導入ページの下に小学校の学習内容との関連を示している。(P.34等) ・小単元ごとの学習内容と関連する分野の学習内容を想起させるような問いを、見開き左ページの下に示している(P.88等) ・見開き左ページの「導入資料」の背景には色を、それ以外の背景は白でページが構成されている。	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・単元導入の資料には、単元に関わる漫画を掲載し、キャラクターが吹き出しで単元全体の学習活動を促す問いを示している。(P.34-P.35) ・資料には見開きごとに通し番号が付けてある。 ・「明日に向かって-私たちの社会参画-」で「町のバリアフリーを探そう-大阪府堺市-」と題し、写真や点字を掲載し、バリアフリー化の取組について紹介するなど「社会に参画するための手がかり」のページを設けている。(P.50-P.51等)	・見開きページごとに示された見方・考え方に対応する学習活動として、「ふかめよう」が示されている。 ・大単元末に「学習の整理と活用」で「ニュースを『見方・考え方』から見てみよう」を設け、新聞記事から読み取った内容を単元の学習内容と関連させて説明させたり、「シンキングツール」を使って解決策を考えさせる活動を設定している。(P.120-P.121等) ・特設ページ「チャレンジ公民」を4テーマ設定し、身近なテーマについて意見を述べたり、判断したりする活動を設定している。(P.75-P.209等)

自由社	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル下に「どのように」「どのような」という問いかけを記載しており、小単元で追究する課題を提示している。 ・見開きページ目の最後に「ここがポイント」を設定し、小単元の学習内容の要点を最大3点提示している。 ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために「体育館使用問題」を事例に「①対立」「②合意形成と目的に関する考察」「③合意形成後の対立」「④きまりをつくる」を文章で示している。(P.36-P.39) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「国家と国際関係」中に、項目「我が国の領域に関する課題」を設け、竹島や北方領土、尖閣諸島をめぐる問題について触れ(P.166-167)、「もっと知りたい」で「我が国の領土問題」と題し、それぞれの問題が起こった経緯や現状を文章と写真で示している。(P.170-P.171、P.174-P.175) ・国旗国歌に関する記述については、本文に項目「国旗と国歌」を設け、写真「リオデジャネイロオリンピック開会式」(P.165)を示している。「もっと知りたい」で「国旗と国歌を考えてみよう」と題し、日本の国旗や国歌の意味外国での扱いについて示している。(P.168-P.169) ・「もっと知りたい」で「権利の平等に関する問題」と題し、部落差別問題や外国人参政権について文章で示している。(P.78) ・大単元末に「学習のまとめ」を1ページ設け「最重要語句」を手掛かりに、語句の意味や単元について理解した内容を文字数を指定して説明させる「3つの問題」に挑戦するよう促している。(P.206等)	・大単元の導入において、文章と挿絵で表現し、「どのように」「どのような」という問いを示している。(P.1、P.43等) ・「持続可能な日本社会のために私たちに何ができるか」を考え「卒業論文」を作成する手順を「課題を見つけよう」「選択した課題について調べよう」「解決の方法を考えてみよう」という手順を示している。(P.216-P.217)	・全体を7章構成とし、第1章で大まかな現代社会の見方・考え方を示し、第2章から第5章で章ごとに「立憲国家」「人権・政治」「経済」「国際」を、終章でSDGsの実現に向けた学習内容を示している。小単元を全て通し番号で示している。 ・中単元において「文化の継承と創造」の項目を示し(P.12-13)、「もっと知りたい」で「日本人の精神」「科学とは何だろう」「芸術と何だろう」「宗教とは何だろう」と8ページにわたって「伝統・文化」に関連した内容を文章と写真で示している。(P.14-P.21) ・巻末に「職人技が生み出した日本の伝統的工芸品」と題し、全国各地の伝統工芸品を写真と地図で示している。巻頭では「すごいぞ日本の技術」と題し、「世界に誇る日本の先端技術」を写真と解説で示している。	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・キャラクターが吹き出しで問いや学習内容の要点を示したりしている。(P.136等) ・「もっと知りたい」で「選挙制度と政治参加」「選挙制度と政治の関係を写真やグラフ、文章で示している。(P.90-P.91)	・見開きページの最後に「やってみよう」を設定し、小単元の学習内容に関連する事柄について説明したり、調べたりする活動を設定している。(P.29等) ・大単元末の「学習のまとめと発展」「学習の発展」で課題を1つ選び、約400字にまとめる活動を設定している。(P.42等) ・特設ページ「アクティブに深めよう」を8テーマ設定し、話し合い等の活動を設定している。(P.52-P.53等)
育鵬社	・小単元の内容を見開きページとし、タイトル右横に「どのように」「どのような」という問いかけを記載しており、小単元で追究する課題を提示している。 ・現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるために「昼休みのグラウンド使用について考えよう」を絵図で示し、解決のための話し合いの様子や経過を紹介している。(P.31) ・領土をめぐる問題等に関する取り扱いについては、小単元「領土をめぐる問題」を設定し、北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題について扱ったり(P.186-187)、「学習を深めよう」で「日本の領土をめぐる問題」と題し、それぞれの問題が起こった経緯や双方の主張、解決に向けた取組を文章や地図、年表を用い示したりしている。(P.188-P.189) ・国旗・国歌に関する記述については、本文に項目「国旗と国歌」を設け、写真「オリンピック表彰式での国旗掲揚の様子」を示したり「学習を深めよう」で「国歌『君が代』の意味」を文章や他国の国歌の日本語訳を掲載し紹介したりしている。(P.181) ・小単元「ともに生きるために」で障害者、外国人、部落差別問題について記述し(P.58-59)、「学習を深めよう」「『共に生きる』ためにできること」と題し、多文化共生社会や部落、アイヌ民族、ハンセン病に関する内容を文章と写真で示している。(P.60-P.61) ・大単元末に「学習のまとめ」を1ページ設け、重要語句の確認や、図中の空欄に語句を入れる活動などを行うようにしている。(P.74等)	・大単元の導入において、3枚の写真を掲載し、それぞれの写真に関する説明とキャラクターに「どのように」「どのような」などの問いを示している。(P.7等) ・学習の導入として、「政治の入り口」と題して、ある市での「救急車をタクシー代わりに使う人が増加」しているという課題をロールプレイングを通して解決策を話し合う活動を設定し、大単元の探究課題へとつなげている。(P.76-P.77) ・持続可能性を妨げる主な課題として「社会」「政治・経済」「国際」「環境・食料」の4つのテーマを設定し、「テーマを決めよう」「課題探究の計画を立てよう」「プレゼンテーションしよう」内容の見直し、「レポート作成」の手順を示している。(P.203-P.208)	・全体を5章構成とし、第1章で大まかな現代社会の見方・考え方を示し、第2章から第5章で章ごとに「人権」「政治」「経済」「国際」の学習内容を示している。 ・中単元において、見開きごとにタイトルを「文化の意義と影響」「日本の伝統文化」「文化の継承と創造」の項目で示し、「やってみよう」で「身近な祭りを調べてみよう」と題し、調べ学習を提案し、全国の主な祭りを地図や写真で示している。(P.18-P.25) ・巻末に「持続可能な社会をめざして」と題し、SDGsに関する写真を掲載している。巻頭では、「持続可能な開発目標」に関連する写真とともに示している。 ・大単元の導入ページにおいて、関連する小学校の社会で習った語句を示している。(P.35等) ・上部の資料の背景には色を、タイトル以下本文の背景は白で見開きを構成している。	・本文に関連のある資料や写真を表記している。 ・単元導入の資料には、キャラクターが吹き出しで資料を読み取る視点を示したり学習活動を促したりしている。 ・資料には見開きごとに通し番号が付けてある。	・見開きページの最後に課題に対してまとめるなどの表現活動が設定されている。 ・大単元末に「学習のまとめ」を1ページ設け、学習内容を踏まえて、自分の意見を説明する活動を設定している。(P.74等) ・特設ページ「やってみよう」を13テーマ設定し、ディベート等の活動を設定している。(P.101等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 地図

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・巻頭に「この地図帳の地図記号」を掲載している。(P.4) ・現代社会の課題として「SDGs」17の課題が一覧で示されている。(P.7-P.8) ・地図帳各所に関連資料掲載ページを示す「ジャンプ」マークが示されている。(P.47等) ・巻末の「日本の周辺」に日本の領土について、その範囲と国境の島々の写真を6枚掲載している。(P.190) ・「日本の自然環境(災害・環境問題)」で地震や気象災害、津波についての資料図がある。(P.151)	・巻頭に「ICTを活用した学習」として東書ホームページへのQRコードが掲載されている。(P.3) ・「世界旅行」をするという設定の友達と先生のキャラクターが資料の見方・考え方を示している。(P.8等) ・歴史的分野や公民的分野との関連性のある資料には、「歴」や「公」のマークがある。(P.57他) ・歴史関連ページがある。(P.95-P.96) ・「近畿地方のテーマ資料②」に京都と奈良の観光地をイラストで表した地図がある。(P.111-P.112) ・世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に基本資料とテーマ資料を掲載している。	・書籍のサイズは、AB版である。 ・配列は、①この地図帳の活用方法・世界の資料図、②世界の諸地域、③日本の諸地域、④日本の資料図、⑤統計、⑥索引となっている。 ・「世界」「日本」「統計」「さくいん」に分類し、インデックスを大きく4つに分類している。 ・同縮尺東京都のシルエットを描いている。(P.144)	・「世界の気候」において、各気候帯の図版を9つ掲載している。(P.18) ・著作関係者に特別支援教育と色彩デザインに関する校閲・編集協力の担当者がいる。 ・広域地図、大陸地図は4500万分の1～9000万分の1で表記されている。(P.29-P.30等) ・日本全図は550万分の1～1600万分の1で表記されている。(P.85-P.86等) ・世界各州の「基本資料」に鳥瞰図があり、陸地と海底の起伏について表現されている。(P.31等)	・地図帳各所に関連資料掲載場所を示す「ジャンプ」マークが示されている。(P.47等) ・巻頭で「この地図帳の活用方法」において、ヨーロッパ州を例に挙げ、地図を活用した調べ方を記載している。(P.5-P.6)
帝国	・巻頭に「この地図帳の凡例」を掲載している。(P.4) ・持続可能な社会を実現するために「環境問題」の記載が図版とともにある。(P.13-P.14) ・別ページにある関連資料がある場合は、内容とページを緑色の文字で示している。(P.39①等) ・巻末の「日本の領土とそのまわりの国々」に日本の領土の範囲と東西南北端の写真を4枚掲載し、巻末に「領土・領海・領空の範囲」がある。(P.187) ・「日本の自然災害・防災」で地震、浸水被害の資料図がある。(P.149)	・「地図帳の使い方(1)」に「地図活用をやってみよう」と「QRコードを使おう」としてQRコードで解答や動画が見られることを紹介している。(P.6) ・資料図のページに「学習課題」があり、着目すべき点を示している。(P.13他) ・防災と環境に関連する資料には「防災」や「環境」のマークがつけられている。(P.130) ・歴史と防災の視点から地図を活用するページがある。(P.101, P.123) ・京都と奈良と東京の観光地がイラストで表した地図がある。(P.103-P.104, P.125-P.126) ・世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。(P.47-P.48, P.49-P.50等)	・書籍のサイズはA4版である。 ・配列は①地図帳の使い方、②世界の諸地域、③日本の諸地域、④日本の資料、⑤統計、⑥さくいんとなっている。 ・「使い方・資料」「世界」「日本」「統計」「索引」で分類し、インデックスを大きく5つに分類している。 ・同緯度・同縮尺の日本をシルエットで描いている。(P.45等) ・同縮尺の東京都と沖縄県をシルエットで描いている。(P.137, P.141)	・「世界の気候」において、各気候帯の図版を4つ掲載している。(P.12) ・著作関係者に特別支援教育に関する監修・校閲者がいる。(P.185) ・広域地図、大陸地図は3500万分の1～9000万分の1で表記している。(P.41等) ・日本全図は400万分の1～1600万分の1で表記している。(P.80-P.82等) ・世界各州の「資料」で「●●州をながめてみよう」があり、陸地の起伏について表現している。(P.43等)	・地図帳各所に地図活用の技能を身につけるための「地図活用」を配置している。(P.33等) ・巻頭で「地図帳の使い方」において、オセアニア州を例に挙げ、地図を活用した調べ方を記載している。(P.5-P.6)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 数学

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・本文の「問」では例と似た型の問題に「◆ダイヤマーク」をつけている。(第1学年P.50,第2学年P.13,第3学年P.60等) ・問いの類題を繰り返し練習させるための「補充の問題」を巻末に準備している。(第1学年P.263-P.277,第2学年P.209-P.221,第3学年P.239-P.253) ・巻末「学びのつながり」では、前の学年と当該学年の重要事項をまとめ、必要に応じて確認できるよう設定している。(第1学年P.305-P.309,第2学年P.243-P.247,第3学年P.275-P.281) ・「まちがい例」では、全国学力・学習状況調査等でみられる典型的な誤答例を取り上げ、誤りを指摘し正しく直す取り組みを設定している。(第1学年P.95,第2学年P.18-P.19,第3学年P.20,P.82等) ・巻末「補充問題」で、本文の「問」に対応した問題(第1学年313題,第2学年175題,第3学年278題)を記載している。やや難しい問題に「★」をつけ個人差に対応している。(第1学年P.263-P.277,第2学年P.209-P.221,第3学年P.239-P.253等) ・章末の問題は基本問題と活用問題がありさらに基本問題はA問題,B問題の難易度別に分かれている。(第1学年P.58-P.60,第2学年P.32-P.34,第3学年P.38-P.40等)	・かけ算九九の表からきまりを見つける「オープンエンドの問題」を取り入れている。(第1学年P.10-P.11) ・各例題や問題の前に「考えてみよう」や「説明してみよう」等を提示し、解決のための視点を示している。 ・「深い学び」のページでは解決の道筋やヒントが示されながら、発展的な内容が取り扱われている。(第1学年P.55-P.56,第2学年P.25-P.26,第3学年P.31-P.32等) ・図形の学習では、回転体等図形を動的に観察できるシミュレーションを用意している。(第1学年P.201) ・「章のとびら」で、日常生活の場面を1コマのイラストと「問いかけ」を提示している。(第1学年P.61,P.89,第2学年P.9,第3学年P.93等) ・「節の導入」では「問題Q」と「補助問題」で活動を進めるとともに、ワークシート形式の紙面で作業的な活動を取り入れている。(第1学年P.39,P.62-P.63,第2学年P.21,P.36-P.37,第3学年P.42-P.43等) ・インターネット上のコンテンツを使った学習の一覧を載せたページがある。(各学年P.5) ・問題解決的な課題からスタートしている。(第1学年P.10-P.11等) ・各学年に巻末教員がある。(第1学年6種類,第2学年1種類,第3学年3種類)	・「算数と数学の学びをつなぐ単元として0章「算数から数学へ」を設定している。(第1学年P.9-P.16) ・「章のとびら」では、日常の1コマの場面提示から、章の学習を通して解決するよう設定している。(第1学年P.61,第2学年P.57,第3学年P.127等) ・「章の導入」や「節のまとめ」では、生徒が直接書き込み考えることができるような紙面を構成している。(第1学年P.232,第2学年P.21,第3学年P.70-P.71) ・「Dマーク」の箇所では、シミュレーションや実験映像のほか、学習に関連する他教科の教科紙面「学びを広げよう」のインタビュアー映像等がある。(第1学年P.201,第2学年P.178,第3学年P.128等) ・目次には、領域ごとに小学校や前学年の学習との関連を示している。 ・巻末の「紙の学習具」では、ミシン目や切れ込みを入れて組み立てられるようにしている。(第1学年P.297-P.303,第2学年P.241,第3学年P.273) ・他教科との関連のある内容にマークがついており、デジタルコンテンツで他教科の教科書を見ることができ。(第1学年P.60,第2学年P.56,第3学年P.96等) ・「伝統・文化の尊重」の視点で題材を選定している。(第1学年P.158,第2学年P.90,第3学年P.236等) ・0章で、算数と数学のつながりを示しながら、素因数分解を扱っている。(第1学年P.12) ・2次方程式の解き方では、平方根の考えを使った解き方、解の公式、因数分解を利用した解き方の順になっている。(第3学年P.72-P.84) ・「データの活用」領域で全学年計10種類のデジタル教材を有している。	・「数学マイノート」では、ノートづくりのポイントや振り返りの記述の例を複数紹介している。(第1学年P.14-P.16,第2学年P.30-P.31,第3学年P.36-P.37) ・カラーユニバーサルデザインを採用している。 ・ルビ等の小さい文字にはUDフォントを採用している。 ・「節の導入」や「深い学びのページ」は右ページ始まりとし、次のページがみえないようにしている。(第1学年P.233,第2学年P.107,第3学年P.70-P.71等) ・「Dマーク」の箇所では無償で使えるデジタルコンテンツを用意している。(第1学年P.105,P.201,第2学年P.109,第3学年P.11等) ・文字式の扉の問題では、イラスト1枚とともに「棒が何本必要かな?」という問いを1つだけ提示している。(第1学年P.61) ・扉の問題では、吹き出しを使ったイラストとともに、操作活動ができるイラストが3個提示されている。(第1学年P.62-P.63) ・「$1+3 \times x$という式は、棒の本数の求め方を表すとともに、求めた結果を表していると考えることがができる。」と表記されている。(第1学年P.64) ・「文字は、0.5、-4等的小数や負の数の代わりに使われることもある。」という文章が表記されている。(第1学年P.65) ・箱ひげ図では、見開きのページがあり、図を並べて比較できるようにしている。(第2学年P.183-P.185)	・問題解決をふり返って大切な考え方等について話し合ったり自分の言葉でまとめたりする「学びを振り返る」のコーナーを設定している。(第1学年P.106,第2学年P.70,第3学年P.200等) ・自分の考えを表現する「記述式の問題」を「章の問題B」に設定している。(第1学年P.152,第2学年P.158,第3学年P.184) ・「Dマーク」の中にヒストグラムや度数折れ線グラフ等を作成できるコンテンツがあり、生徒が説明し伝え合う活動を確保するよう構成している。(第1学年P.224) ・「深い学びのページ」では「数学の問題発見・解決の過程」に沿って問題の提示や発問を吟味する場面を設定している。(第1学年P.55-P.56,第2学年P.49-P.50,第3学年P.63-P.65等) ・「事柄や事実」「方法や手順」「理由」を説明する記述式問題に取り組めるよう構成している。(第1学年P.152,第2学年P.34,第3学年P.208等) ・「深い学びのページ」等では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を取り入れている。(第1学年P.10-P.11,第2学年P.25-P.26,第3学年P.85-P.86等) ・「Dマーク」でスクラッチを用いたプログラミングが体験できる。(第3学年P.122-P.123) ・「ノートのつくり方」があり、その後「数学マイノート」として、ノートの工夫や友だちの感想例が紹介されている。(第2学年P.8,P.30) ・「学びを振り返ろう」では、話し合ったり、自分の言葉でまとめたりすることで、自己の学びの振り返りの場面を設定している。(第2学年P.24,P.45,P.70,P.87,P.120等) ・「レポートにまとめよう」は、巻末の数学の自由研究の中で、レポートのまとめ方の例が示されており、学習の成果をまとめる活動が行えるようにしてある。(第1学年P.252,第2学年P.200,第3学年P.230)

大日本	・節末の「たしかめよう」では「～ができますか」という形でチェックリストがあり、理解が不十分な場合は、該当ページも示されている。(第3学年P.123等) ・学習の進度や習熟度に応じて取り組む問題(プラス・ワン)を設定している。(第3学年P.15,17,19等) ・自主的に使用できる問題を全章にわたって設定している。(第1学年P.286-P.293等) ・「思い出そう」では既習内容の確認を提示している。(第1学年P.95,第2学年P.69,第3学年P.47等) ・各例題にはすべて見出しを示している。(第1学年P.89,第2学年P.156,第3学年P.84等) ・小学校算数の振り返りのページを設定している。(第1学年P.280-285)	・問題発見・問題解決の流れを明示している。(第1学年P.7-P.9) ・自ら見つけた問題の解決過程を、研究の仕方やノートの作り方、レポートの書き方の具体例を紹介している。(第3学年P.10,P.11等) ・学習したことをさらに「活用・探究」する問題を設定している。(第1学年P.64,第2学年P.132,第3学年P.74等) ・各指導事項に対して「めあて」を示し、それに沿って「たしかめ」や「例」「問題」を示している。(第3学年P.58-59) ・「例題」や「問題」の他に「活動」が示されている。 ・各章の開始時には実生活に関わる疑問や問題を提示し、それに基づいてその章の学習を始めている。(第1学年P.66-P.67,第2学年P.98-P.99,第3学年P.136-P.137) ・インターネット上で操作して学習できるデジタルコンテンツや資料につながるQRコードを載せたページがある(各学年P.4) ・各章末に「活用・探究」や「社会にリンク」のページがあり、探究的な学習をするための内容や数学が社会の中でどのように活用されているか等を取り上げて解説している。(第1学年P.64-P.65等) ・巻末「もっと数学の世界へ」では、課題学習やMATHFUL等、学んだことを深めたり発展させたりするための課題を取り上げている。(第1学年P.265,第2学年P.201,第3学年P.237) ・巻末教員がある学年とない学年がある。(第1学年3種類,第2学年なし,第3学年2種類)	・<節末 たしかめよう>,<章末 ○章をふり返ろう>では、その章の学習を評価する問題があり、評価の観点を示し、自己評価できる構成になっている。(第1学年P.160,第2学年P.130,第3学年P.191等) ・学習の場面によってウェブコンテンツを使いシミュレーションや動画を用意している。(全学年P.4) ・数学が生活に生かされていることを知る読み物「MATHFUL」のコーナーがある。(第1学年P.270-P.279,P.206-P.213,第3学年P.242-P.253) ・目次には、章ごとに小学校や前学年との関連を示している。(全学年P.2-P.3) ・1章のはじめに素因数分解と乗乗の形の表し方、素因数分解の利用について扱っている。(第1学年P.14-P.15) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.78-P.82) ・他教科の学習や生活等に関連する内容にマークがついている。(第1学年P.59,第2学年P.62,第3学年P.74等) ・連立方程式の解き方では、加減法と代入法のどちらからでも学習できるようになっている。(第2学年P.45-P.54) ・数学を他教科の学習にも生かせるよう他教科の内容に関連する題材を提示している。(第1学年P.59,第2学年P.62,第3学年P.252) ・「データの活用」領域で全学年計4種類のデジタル教材を有している。 ・QRコードを読み込むと授業に役立つ動画やソフトをみることができ。(第1学年P.208,第2学年P.180,第3学年P.216) ・環境や日常生活の場面で活用する問題や、全国学力・学習状況調査に対応した課題を設定している。(第2学年P.210) ・各領域に入る前の「ふりかえり」では、小学校の内容や前学年の学習を振り返る場面を設定している。(第1学年P.10-P.11,第2学年P.107,第3学年P.227等) ・「高校へのかけ橋」では、中学校の内容と関連のある高校数学の題材を取り上げている。(第3学年P.266) ・日本の伝統と文化について、「麻の葉」等の伝統文様、和算の歴史や和算家の業績の紹介を掲載している。(第1学年P.92,P.184,P.280,第2学年表見返し) ・目次には、領域ごとに小学校や前学年との関連を示し、各領域の章のとびらの前に振り返りのページがある。(全学年P.2-P.3) ・1章の終わりに素因数分解とその利用について扱っている。(第1学年P.56-P.59) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.74-P.93) ・各章のまとめの問題や深めようの内容に関連する職業・仕事を示している。(第1学年P.63,第2学年P.67,第3学年P.41等) ・相似な図形では、導入で相似の位置を扱っている。(第3学年P.138-P.139) ・「データの活用」領域で全学年計4種類のデジタル教材を有している。	・キャラクターについては、外国にルーツをもつ生徒を設定したり、外国の建造物や風景を掲載している。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・使用する文字の大きさを学年で変えている。 ・文字式の厚の問題では、タイルの枚数を求める問題が設定してあり、2つのプランのイラストが掲載されている。(第1学年P.66-P.67) ・「式$3+5\times a$は、赤いタイルの枚数を求める式を、まとめて1つの式に表したと考えられます。」と表記されている。(第1学年P.69) ・「式$3+5\times a$の文字aを1,2,3,...に置きかえることで、必要な赤いタイルの枚数が分かります。」と表記されている。(第1学年P.69) ・「文字を使った式を文字式ということがあります。」と表記されている。(第1学年P.69) ・「文字式が数量の求める計算の仕方を表しているとともに、計算した結果の数量のことも表している。」と表記されている。(第1学年P.70) ・関数$y=ax^2$のグラフでは、細かくグラフの様子を確認するために、見開きのページになっている。(第3学年P.107-P.108) ・巻頭に見開きのページを使って課題発見・解決学習の流れを示している。(第1学年P.7-P.9) ・ホワイトボードマーカーで書いたり消したりできる「アイデアボード」を添付している。(各学年巻末折込) ・教科書の左側に帯があり、学習過程を明確にしている。 ・「計算力を高めよう」では、類型別に問題を設定している。(第2学年P.24等) ・指導者用デジタル教科書「デジMATH」を活用することで教科書をそのまま電子黒板に提示することができる。 ・文字式の厚の問題では、ストローの本数を求める問題を設定し、吹き出しとイラストを掲載している。(第1学年P.66-P.67) ・「文字を使って表した式を文字式という。」と表記している。(第1学年P.68) ・「式の中の文字を数でおきかえることを、文字にその数を代入する」といい、代入して計算した結果を、式の値という。」と表記されている。(第1学年P.69) ・「文字を使って表した式は、ストローの本数の求め方を表すと同時に、求めた結果を表している。」と表記している。(第2学年P.69) ・関数$y=ax^2$のグラフでは、細かくグラフの様子を確認するために、見開きのページになっている。(第3学年P.105-P.106) ・保護者へのメッセージがある。(全学年P.9)	・各項にこれまで学んだことをもとに調べたり、考えたりする数学的な活動を設定している。 ・「問題発見・解決の流れ」を提示している。(第1学年P.7-P.9) ・「ノートのつくり方」では、ノートの工夫の例やノートの記入例が書かれている。(第2学年P.11) ・「章をふり返ろう」の最後の問題で「学びのふり返り」問題」として、自分の考えを自分の言葉でまとめる問題が設定してある。(第2学年P.36,P.61,P.94,P.130,P.164,P.178,P.196) ・「レポートを書く」でレポートの書き方の具体例を示している。(第2学年P.133等) ・「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いの機会を設定している。(第1学年P.217-P.218) ・巻末「深めよう」巻末「疑問を考えよう」等の課題を通して、章ごとの学習だけでなく、領域横断の内容を設定している。(第1学年P.164,P.272等) ・「問」や巻末の「活用」問題では論理的に思考したり、問題文から必要な情報を取捨選択したり、それを説明したりする課題を設定している。(第1学年P.124,第2学年P.194,第3学年P.131) ・実際の授業でも話し合い活動をいれやすいように、生徒の対話を提示している。(第1学年P.156) ・巻末の「見方・考え方」をまとめようでは、代表的な8つの「見方・考え方」を整理している。(第1学年P.262-P.263) ・巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポートの作成から発表までを意識したポイントや例を示している。(第1学年P.268-P.271,第2学年P.220-P.223,第3学年P.252-P.253) ・「ノートの使い方」では、ノートの書き方や感想の書き方、ノートの例を示している。(全学年P.8) ・「各章のまとめの問題」の最後に、自分ができるようになったことや、もっと学んでみたいことをまとめる問いがある。(第2学年P.38,P.67,P.105,P.144,P.174,P.196,P.211等) ・「説明しよう」「まとめよう」等という問題が設定してある。(第2学年P.30-31,P.46,P.96,P.118-P.119,P.188-P.189,P.206-P.207等)
学図	・例題によって既習内容の振り返りやポイントを示している。(第1学年P.32) ・「正しいかな?」では、定着度の低い問題の誤答を提示している。(第1学年P.84,第2学年P.23) ・「計算力を高めよう」「確かめよう」では、常にふり返って学習に戻れるよう構成している。(第1学年P.20等) ・節末には基礎・基本が身に付いているか確認できるように「確かめよう」を設定している。(第1学年P.34等) ・巻末にまとめの問題があり、基本、応用、活用の3種類の問題がある。(第1学年P.283) ・各例題の解答について、生徒が実際にノートへ書き込んだように示している。(第1学年P.101,第2学年P.61,第3学年P.93等)	・章の導入では身近な題材を扱い、疑問を発見するなかで「次の課題へ!」のコーナーを提示している。(第1学年P.95) ・「どんなことがわかったかな」で学習のまとめを行い、「次の課題へ」で次の指導内容へのきっかけとなる疑問を示している。(第1学年P.99,P.101等) ・巻末に「深めよう!」のページを設定している。(第1学年P.65,第2学年P.175-P.176,第3学年P.226等) ・各指導事項に対して「Question」を示し、それに沿って「見方・考え方」や「目標」「例」「問題」を示している。(第1学年P.112-P.113,第2学年P.83,第3学年P.76) ・インターネット上のコンテンツにつながるQRコードの使い方を載せたページがある。(各学年P.9) ・巻末の「さらなる数学へ」では、学習したことがらをレポートにまとめたり、探究的な学習をするための内容が取り上げられていたりしている。(第1学年P.261,第2学年P.213,第3学年P.245) ・各学年に巻末教員がある。(第1学年3種類,第2学年3種類,第3学年2種類) ・今後の学習や生活の中の問題解決に「見方・考え方」を提示している。(第1学年P.148等)	・「高校へのかけ橋」では、中学校の内容と関連のある高校数学の題材を取り上げている。(第3学年P.266) ・日本の伝統と文化について、「麻の葉」等の伝統文様、和算の歴史や和算家の業績の紹介を掲載している。(第1学年P.92,P.184,P.280,第2学年表見返し) ・目次には、領域ごとに小学校や前学年との関連を示し、各領域の章のとびらの前に振り返りのページがある。(全学年P.2-P.3) ・1章の終わりに素因数分解とその利用について扱っている。(第1学年P.56-P.59) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.74-P.93) ・各章のまとめの問題や深めようの内容に関連する職業・仕事を示している。(第1学年P.63,第2学年P.67,第3学年P.41等) ・相似な図形では、導入で相似の位置を扱っている。(第3学年P.138-P.139) ・「データの活用」領域で全学年計4種類のデジタル教材を有している。	・「式の中の文字を数でおきかえることを、文字にその数を代入する」といい、代入して計算した結果を、式の値という。」と表記されている。(第1学年P.69) ・「文字を使って表した式は、ストローの本数の求め方を表すと同時に、求めた結果を表している。」と表記している。(第2学年P.69) ・関数$y=ax^2$のグラフでは、細かくグラフの様子を確認するために、見開きのページになっている。(第3学年P.105-P.106) ・保護者へのメッセージがある。(全学年P.9)	・「問」や巻末の「活用」問題では論理的に思考したり、問題文から必要な情報を取捨選択したり、それを説明したりする課題を設定している。(第1学年P.124,第2学年P.194,第3学年P.131) ・実際の授業でも話し合い活動をいれやすいように、生徒の対話を提示している。(第1学年P.156) ・巻末の「見方・考え方」をまとめようでは、代表的な8つの「見方・考え方」を整理している。(第1学年P.262-P.263) ・巻末の「表現する力を身につけよう」では、レポートの作成から発表までを意識したポイントや例を示している。(第1学年P.268-P.271,第2学年P.220-P.223,第3学年P.252-P.253) ・「ノートの使い方」では、ノートの書き方や感想の書き方、ノートの例を示している。(全学年P.8) ・「各章のまとめの問題」の最後に、自分ができるようになったことや、もっと学んでみたいことをまとめる問いがある。(第2学年P.38,P.67,P.105,P.144,P.174,P.196,P.211等) ・「説明しよう」「まとめよう」等という問題が設定してある。(第2学年P.30-31,P.46,P.96,P.118-P.119,P.188-P.189,P.206-P.207等)

教出	・章の学習に入る前に、既習内容の確認ができるコーナーを設定している。(第1学年P.68,第2学年P.66,第3学年P.78等) ・各章の最後には、章末問題の他に既習内容を簡潔にまとめたページがある。(第1学年P.63等) ・巻末では、前学年までの既習内容をふり返るコーナーを設定している。(第1学年P.266,第2学年P.220,第3学年P.240) ・基礎的・基本的な問題を反復練習するページを設定している。(第1学年P.285等) ・「たしかめ」「問」「基本の問題」「補充の問題」を用意している。(第1学年P.285等) ・各ページの右側に仕切られ、見方や考え方、ポイント、数学メモ、問題との関連ページを示している。	・学習の過程で生じる生徒の疑問を取り上げ、学習を進める中で、それを解決したり、新たな問いを見いだしていくような流れを設定している。(第1学年P.19等) ・各例題には見出しがついていて、その例題が何のための例題なのか分かるようになっている。 ・登場人物のコメントによって、次の学習内容につなげたり、学習内容のまとめをしりしている。 ・インターネット上の学習につながるQRコードを載せたページがある。(全学年P.5) ・巻末の「数学の広場」では、探究的な学習をするための内容や数学が社会の中でどのように活用されているか等を取り上げて解説している。(第1学年P.275,第2学年P.232,第3学年P.252) ・各学年の巻末に座標平面と巻末教員がある。(第1学年6種類,第2学年1種類,第3学年2種類)	・目次には、領域ごとに小学校や前学年との関連を示している。(全学年P.2-P.3) ・1章整数の性質では、素因数分解とその利用をひとつの章として扱っている。(第1学年P.16-P.21) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.82-P.97) ・「数学の広場」では、数学と生活や実社会、他教科との関連がある内容が含まれている。(第1学年P.165,第2学年P.35,第3学年P.110等) ・章の扉の前に振り返りのページがある。(第1学年P.12等) ・第1学年は1章～8章の構成で1章「整数の性質」の中に素因数分解が入っている。(第1学年P.17) ・「データの活用」領域で全学年計3種類のデジタル教材を有している。	・側注を設定し補足的な内容を扱ったり、文節で改行したりしている。 ・カラーユニバーサルデザインを取り入れている。 ・「学びリンク」をつけたところではデジタルコンテンツを活用し、挿し絵等の資料を取り入れている。(第1学年P.220等) ・文字式の扉の問題では、キャンドライトの個数を求める問題を設定し、実際の写真と吹き出しやイラストが掲載している。(第1学年P.70-P.71) ・文字 x を使うと、$x \times 3 - 3$ という1つの式で表すことができる。」と表記しており、また、イラストともに吹き出しでも掲載している。(第1学年P.72) ・「$x \times 3 - 3$ という式は、全体のキャンドライトの個数の求め方を表すとともに、求めた結果も表している。」と表記している。(第1学年P.72) ・「$x \times 3 - 3$ のように、文字を使った式を文字式ということもあります。」と表記している。(第1学年P.72) ・「文字は、小数や分数、負の数のかわりに使われることもあるよ。」とイラストと吹き出しにより表記している。(第1学年P.73) ・巻末に切り取ることのできるグラフ用紙がある。	・身のまわりや社会にある事象を数学的にとらえる課題を設定している。(第1学年P.70等) ・多様な考え方に触れる機会を設定している。(第1学年P.92等) ・自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする等、問題解決の場面を設定している。(第1学年P.61等) ・学習したことを活用して、深める課題を設定している。(第1学年P.59等) ・巻頭では疑問を大切にしながら学習の進め方を示している。(全学年P.6) ・「工夫してノートを書こう」が最初に簡単に示されており、途中のページに、ノートの役割が示されたノートを掲載している。(第2学年P.7, P.40-P.41等) ・各章の「学習のまとめ」において、章の学習を通してのまとめの例を示している。(第2学年P.37等) ・「レポートを書こう」を掲載している。(第1学年P.262-263,第2学年P.216-P.217,第3学年P.219)
啓林館	・章末問題「学びを確かめよう」では、その章で学習したことを確認できる問題を取り扱い、右端で確認しておきたい学習内容を示している。(第1学年P.52-P.53等) ・【自分から学ぼう編】には、生徒自ら、その学年の学習内容を確認できるセルフチェックシート「学びのあしあと」を用意している。(全学年、巻末) ・既習の内容をもとに新しい学習内容へと円滑に発展しているよう「ひろげよう」のコーナーを設定している。(第1学年P.15等) ・例題の解答ではノート形式とし、途中式を省略せず、ノートに書く時の参考になるよう提示している。(第2学年P.42等) ・「例題」では、「考え方」を穴埋め形式にし、表や図を添えたりしている。(第2学年P.51等) ・ページの下にこのページで使われた数学的な考え方を示している。(第1学年P.92,第2学年P.26,第3学年P.30) ・各練習問題には、関連する問題が記載されているページと問題番号を示している。(巻末の「もっと練習しよう」) ・身のまわり等で数学が活用されている場面を紹介した「数学ライブラリー」のコーナーを設定している。(第2学年P.62等)	・【自分から学ぼう編】では、生徒が主体的に取り組む内容の構成になっており、選択できるように設定している。 ・新たな学習に入る前に数学的な活動を取り入れた「学習のとりば」を設定している。(第1学年P.10-P.11, P.21, P.99等) ・教科書の解き方は、別の考え方がないかを考えたり、教科書の問題から発展的に考えて深い学びにつなげたりする「？」を配置している。(第1学年P.103) ・各章の開始時には、実生活に関わる疑問や問題を提示し、それに基づいてその章の学習を始めるような設定にしている。 ・「ひろげよう」で数学的な課題を提起し、例題や問題を通して指導内容を示している。 ・「ひろげよう」では、実生活と関連する内容を多く取り扱われている。 ・章末問題や「自分から学ぼう編」のページ等にはQRコードが表示されており、大切なポイントや詳しい解説をインターネット上で見ることができる。(第1学年P.53等) ・「みんなで学ぼう編」の「数学ライブラリー」では、学んだことを深めたり発展させたりするための課題が取り上げられている。(第1学年P.43等) ・「自分から学ぼう編」の「学びを生かそう」では、発展的・探究的な学習をするための課題を取り上げている。(第1学年P.27-P.28)	・【みんなで学ぼう編】と【自分から学ぼう編】の2部構成となっている。 ・【自分から学ぼう編】は裏表紙を先頭にして、上開きの紙面構成となっている。 ・QRコンテンツがあり、学習の助けになる教材を参照できる。(第1学年P.53, P.55, P.163等) ・見開きごとに内容が完結している。 ・節ごとに節とびらのページがあり、学びの活動を設定している。(第1学年P.11,第2学年P.59,第3学年P.121等) ・1章で、数の集合を学んだ後に、素因数分解の学習を扱っている。(第1学年P.46-P.47) ・2次方程式の解き方では、平方根の考えを使った解き方、解の公式、因数分解を利用した解き方の順になっている。(第3学年P.66-P.85) ・数学ライブラリーでは、身のまわり等で数学が活用されている場面や他教科との関連のある内容を紹介している。(第1学年P.43,第2学年P.62,第3学年P.113等) ・「データの活用」領域で全学年計4種類のデジタル教材を有している。	・フォントはUD書体を使用している。 ・学習のまとめごとに、その学習で使った数学的な見方・考え方をページの下部に「虫眼鏡」として示している。(第2学年P.99等) ・文字式の扉の問題では、イラストと物語形式で問題が提示してある。(第1学年P.56-P.57) ・「このような文字を使った式を文字式といいます。」と表記されている。(第1学年P.58) ・「数量の関係を、簡潔にわかりやすく、一般的に表記するために、文字式に表した。」と表記している。(第1学年P.59) ・巻末に、学びを振り返るチェックシートがある。(全学年) ・保護者へのメッセージがある。(全学年、巻頭)	・自分の考えを説明したり、他者の考え方を聞いて自分の考え方や比較するために3つのコーナー「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」を設定している。(第1学年P.42, P.80, P.101等) ・章末問題「学びを身に付けよう」では、試行錯誤したり、順序立てて考えたりできる場面を設定している。(第1学年P.55ほか) ・章末の「利用」の節では、学習してきた内容を利用して、身のまわりの問題を見いだし、解決できる展開を設定している。(第1学年P.49-P.51等) ・節の導入には「学習のとりば」を設定し、言語活動のコーナーを配置している。(第2学年P.34-P.35等) ・「ノートをくふうして、学習に役立てよう」では、1時間のノート例ではなく、場面場面に分けて示している。(全学年P.6-P.7) ・「レポート例」は、みんなで学ぼう編ではなく、自分から学ぼう編に掲載している。(第2学年P.23-P.24等)

数研	・各章の学習に入る前に、その章に関連する既習事項を確認できるよう構成している。(第1学年P.14,第2学年P.40,第3学年P.72等) ・巻末の演習ページに教科書の本文の内容を確認できる問題及びチェックシートを用意している。(第1学年P.261～P.283,第2学年P.207～P.225,第3学年P.247～P.283) ・例題は問題の形式ではなくポイントの説明をするというスタイルで書かれている。 ・巻末に問題Aと問題Bの2種類の確認問題・発展問題が提示されている。(第1学年P.60～P.61,第2学年P.66～P.67,第3学年P.185～P.186等)	・学んだ内容を活用して解決するタイプのTRYを各所に設定している。(第1学年P.88等) ・各章の開始時には実生活に関わる疑問や問題が提示され、それに基づいてその章の学習が始められている。(第1学年P.14,第2学年P.40,第3学年P.72等) ・「学習の進め方」のページを通して、主体的な学びの進め方を紹介している。(全学年P.8～P.9) ・「ノートのつくり方」「レポートの書き方」を取り上げている。(全学年P.10～P.13) ・例題や問題の他に「TRY」があり、学習のきっかけや発展的な問題を示している。 ・多くの場面で会話形式で問題を説明していたり、これからの学習の視点を示したりしている。(第1学年P.125,第2学年P.106,第3学年P.136等) ・探究ノートが別冊にある。 ・別冊「探究ノート」や本冊巻末の「数学旅行」では、探究的な学習を進めるための内容を取り上げている。(第1学年P.249,第2学年P.199,第3学年P.233) ・各章のとびらのページにQRコードを表示しており、補充問題や参考資料、理解を助けるアニメーション等をインターネット上で見ることができる。(第1学年P.15等) ・巻末教具がある学年とない学年がある。(第1学年4種類,第2学年なし,第3学年2種類)	・ICTの活用として「補充」「資料」「イメージ」「考察」のLinkアイコンでインターネットを介して教科書とデジタルコンテンツがリンクしている。 ・別冊に学びを発展させる素材を掲載し、巻末には、活動を進めるためのワークシートを用意している。 ・奇数ページにツメ見出しをつけている。 ・「何ができるようになったか」を自己評価するためのチェックシートを用意している。(巻末に掲載) ・章のとびらの前に、既習事項を振り返る問題のページがある。(第1学年P.122,第2学年P.104,第3学年P.128等) ・1章で、数の集合を学んだ後に素因数分解の学習を扱っている。(第1学年P.54～P.55) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.73～P.89) ・調べよう、見つけよう等の中には、他教科や実生活との関連のある内容が紹介されている。(第1学年P.73,第2学年P.79,第3学年P.111等) ・教科書は本冊と別冊「探究ノート」で構成している。 ・「データの活用」領域で全学年計10種類のデジタル教材を有している。	・カラーユニバーサルデザインを使用している。 ・紙面全体にわたってUDフォントを使用している。 ・文字式の章の扉では、ふくろうの写真と文字の表、吹き出しを表記している。(第1学年P.63) ・1節に入って、マグネットの個数を求める問題を吹き出しやイラストによって提示している。(第1学年P.64～P.66) ・「この式は、マグネットの個数の求め方を表しているとともに、マグネットの個数も表している。」と表記している。(第1学年P.66) ・「aやx等の文字を使った式を文字式という。」と表記している。(第1学年P.66) ・文字式を用いて、交換法則、結合法則、分配法則をまとめている。(第1学年P.67)	・数学的な活動を意図した場面では、対話形式で掲載している。(第1学年P.144等) ・事実、方法、理由等を説明する問い、自己の考えを他者に伝える機会として「TRY」のコーナーを設定している。(第1学年P.43,第2学年P.128,第3学年P.194等) ・学習の進め方では、グループ学習を行ったり、発表したりする際の注意点をまとめている。(全学年P.8～P.9) ・「ノートのつくり方」を、ポイントとともに掲載している。(全学年P.10～P.11) ・ノートの書き方の具体的な注意点がある場合は、ノートマークとして、本文脇に示している。(第2学年P.49,第3学年P.59等) ・「説明しよう」「考えよう」では、自分の考えをまとめ、説明していく問いを設定している。(第2学年P.18,第3学年P.59等) ・「レポートを書くが」が、巻頭にて書き方の手順を示し、例とともに掲載している。(全学年P.12～P.13)
日文	・小中連携を視野に巻頭には「算数の確かめ」、巻末には「算数の確かめ【問題編】」を設定している。(第1学年P.8～P.11,第2学年P.274～P.278) ・各小節では、導入の問題に「確かめよう<Q>、横欄に<確かめ>を設定している。(第1学年P.15,第2学年P.37,第3学年P.123等) ・横欄<大切な見方・考え方>を設定している。(第1学年P.48,第2学年P.137,第3学年P.161等) ・<誤答に注意！>と書かれたプレートをもったキャラクターの吹き出しを使って、生徒の間違えやすい箇所について注意喚起している。(第1学年P.49,第2学年P.53,第3学年P.105等) ・節末「基本の問題」では、問題ごとに戻るべき箇所を明示している。(第1学年P.94,第2学年P.128,第3学年P.107等) ・問いや例題に関連する補充問題のページを掲載している。(第1学年P.173,第2学年P.111,第3学年P.170等) ・すべての例題に見出しがついている。 ・章の学習に入る前に、既習内容の確認ができるコーナーを設定している。(第1学年P.63,第2学年P.35,第3学年P.67等)	・巻頭「数学の学習を始めよう！」では、数学的活動を通した問題発見・解決の過程と学び方のポイントを示している。(全学年P.4～P.5) ・問題解決型の授業展開として「学び合おう」のコーナーを設定している。(第1学年P.157,第2学年P.107,第3学年P.191等) ・各章の「数学のたんけん」巻末の「暮らしと数学」「数学研究室」では、身のまわりにある数学をコラムや課題学習として取り上げている。(第1学年P.194,第2学年P.92,第3学年P.120等) ・巻末「数学マイトライ」には、生徒の実態に応じて柔軟に取り組むことができる問題や課題を設定している。(第1学年P.257,第2学年P.191,第3学年P.191) ・「大切な見方・考え方」では、見方・考え方を分類し、意識化できるように平易な言葉に直し、繰り返し示している。(第1学年P.88,第2学年P.41) ・巻末付録を用いた対話的な学びを促す学習の場面である「学び合おう」のページがある。(第1学年P.301～P.308,第2学年P.241～P.248,第3学年P.281～P.288) ・各指導内容に対して「めあて」が提示されそれに沿って「例題」と「問題」が示している。 ・インターネット上のデジタル資料につながるQRコードを載せたページがある。 ・巻末の「数学マイトライ」では、探究的な学習をするための内容や数学が社会の中でどのように活用されているか等を取り上げて解説している。(第1学年P.257,第2学年P.191,第3学年P.213) ・各学年の巻末に対話シートがあり、第1学年と第3学年には巻末教具がある。(第1学年6種類,第2学年なし,第3学年1種類)	・巻頭、各章、巻末の構成で内容を配列し、適宜関連するコラム等を配置している。 ・既習事項とのつながりを示しているものもとなっている。(全学年 巻頭) ・教科書と連携して使えるデジタル教材やコンテンツを備えている。 ・章のとびらの前に、既習事項を振り返る問題のページがある。(第1学年P.63,第2学年P.95,第3学年P.121等) ・1章で、数の集合を学んだ後に素因数分解の学習を扱っている。(第1学年P.54～P.55) ・2次方程式の解き方では、因数分解を利用した解き方、平方根の考えを使った解き方、解の公式の順になっている。(第3学年P.68～P.80) ・数学の探検の中には、数学と身のまわりのことがらや他教科に関連のある内容を紹介している。(第1学年P.2,第3学年P.85,第3学年P.53等) ・「データの活用」領域で全学年計13種類のデジタル教材を有している。	・小学校で学習しない漢字には、見開きごとに振り仮名をつけている。(第1学年P.34) ・巻末「対話シート」は、切り離して授業で使った後、ノートに貼付することを想定している。(第1学年P.301～P.308,第2学年P.241～P.248,第3学年P.281～P.288) ・カラーバリアフリーやユニバーサルデザインを採用している。 ・数学科の学び方や教科書の使い方については、保護者へのメッセージも掲載している。(全学年P.3) ・文字式の扉の問題では、本数を求める問題を設定し、思考の流れに従ったイラストと吹き出し、操作活動ができるイラストが1個提示している。(第1学年P.64～P.65) ・文字式については、「式1+3×aは、すべての場合をまとめて表しています。」と表記している。(第1学年P.66) ・「aやx等の文字を使って表した式を文字式といいます。」と表記している。(第1学年P.66) ・「式120×a+100×bは、代金の求め方を表すとともに、求めた結果を表していると考えることができます。」と表記している。(第1学年P.67)	・各小節では数学的な思考力、判断力、表現力を養うために「<話し合おう>」のコーナーを設定している。(第1学年P.59,第2学年P.91,第3学年P.115等) ・「深めよう」では学習したことをほかの場面で活用したり、問題の条件を一部を変えて新しい問題をつくって取り組んだりする数学的活動の場面を設定している。(第1学年P.59,第2学年P.109,第3学年P.192) ・巻末の「数学レポートをかこう」では、学習したことのよさをふり返ったり、新たに調べてみたいことは何かを生徒間で共有できるように設定している。(第1学年P.272,第2学年P.206,第3学年P.232) ・方法や理由等を数学的に説明する記述式の問題をすべての章に設定している。(第1学年P.239,第2学年P.190,第3学年P.202等) ・「ノートのくふう」では、ふり返りの記述例を示している。また「対話シート」の記入例も同時に示している。(全学年P.8) ・「数学レポートをかこう」では、レポートの書き方と具体例に示している。(第1学年P.272～273,第2学年P.206～207,第3学年P.232～233) ・お互いの考えを伝え合ったり学習をふりかえるときに使用する「対話シート」が巻末にある。(第1学年P.301～P.308,第2学年P.241～P.248,第3学年P.281～P.288) ・各章の問題の最後に「話し合おう」「説明できるかな」という問題を設定している。(第2学年P.34等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 理科

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・重要語句は黒字ゴシック体の太字にしてあり、ルビを用いている。(第1学年P.22) ・小学校と呼び方が異なる語句、今後学習する関連語句には注釈がついている。(第1学年P.33) ・「学習内容の整理」を単元末に設定している。(第1学年P.66) ・「大切な用語」として、重要語句は黒太字、ルビをふり記載ページと説明を書いている。(第1学年P.136) ・図や表を用いた問題を設定している。 ・「確かめと応用」とし、前半に基本問題を2ページ、続けて活用問題を2ページ記載している。(第1学年P.68-P.71)	・章の最初と最後に同じ課題「Before & After」を提示しており、その章の学習をする前後の変化を自分自身で比較する課題を設定している。(第1学年P.27,P.44)	・伝統や文化について含有しているような「from Japan世界につながる科学」という読み物がついている。(第1学年P.64) ・本文中の他教科と関連がある部分から線を引き、関連する教科名を記している。配置は教科書の本文右側の余白部分に示している。(第1学年P.28,P.77,P.150,P.210,P.222,第2学年P.71,P.135,P.184,P.193,P.210,P.212,P.222,P.252,P.264,P.268,P.282,P.288,第3学年P.93,P.103,P.107,P.137,P.150,P.180,P.206,P.282,P.283,P.286,P.290,P.293,P.297,P.299,P.302,P.303,P.306)	・写真と模式図を比較して書いている。(第1学年P.33,P.35,P.107,P.112,P.123,P.150,P.154,P.165,P.201,P.218,第2学年P.27,P.53,P.54,P.61,P.94-P.95,P.98,P.102,P.105,P.134,P.139,P.143,P.175,P.202-P.203,P.215,P.216,P.217,P.220,P.252,P.276,第3学年P.18,P.25,P.42-P.43,P.58,P.60,P.82-P.83,P.114,P.117,P.152,P.198,P.229,P.290) ・中学生のイラストがあり、課題を解決するための会話の様子が書かれている。(第1学年P.24,P.42,P.47,P.90,P.104,P.120,P.157,P.158-P.159,P.166,P.172,P.176,P.178,P.180,P.182,P.203,P.204,P.206,第2学年P.21,P.30,P.32-P.33,P.37,P.40,P.42,P.44-P.45,P.58,P.70,P.94,P.96,P.100,P.104,P.112,P.114,P.117,P.122,P.124,P.141,P.161,P.182,P.190,P.193,P.199,P.201,P.203,P.218,P.244,P.251,P.254,P.257,P.260,P.262,P.264,P.282,P.286,第3学年P.12,P.16,P.23,P.25,P.30,P.40,P.52,P.56,P.62,P.80,P.91,P.96,P.101,P.102,P.144,P.160,P.168,P.170,P.172,P.181,P.204,P.209,P.214,P.218,P.232,P.261,P.264,P.277,P.287,P.292,P.302)	・各学年の巻頭に「考えが異なったら、考えを言葉にして議論しよう」を設定し、「議論の進め方」と「議論のポイント」を示している。(第1学年P.5,第2学年P.3,第3学年P.3) ・教科書の巻頭に「伝える言葉にしよう 発表の仕方」を設定し、3点の視点を示している。(第1学年P.5,第2学年P.3) ・第3学年「水溶液とイオン」単元において、班での話し合いの仕方と全体での意見交換の方法が示してある。(第3学年P.19)

大日本	・重要語句は黒字ゴシック体の太字にしてあり、ルビを用いている。(第1学年P.28) ・単元の最後に「まとめ」を設定している。関連ページ数も記載している。(第1学年P.66) ・重要語句は左端に黒太字で記載しており、説明を書いている。(第1学年P.130) ・カラーの図や表を用いてある。(第2学年P.194) ・単元の最後に「単元末問題」として、確認問題を記載している。(第1学年P.68～P.69) ・「読解力問題」として、応用問題を記載している。(第1学年P.70)	・巻頭の「理科の学習の進め方」で、理科の探究の仕方を説明している。(第1学年P.4～P.5、第2学年P.4～P.5、第3学年P.4～P.5) ・自然の事物・現象から主体的に問題を発見できる問題を設定している。(第2学年P.141)	・伝統や文化については「日本を知る」という見出しで紹介している。掲載部分は、関連のある単元、章節の終わりにある。(第1学年P.71、P.114、P.171、P.244、P.259、第2学年P.49、P.229、P.237、P.282、第3学年P.27、P.192、P.248、P.265、P.274、P.283、P.318) ・他教科とのつながりについては、本文中の他教科と関連がある部分の近くに「つながる」という表記とともに関連部を抜き出している。教科名については書かれていないものと書かれているものがある。配置は、本文左右の余白部分か、単元末の1ページ全てを使った読み物の部分にある。(第1学年P.71、P.91、P.126、P.135、P.161、P.185、P.193、P.267、P.284～P.285、第2学年P.115、P.155、P.182、P.229、P.238、P.250、P.286、P.295、P.308～P.309、第3学年P.15、P.43、P.63、P.83、P.135、P.163、P.223、P.283、P.333、P.358～P.359) ・各学年の最後に算数・数学とのつながりのページを設けている。(第1学年P.284～P.285、第2学年P.308～P.309、第3学年P.358～P.359)	・写真と模式図を比較して書いている。(第1学年P.14、P.15、P.27、P.30、P.37、P.39、P.47、P.54、P.58、P.118、P.120、P.143、P.146、P.147、P.151、P.160、P.164、P.208、P.224、P.236～P.237、P.241、P.244、P.248、P.250、P.254、第2学年P.11、P.24、P.29、P.34、P.37、P.39、P.44、P.46、P.48、P.52、P.69、P.71、P.93、P.96、P.100、P.107、P.112、P.115、P.136、P.138、P.145、P.149、P.161、P.162、P.165、P.167、P.173、P.184、P.193、P.194、P.196、P.197、P.207、P.213、P.216、P.248、P.264、P.278、P.279、P.280、P.281、第3学年P.11、P.13、P.19、P.20、P.22、P.23、P.25、P.45、P.65、P.90、P.93、P.144、P.191、P.193、P.194、P.208、P.210、P.240、P.246、P.251、P.258、P.262、P.270、P.300、P.304、P.305、P.322) ・中学生のイラストがあり、課題を解決するための会話や疑問に思ったことを書いている。(第1学年P.21、P.24、P.26、P.29、P.32、P.41、P.43、P.45、P.62、P.64、P.80、P.82、P.88、P.93、P.107、P.110、P.122、P.128、P.144、P.179、P.212、P.220、P.230、P.242、P.260、第2学年P.11、P.14、P.16、P.19、P.26、P.48、P.50、P.55、P.57、P.62、P.68、P.95、P.97、P.98、P.102、P.104、P.134、P.137、P.148、P.192、P.203、P.210、P.223、P.241、P.247、P.271、P.278、P.283、P.288、第3学年P.13、P.16、P.21、P.36、P.39、P.40、P.59、P.61、P.64、P.73、P.76、P.92、P.95、P.99、P.103、P.107、P.111、P.112、P.116、P.124、P.126、P.129、P.143、P.148、P.153、P.156、P.168、P.170、P.174、P.184、P.186、P.189、P.192、P.194、P.196、P.198、P.202、P.204、P.210、P.214、P.216、P.217、P.230、P.245、P.246、P.249、P.255、P.276、P.277、P.299、P.315)	・第1学年の巻末に「探究の進め方」と「調べたことを発表しよう」を設定し、「結果をもとに考えよう」において、「話し合いのしかた」として、5点、「発表のしかた」として3点の視点を示している。(第1学年P.268～P.272) ・実験の結果の整理で話し合い活動を設定している。(第1学年P.145) ・第3学年の「地球の明るい未来のために」単元において意見交換と話し合い活動が設定されている。(第3学年P.327)
学図	・重要語句は黒字ゴシック体の太字にしてあり、ルビを用いている。(第1学年P.37) ・QRコードを記載しており、章のまとめを確認することができる。(第1学年P.47) ・「この時間のまとめ」として、数時間分の要点を記載している。(第1学年P.46) ・章の最後に「学びを日常に生かしたら」として、活用問題を記載している。(第1学年P.62～P.63) ・QRコードを記載しており、基礎問題を確認することができる。(第1学年P.83) ・章の最後に「章末問題」として、確認問題が記載されている。(第1学年P.126～P.127)	・章の最初に「Can-Do List」として、どのように学びに向かうか、どのような知識・技能を身につけるか、理解していることをどのように使うかを示している。(第1学年P.32) ・最後に「Can-Do List 自己チェック」として、Can-Do Listと比べて身につけた力をチェックする自己評価を設定している。(第1学年P.47)	・伝統や文化について含有しているような「サイエンスカフェ」という読み物がついている。(第1学年P.31、第2学年P.69、第3学年P.180) ・本文中の他教科との関連がある部分の近くに「つながり」という表記とともに関連部が教科名とともに抜き出されている。配置は、本文右の余白部分にある。(第1学年P.139、P.173、第2学年P.171、第3学年P.34)	・写真と模式図を比較して書いている。(第1学年P.38、P.42、P.55、P.69、P.85、P.88、P.95、P.99、P.107、P.108、P.110、P.111、P.112、P.133、P.134、P.138、P.141、P.143、P.145、P.147、P.148、P.152、P.158、P.162、P.168、P.195、P.196、P.200、P.207、P.208、P.213、P.214、P.221、P.222～P.223、P.227、P.242、P.245、第2学年P.22、P.41、P.43、P.60、P.65、P.84～P.85、P.86、P.93、P.94、P.147、P.154、P.155、P.160、P.162、P.163、P.166、P.184、P.189、P.190、P.194、P.203、P.206、P.211、P.229、P.230、P.234、P.236、P.240、P.248、P.250～P.251、P.252、P.258、P.260、P.261、P.262、P.263、P.264、P.265、第3学年P.16、P.21、P.31、P.83、P.97、P.111、P.112、P.146、P.149、P.159、P.168、P.179、P.228～P.229、P.230、P.234、P.253) ・中学生のイラストがあり、課題を解決するための会話の様子を書いている。(第1学年P.23、P.26、P.30、P.33、P.35、P.36、P.37、P.39、P.41、P.45、P.46、P.49、P.61、P.67、P.69、P.70、P.72、P.79、P.82、P.89、P.91、P.94、P.97、P.100、P.109、P.117、P.120、P.125、P.131、P.135、P.138、P.141、P.143、P.149、P.159、P.161、P.169、P.172、P.175、P.178、P.197、P.203、P.215、P.227、P.231、第2学年P.21、P.25、P.28、P.33、P.43、P.46、P.49、P.53、P.61、P.81、P.84、P.89、P.95、P.96、P.99、P.103、P.117、P.120、P.131、P.132、P.137、P.138、P.141、P.149、P.153、P.156、P.161、P.164、P.167、P.175、P.181、P.185、P.188、P.191、P.194、P.197、P.198、P.207、P.208、P.220、P.231、P.232、P.237、P.240、P.243、第3学年P.17、P.21、P.23、P.37、P.39、P.51、P.55、P.57、P.68、P.79、P.89、P.91、P.103、P.104、P.117、P.120、P.129、P.135、P.141、P.143、P.155、P.158、P.163、P.174、P.177、P.183、P.190、P.207、P.216、P.221、P.224、P.230、P.254)	・各学年の巻頭に「発表のしかた」を設定している。(第1学年P.9、第2学年P.8、第3学年P.6) ・各学年の巻頭に「主体的・対話的に、深く学ぶ」を設定し、話し合い活動のねらいを示している。(第1学年P.4、第2学年P.4、第3学年P.2) ・第3学年「自然・科学技術と人間」単元において、班での話し合いの仕方と全体での意見交換の方法を示している。(第3学年P.261)

教出	・重要語句は赤字ゴシック体の太字にしてあり、ルビをふっている。(第1学年P.19) ・小学校と呼び方が異なる語句には注釈がついている。(第1学年P.27) ・節の最後に「要点をチェック」として、要点の確認を設定している。関連ページ数も記載している。(第1学年P.40) ・重要語句は() 抜きになっており、ページの右端に赤字でルビをふっている。問題文の横に記載ページを書いている。(第1学年P.74～P.75) ・カラーの図や表を用いてある。(第1学年P.115) ・章の最後に「学習後の私」として既習事項の活用問題にを記載している。(第1学年P.25) ・単元の最後にカラーで「基本問題」を設定している。(第1学年P.76～77)	・「学習前の私」として問いを設定し、単元が終わったときに答えることができる課題を明確にすることで、目指すべき姿を示している。(第2学年P.8,P.29) ・伝統や文化について含有しているような「ハーローサイエンス」という読み物がついている。(第2学年P.45) ・算数・数学とのつながりがある部分に「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」という見出しがついている。配置は、本文中にある。個数は、第1学年が1個(P.198)第2学年が2個(P.248,P.250)第3学年が1個(P.207)である。	・写真と模式図を比較して書いている。(第1学年P.32,P.40,P.56,P.107,P.115,P.116,P.147,P.157,P.158～P.159,P.160,P.161,P.172,P.174,P.175,P.181,P.184,P.188,P.198,P.228,P.233,P.240,P.242,P.245,P.252,P.260,第2学年P.16,P.18,P.37,P.40,P.42,P.47,P.48,P.51,P.52,P.54,P.55,P.89,P.97,P.118,P.131,P.134,P.145,P.179,P.191,P.192,P.193,P.197,P.205,P.206,P.207,P.208,P.269,P.270,P.272,P.273,P.276,P.277,P.288,P.289,P.292,P.293,第3学年P.29,P.32,P.33,P.39,P.50,P.51,P.54,P.61,P.71,P.75,P.97,P.99,P.110,P.157,P.167,P.174,P.190,P.205,P.222,P.246,P.254,P.268,P.272,P.290,P.291,P.297)・中学生のイラストがあり、疑問、気づいたことが会話形式で書いている。(第1学年P.14,P.18,P.20,P.21,P.27,P.37,P.50,P.58,P.81,P.82,P.99,P.114,P.119,P.120,P.134,P.136,P.137,P.140,P.141,P.144,P.155,P.157,P.163,P.165,P.182,P.193,P.200,P.204,P.206,P.212,P.213,P.217,P.229,P.238,P.247,P.258,P.262,P.270,P.275,第2学年P.9,P.10,P.12,P.17,P.27,P.28,P.31,P.37,P.42,P.51,P.57,P.64,P.69,P.85,P.98,P.103,P.112,P.122,P.159,P.160,P.161,P.165,P.166,P.173,P.174,P.178,P.182,P.184,P.186,P.191,P.192,P.199,P.201,P.203,P.204,P.206,P.208,P.214,P.215,P.236,P.240,P.244,P.253,P.255,P.261,P.267,P.274,P.278,第3学年P.10,P.11,P.14,P.15,P.25,P.28,P.29,P.30,P.38,P.45,P.46,P.47,P.56,P.58,P.69,P.70,P.71,P.82,P.85,P.86,P.88,P.91,P.94,P.99,P.112,P.129,P.133,P.138,P.143,P.148,P.153,P.154,P.161,P.162,P.165,P.167,P.171,P.189,P.190,P.192,P.198,P.215,P.218,P.223,P.227,P.234,P.239,P.243,P.244,P.270,P.277,P.291,P.297,P.299)	・課題や仮説の設定、観察・実験の立案、結果の処理、考察場面において、「話し合おう」というキーワードを用いて話し合い活動を設定している。(第1学年P.137) ・第3学年「自然災害と私たち」単元で「私たちにできることは何か」という課題で話し合う活動を設定している。(第3学年P.291)
啓林館	・重要語句は黒字ゴシック体の太字にしてあり、ルビを用いている。(第1学年P.22) ・小学校と呼び方が異なる語句には注釈がついている。(第1学年P.18) ・単元の最後に「学習のまとめ」として、要点の確認を設定している。関連ページ数も記載している。(第1学年P.54～55) ・重要語句は黒太字、ルビがふられ、記載ページと説明を書いている。(第1学年P.120～121) ・カラーの図や表を用いてある。(第2学年P.104～P.105) ・章の最後に「基本のチェック」として、確認問題を記載している。(第1学年P.33) ・「基本チェック」に、関連ページ数を記載されている。(第1学年P.33) ・「力だめし」として応用問題を記載している。(第1学年P.56～P.59)	・章の最初と最後に同じ課題「学ぶ前にトライ!学んだあとにリトライ!」が提示しており、その章の学習をする前後の変化を自分自身で比較させる課題を設定している。(第1学年P.17,P.55) ・本文中の他教科との関連がある部分の近くに「～科と関連」という表記とともに関連部が教科名とともに抜き出している。配置は、本文左右の余白部分にある。(第1学年P.78,P.98,P.150,P.169,P.232,P.245,第2学年P.93,P.98,P.238,P.245,第3学年P.20,P.61,P.68,P.80,P.323) ・各学年の最後に算数・数学とのつながりのページを設けている。(第1学年P.280～P.282,第2学年P.295～P.296,第3学年P.326～P.327)	・写真と模式図を比較して書いている。(第1学年P.10,P.23,P.28,P.30,P.79,P.83,P.95,P.97,P.98～P.99,P.99,P.102,P.115,P.159,P.171,P.179,P.181,P.184,P.191,P.193,P.210,P.212,P.217,P.218,P.221,P.222,P.224,P.236,第2学年P.14,P.23,P.25,P.28,P.42,P.46,P.48,P.52,P.56,P.59,P.75,P.81,P.83,P.85,P.86,P.88,P.92,P.97,P.101,P.102,P.117,P.138,P.152,P.154,P.155,P.159,P.168,P.170,P.178,P.179,P.180,P.181,P.182,P.186,P.198,P.199,P.218,P.224,P.228,P.232,P.237,P.253,P.262,P.266,P.267,P.275,P.277,P.278,第3学年P.9,P.14～P.15,P.18,P.19～P.22,P.30,P.34,P.51,P.54～P.55,P.69,P.77,P.85,P.90,P.109,P.111,P.119,P.122,P.125,P.132,P.133,P.146,P.150,P.151,P.157,P.159,P.160,P.178,P.187,P.188,P.197,P.213,P.226～P.227,P.232～P.233,P.253,P.255,P.257,P.260) ・中学生のイラストがあり、疑問や課題を解決するための会話の様子を書いている。(第1学年P.13,P.15,P.29,P.46,P.60,P.91,P.126,P.143,P.145,P.162,P.164,P.190,P.200,P.208,P.242,第2学年P.30,P.35,P.66,P.67,P.119,P.132,P.148,P.154,P.192,P.195,P.197,P.208,P.223,P.231,P.268,第3学年P.5,P.17,P.21,P.22,P.42,P.87,P.99,P.103,P.111,P.112,P.115,P.126,P.127,P.129,P.137,P.138,P.151,P.154,P.159,P.170,P.201,P.203,P.247,P.270,P.292,P.305)	・第1学年、第2学年の巻末に「サイエンス資料」を設定し、「理科における話し合いと発表」において話し合いの手順を示している。(第1学年P.279,第2学年P.298) ・「話し合ってみよう」というキーワードを用いて、話し合う活動を設定している。(第1学年P.90) ・第3学年「自然と人間」単元で「持続可能な社会をつくるために、わたしたちにはどのようなことができるのだろうか」という課題で話し合う活動を設定している。(第3学年P.305)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 音楽(一般)

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
教出	・学習の目標を左ページ端、共通事項が右ページ端に示している。(第1学年P.6,P.7,P.10,P.11,第2・第3学年上P.6,P.10,P.14,P.15,第2・第3学年下P.6,P.10,P.11,P.12,P.13等) ・発声や歌うためのアドバイスを「Let's Sing!」として扱っている。(第1学年P.12,P.13,第2・第3学年上P.19,第2・第3学年下P.19) ・創作を「音のスケッチ」として、創作過程の形式を段階的に扱っている。(第1学年P.32-P.35,第2・第3学年上P.26-P.29,第2・第3学年下P.22-P.25) ・音楽を形づけている要素を1ページで示し、楽曲を聴いてそれらの働きに注目させている。(第1学年,第2・第3学年上P.64-65) ・楽典を巻末に3ページにわたって示している。また、各教材の右端に、楽典の掲載箇所を書いている。(各学年P.84) ・鑑賞曲の作曲者の時代区分をページの右端に示している。(第1学年P.39,P.45,P.49,第2・第3学年上P.31,P.35,P.41,第2・第3学年下P.27,P.33,P.41,P.43)	・目次に学びリンクを紹介している。(第1学年 第2・第3学年上下) ・ACTIVE「進んで学び合おうのページ」を配置している。(第1学年P.6,P.10,P.32,P.33,P.38,第2・第3学年上P.6,P.10,P.26,P.30,P.33,第2・第3学年下P.6,P.10,P.22,P.26,P.31) ・音楽の構造を理解し表現を工夫する紙面が設置してある。(第2・第3学年上下P.8,P.9) ・創作のページに協働的な活動が組み込まれている。(第2・第3学年上P.26,P.27,第2・第3学年下P.22,23) ・鑑賞のページに対話的な活動が組み込まれている。(第2・第3学年上P.30-32,第2・第3学年下P.26-P.31) ・「Let's Try」では、体験的な学習を取り入れている。(第1学年P.21,P.36-P.37,P.52-P.53,第2・第3学年上P.22-P.23,P.44-P.45,P.62-P.63,第2・第3学年下P.44-P.45)	・「鹿の遠音」「さくらさくら」では、縦書きの楽譜を紹介している。(第1学年P.51,P.53) ・「越天楽」で使われる楽器を写真で紹介している。また、楽譜も紹介している。(第2・第3学年上P.41,P.45) ・能で使われる楽器が写真で紹介している。(第2・第3学年上P.61) ・「音」ってなあに?では音について詳しく記述している。(第1学年P.66) 理科 ・私たちのくらしと音楽では、音楽著作権に触れている。(第2・第3学年上P.70-71) 社会 ・コンピュータと音楽について記述している。(第2・第3学年下P.64-65) 社会	・表紙は鑑賞教材に関わるものを、水彩画風に描いている。(全学年) ・表紙の裏見開き2ページにわたって共通教材に関する写真を載せている。(全学年) ・教材と表現・鑑賞の関連性を表で表している。(全学年P.4-P.5) ・キャラクターが色々な場面で発問を促したり、歌うための準備の説明をしている。(第1学年P.5,P.9,P.12等多数,第2・第3学年上P.5,P.9,P.23等多数,第2・第3学年下P.5,P.9,P.10等多数) ・ACTIVE!や音のスケッチ、深めてみようや比べてみようでは、マトリックスや表などを用いている。(第1学年P.9,P.32-P.33,P.34-P.35,P.43,第2・第3学年上P.9,P.31,P.32,P.43,P.56,第2・第3学年下P.22-P.23,P.25,P.37,P.50) ・様々な楽器や舞台芸術の写真を掲載している。(各学年裏表紙とその前の見開き)	・曲の相違点を表にまとめ、音楽の特徴を聴き取り、交流できるようになっている。(第1学年P.9,60,63,第2・第3学年上P.43,56,第2・第3学年下P.37,P.50) ・意見を交流し、表現の工夫や作品のよさ、面白さを共有する場面を設定している。(第1学年P.9,P.39,P.43,P.55,第2・第3学年上P.9,P.19,P.32,第2・第3学年下P.19) ・「話し合おう」のコーナーを設置している。(第1学年P.9,P.39,P.60,P.62,P.63,P.65,第2・第3学年上P.35,P.39,P.56,P.57,P.58,P.65,第2・第3学年下P.8,P.9,P.31,P.35,P.37,P.52,P.53) ・キャラクターのセリフに、活動の指針となる問いかけを記している。(第1学年P.9等,第2・第3学年上P.9等,第2・第3学年下P.10等)
教芸	・学習の目標と共通事項を左ページと右ページの端に示している。(第1学年P.10,P.11,P.12,P.13等,第2・第3学年上P.10,P.14,P.15,第2・第3学年下P.12,P.16,P.20等) ・発声について「MyVoice」として3学年にわたり、段階的に扱っている。(第1学年P.14-P.15,P.20,第2・第3学年上P.17,第2・第3学年下P.19) ・創作を「MyMelody」「Let's Create」として扱っている。(第1学年P.21,P.40-P.41,第2・第3学年上P.36-P.39,第2・第3学年下P.30-P.33) ・音楽を形づけている要素を1ページで示し、各要素についてポイントを図で示している。(第1学年P.67,第2・第3学年上P.73,第2・第3学年下P.89) ・楽典を「音楽の約束」として巻末に示している。(第1学年P.94-P.97,第2・第3学年上P.95-P.97,第2・第3学年下P.97) ・音符、音楽記号、リズムについての学習において、ゲーム的要素を取り入れて、反復学習ができるようにしている。(第1学年P.16-17,第2・第3学年上P.12-13)	・二次元コードにより、ICT機器の活用場を設定している。(第1学年P.39,P.43,P.45,P.53,P.61,P.63,P.97,第2・第3学年上P.21,P.25,P.31,P.49,P.51,P.95,P.97,第2・第3学年下P.13,P.35,P.65,P.67,P.69) ・目次とは別に歌唱・創作・鑑賞について1年間の学びが俯瞰できるページを設置している。(第1学年,第2・第3学年上下P.8,P.9) ・意見を出し合いながら交換する様子や学びの手順、工夫の視点を吹き出しによって示している。(第1学年P.19,P.21,P.22,P.23,P.30,P.31,P.37,P.40,P.41,第2・第3学年上P.17,P.22,P.23,P.29,P.33,P.36,P.37,P.43,P.44,P.45,P.61,P.65,P.69,第2・第3学年下P.19,P.25,P.30,P.31,P.32,P.33,P.50,P.53,P.54) ・長唄を唄おう(第2・第3学年上P.60)鑑太夫節を語ろう(第2・第3学年上P.66)のコーナーを設置している。 ・「指揮してみよう」では、音楽を指揮で表現する活動を取り入れている。(第1学年P.42-P.43,第2・第3学年上P.50-P.51,第2・第3学年下P.66-P.67)	・伝統芸能の写真やコメントを、冒頭に紹介している。(第1学年P.2-P.3) ・「越天楽」で使われる楽器を写真で紹介している。また、楽譜の唱歌も紹介している。(第1学年P.54,P.55) ・「六段の調」では、縦書きの楽譜を紹介している。(第1学年P.57) ・声の出る仕組みでは、声帯の厚みに触れている。(第1学年P.15) 理科 ・「春」ではイタリアの気候に触れている。(第1学年P.46) 社会 ・「夏の思い出」では、自然保護原点の地としての紹介をしている。(第2・第3学年上P.21) 理科・社会 ・「荒城の月」では、作詞者の言葉の中で会津落城に触れている。(第2・第3学年上P.25) 社会 ・「ブルタバ」では作曲時のチェコの社会情勢や地図が掲載している。(第2・第3学年下P.34-P.35) 社会・美術 ・ルールを守って音楽を楽しもう!では音楽著作権に触れている。(第2・第3学年下P.64-P.65) 技術	・表紙にアニメのようなキャラクターを使っている。 ・世界の音楽に関する写真を多く掲載している。また、共通教材に関係する写真を大きく使っている。(第1学年P.4-P.5,P.24-P.25,P.29,第2・第3学年上P.18,P.19,第2・第3学年下P.10,P.11,P.22) ・発声の仕方の図解、マトリックスを用いたまとめ、創作での表や絵などを掲載している。(第1学年P.14-15,P.19,P.20,P.21-P.23,P.37,P.40-P.41,P.47,第2・第3学年上P.16,P.17,P.23,P.36-P.39,第2・第3学年下P.19,P.30-P.33) ・「ソーラン節」、長唄「勸進帳」、義太夫節「野崎村の段」ではメロディの動きを表で表している。(第1学年P.60,第2・第3学年上P.60,P.66)	・音楽を深めたり、技能を習得するために話し合いの場を設定している。(第1学年P.36-P.37,P.41,P.47,P.57,第2・第3学年上P.16,P.17,P.22,P.23,P.33,P.39,第2・第3学年下P.31,P.33,P.65) ・「曲のよさをプレゼンしよう」では、曲のよさを伝える紹介文を書き、プレゼンをする活動を取り入れている。(第1学年P.93,第2・第3学年下P.96) ・キャラクターの吹き出しに、活動の指針となる問いかけを記している。(第1学年P.15等,第2・第3学年上P.12等,第2・第3学年下P.25等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 音楽(器楽合奏)

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
教出	○リコーダー - 姿勢、構え、奏法を示している。(P.4-P.5) - チューニングについて記述している。(P.5) - 運指を楽譜のすぐ横に示している。(P.6,P.7,P.8,P.10,P.14,P.15) - タンギングの方法、種類について図と表で示している。(P.6) - サミングのやり方について写真で示している。(P.12) - 息のコントロールについて、腹式呼吸の方法を記述している。(P.13) ○和楽器 - 篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓を扱い、構造、姿勢と構え方、運指、奏法を写真で示している。(P.18-P.22,P.24-P.25,P.36-P.38,P.41,P.43-P.48,P.50,P.54-P.59) ○ギター - 姿勢とかまえ方、チューニング、奏法を写真入りで示している。(P.28-P.30) - 楽譜の上に、運指図(ダイヤグラム)を示している。(P.31,P.35) ・巻末にリコーダーの運指表とギターとキーボードのコード表を掲載している。(P.99,口絵③④)	- 学習に役立つ情報にアクセスできる学びリンクを設定している。 - 他者との協働を促す教材を設定している。「音のスケッチ不思議な旋律PART1,2 楽器と唱歌によるパッチワーク」(P.71,77,P.92) - 演奏家からのメッセージを掲載している。(口絵②,P.4,P.18,P.24,P.28,P.36,P.44,P.54)	- 太鼓の項で、各県の伝統芸能の写真を掲載している。(P.54福岡県,秋田県) - 名曲旋律集の項で、クラシック音楽の有名なメロディを掲載している。(P.94-P.97 シューベルトの子守歌、ブルタバ、冬(「四季」から)等)	- 表紙は扱う楽器に関わるものを水彩画風に描いている。 - 表紙裏見開き2ページを使って、各種楽器の演奏風景を載せ、表記してあるページを示している。 - 音楽(一般)の教科書と同じキャラクターを使用し、ワンポイントアドバイスをしている。 ○リコーダー・ギター - サミングの仕方を写真で示している。(P.12) - 色々な奏法を写真で紹介している。(P.30) ○和楽器 箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の基本的な奏法や色々な奏法を大きな写真で掲載している。(P.19,P.25,P.38,P.43,P.45,P.47,P.48,P.50,P.56-P.59) ○打楽器 5種類の打楽器を写真で紹介している。(P.98)	「何が同じで何が違う」では、管楽器、弦楽器それぞれの比較鑑賞をして楽器の特徴を捉える活動を設定している。(P.26,P.27,P.52,P.53) - 音楽の見方・考え方を働かせる学習活動として、「話し合う」が設定している。(P.26,P.52)
教芸	- 協働しながら学習を進められるように「アンサンブルセミナー」を設定している。(P.10-15) ○リコーダー - 姿勢、構え、奏法を示している。(P.16-18) - チューニングの必要性、方法について記述している。(P.17) - タンギングについて文章と図で解説している。(P.19) - アーティキュレーションについて、奏法と方法をまとめて示している。(P.21) - サミングのやり方について、写真で示している。(P.26) ○ギター・打楽器 - 種類、構造、チューニング、姿勢と構え方、運指や奏法を写真入りで示している。(P.32-35,36-37) - 打楽器の持ち方や奏法を写真で示している。(P.70-74) ○和楽器 箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八を扱い、構造、調弦、姿勢と構え方を写真入りで示している。(P.40-43,45,47,50-54,P.56-58,P.61-63,P.66-68) - リコーダーの運指表とギターとキーボードのコード表を掲載している。また、楽器の図鑑では、楽器を分類別に掲載している。(P.100-P.105)	- 目次とは別に、器楽と創作の分野について1年間の学びが俯瞰できるページを配置している。(P8,P.9) - 吹き出し等で、生徒の思考の例を明示している。(P.11,P.13,P.15,P.49,P.93,P.95,P.100) - ページの下に奏法など様々なポイントを示している。(P.18,P.19,P.22,P.23,P.24,P.27,P.34,P.37,P.42,P.43,P.44,P.45,P.46,P.54,P.55,P.59,P.60,P.64,P.67,P.68,P.72,P.87,P.90,P.91,P.92,P.94,P.100) - 二次元コードにより、ICT機器の活用場を設定している。(P.17,P.33,P.41,P.51,P.57,P.63,P.67) - 演奏者からのメッセージを掲載している。(P.2,P.4,P.5,P.40,P.50,P.56,P.62,P.66)	- 三味線の項で長唄、義太夫、津軽三味線の写真を掲載している。(P.50) - 太鼓の項で、各県の伝統芸能の写真を掲載している。(P.56沖縄県,鹿児島県,広島県,岐阜県) - 篠笛の項で、各県の伝統芸能の写真を掲載している。(P.62 北海道,徳島県,青森県,大分県) - 日本音楽の楽器編成の項で、雅楽、能、狂言、歌舞伎、文楽等の楽器を紹介している。(P.69)	- 表紙にアニメのようなキャラクターを使っている。 - 表紙裏見開き2ページを使って、日本人ピアノ奏者のコメントと写真を掲載している。また、次の見開き2ページに各国の民族楽器の演奏風景の写真を掲載している。 - My Melodyでは音楽(一般)の教科書と同じキャラクターを使用し、ワンポイントアドバイスをしている。(P.49) ○リコーダー・ギター - 吹き方の悪い例もイラストで示している。(P.18) - 様々な種類や演奏者を写真で紹介している。(P.31,P.32,P.33) ○和楽器 箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八の奏法や祭りや芸能で使われている写真等を掲載している。(P.40,P.50,P.56,P.62,P.66) ○打楽器 15種類の打楽器について、打ち方が写真を使って紹介している。(P.70-P.74)	「深めよう音楽」では、アーティキュレーションの工夫、パートの役割、曲の構成について話し合う場面が設定されている。(P.11,P.13,P.15)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 美術

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力等の育成に資する言語活動の工夫
開隆堂	・題材ごとに学習の目標を3つ示している。(第1学年:P.10等) (第2・第3学年:P.10等) ・「美術の用語」と関連する作品を示している。(第1学年:P.11等) (第2・第3学年:P.44等) ・基礎的な技法や知識について二次元コードを掲載し、動画を用意している。(第1学年:P.54等) (第2・第3学年:P.108等) ・題材の学習内容と関連する技法とその掲載箇所を右下に示している。(第1学年:P.11-P.49) (第2・第3学年:P.8-P.105)	・「思考力・判断力・表現力」の育成のためのヒントとなるよう発想、構想の仕方や進め方を示している。(第1学年:P.32等) (第2・第3学年:P.24等) ・鑑賞の学習を通して美術と社会の関連性を示している。(第1学年:P.50-P.51) (第2・第3学年:P.92-P.105) ・教科書内で関連する内容のページを示している。(第1学年:P.11等) (第2・第3学年:P.13等)	・伝統や文化に関する内容を表現技法、作品、行事と関連付けて示している。(第1学年:P.44-P.51) (第2・第3学年:P.38-P.51 P.84-P.85 P.88-P.91 P.116-P.117) ・教科横断的な学習について、教科書の左下に関連する教科名と単元を記載している。(第1学年:P.10-P.62) (第2・第3学年:P.6-P.118)	・原寸大で鑑賞できる作品をマークとともに示している。(第1学年:P.25-P.28) (第2・第3学年:P.19 P.90) ・作品の一部を拡大して掲載している。(第2・第3学年:P.20) ・各題材において学ぶべき内容を示している。(第1学年:P.8 P.32) (第2・第3学年:P.8 P.36 P.62)	・鑑賞の学習における言語活動の充実を図るために折り込みページや大型図版を掲載し、言語活動を促している。(第1学年:P.2-P.4 P.25-P.28) (第2・第3学年:P.41-P.47 P.97-P.100等) ・言語活動を促すための学習のポイントを示している。(第1学年:P.12等) (第2・第3学年:P.13等)
光村	・題材ごとに、造形的な見方・考え方に関わる目標を示している。(第1学年:P.22-P.25等) (第2・第3学年:P.6-P.9等) ・巻末資料として技法や用具の扱い方や[共通事項]の資料に加え、発想の広げ方や美術史などを掲載している。(第1学年:P.58-P.59等) (第2・第3学年:P.76-P.77等)	・学びの流れがひと目でわかるように「授業が見える」紙面構成(「表現」と「鑑賞」を一体として捉える構成)にしている。(第1学年:P.22-P.25等) (第2・第3学年:P.6-P.9等) ・二次元コードを掲載し、技法や用具の扱い方の動画や、鑑賞のための音声ガイド、立体の生徒作品を360度鑑賞できる動画がある。(第1学年:P.36等) (第2・第3学年:P.13等)	・日本の伝統文化について、47都道府県の伝統工芸や国内の世界文化遺産を紹介したり、文化財を掲載したりしている。(第1学年:P.30-P.37等) (第2・第3学年:P.2-P.4 P.97-P.99 等) ・他教科とのつながりを示すコラムを設けている。(第1学年:P.37等) (第2・第3学年:P.59等)	・版画や絵巻物を鑑賞する題材では、風合いのある用紙を使用したり、「最後の晚餐」を鑑賞する題材では、鑑賞図版の上から書き込みができるトレーニングペーパーを綴じ込んだりするなど、鑑賞活動が深まるようにしている。(第1学年:P.19-P.20) (第2・第3学年:P.10-P.13等) ・片観音開き(3ページ)や両観音開き(4ページ)で、作品を掲載している。(第1学年:P.2-P.4等) (第2・第3学年:P.2-P.4等)	・生徒が作品を鑑賞し、対話が生まれるよう、各題材の最初に、鑑賞図版とともに問いかけを示している。(全題材) ・他者と意見交換をしながら作品をつくる様子や、作者の思いや制作の意図を伝える「作者の言葉」を掲載している。(全題材)
日文	・題材ごとに身に付けたい力を「造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標」「発想や構想、鑑賞に関する目標」「主体的に学習に取り組むための目標」として、マークとともに示している。(第1学年:P.16等) ・題材名とともに、活動や目的を表すサブタイトルを示している。(第1学年:P.16等) ・[共通事項]への気付きを促す「造形的な視点」を吹き出して示している。(全題材)	・作家や生徒の作品、生活の中にある美術に関する写真を掲載している。(第1学年:P.12等) (第2・第3学年上:P.38等) ・二次元コードを掲載し、鑑賞や表現の幅を広げる360度動画やスライドショーを用意している。(第1学年:P.15等)	・地域文化や郷土のことを考える学習では、地域に関わる作品をつくる事例を掲載している。(第1学年:P.40等) (第2・第3学年上:P.42-P.43等) (第2・第3学年下:P.52等) ・道徳と関連している内容をマークとともに示している。(第1学年:P.18等) (第2・第3学年上:P.14等) (第2・第3学年下:P.8等)	・活動の情景を掲載し、活動の入口から出口まで、全ての場面が等しく学びであることを示すレイアウトにしている。(全題材) ・作品全体を見開きや折り曲げの大型図版で掲載し、作品の一部や全体を拡大したり、一部を原寸大で示したりしている。(第1学年:P.32-P.37等) (第2・第3学年上:P.26-P.29等) (第2・第3学年下:P.48-P.49等)	・共同制作の学びを掲載し、交流を通して新しい考えを生み出す手立てを示している。(第2・第3学年下:P.14) ・言語活動を促すために、題材ごとに「作者の言葉」を掲載している。(第1学年:P.16等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 保健体育

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・「キーワード」を「学習課題」と共に上部に示している。(P.6,P.8,P.10等) ・本文中にある「重要語句」をふりがな付きで強調表記している。(P.6,P.9,P.10等) ・各章末に「学習のまとめ」があり、確認問題による振り返りや活用の問題等を掲載している。(P.18,P.47-P.48等)	・学習の導入部分では、「見つける」を提示し、既習内容の確認や身近な生活にある疑問を示している。(P.6,P.8,P.10等) ・各章末に「章末資料」として補足資料を掲載している。(P.16-P.17,P.43-P.46等) ・「Dマーク」のあるページでは、資料やキーワードに関する動画や他教科との関連などをインターネットを使って学習することができるように示している。(P.6,P.10,P.11等)	・学年ごとに、保健分野、体育理論の順で配置している。 ・第3学年では、保健分野の項目の合計が13項目であるが、発展などのページを含め、見開き1ページを1時間として16時間分の構成となっている。 ・教科横断的な関連を一覧にしたページはない。マークで示し、関連ある内容を示している。(P.5,P.10,P.19等) ・SDGsについて記載している。(P.166) ・WEBを使った学習を「Dマークコンテンツ」として一覧にまとめている。(P.1)	・章の始まりの見出しは、半ページで、「学習内容」「ページ数」「小学校で学んだこと」「中・高校で学ぶこと」「偉人の紹介」と「2枚の写真」がある。(P.19,P.49等) ・重要語句は太字で書かれており、全てルビをふっている。 ・イラスト、グラフ、写真を文章に沿って配置している。(P.12-P.13,P.66-P.67等) ・語句について補足説明をしている。(P.20-P.21,P.136等) ・幼児の裸に近い状態の写真が掲載されている。(P.159)	・章末に「学習のまとめ」の問題がある。(P.47-P.48,P.89-P.90等) ・章末の「学習のまとめ」には、観点に沿った活用問題と自分の生活に活かす問題がある。(P.48,P.90等)
大日本	・「キーワード」を下部に示している。(P.17,P.19,P.21等) ・本文中にある「重要語句」を強調表記している。(P.16,P.18,P.20等) ・各章末の「学習のまとめ」の中に、「重要な言葉」が説明されている。(P.28,P.53等)	・学習の導入部分では、「つかもう」を提示し、自己の生活習慣等について質問し、興味・関心を高める内容を提示している。(P.16,P.18,P.20等) ・各章末に「章末資料」として補足資料と実生活に活かすためのワークシートを掲載している。(P.26-P.27,P.50-P.52等) ・「WEB」マークが「学習のまとめ」や「資料」に示しており、ウェブサイトにある動画や資料を使って学習ができるように明記している。(P.14,P.28,P.47等)	・学年ごとに、体育理論、保健分野の順で配置している。 ・第3学年では、保健分野の項目の合計が12項目で見開き1ページを1時間として、12時間分の構成としている。 ・教科横断的な関連を一覧にしたページはない。マークで示している。(P.30,P.32,P.34等)	・章の始まりの見出しは、半ページで、「学習内容」「小学校で学んだこと」「中・高校で学ぶこと」「3枚の写真」がある。(P.29等) ・重要語句を太字で表記している。 ・イラスト、グラフ、写真は右側に、文章は左側に配置している。(P.30-P.31,P.74-P.75等) ・★で語句について補足説明をしている。(P.34,P.74等)	・章の終わりに「学習のまとめ・重要語句」を示している。(P.53,P.88,P.117等) ・章の終わりに「学びを活かそう」という、自分の生活に活かす問題がある。(P.52,P.87,P.116等)
大修館	・「キーワード」を「きょうの学習」の下に示している。(P.19,P.21,P.23等) ・習得すべき基本用語を強調表記している。(P.6,P.7,P.8等) ・各章末に「章のまとめ」があり、育成を目指す資質能力の三つの観点に沿った構成となっている。(P.26-P.27,P.56-P.57等)	・学習の導入部分では、「課題をつかむ」において、イラストやグラフを用いて既習内容の確認や実生活の疑問を選択肢や記述で記入するように示している。(P.18,P.20,P.22等) ・本文で学んだことに関連した「特集資料」や学びを深めるための「クローズアップ」や「コラム」を掲載している。(P.12-P.13,P.54-P.55等) ・「web 保健情報館」マークがページ下部に示されており、ウェブサイトから参考になる情報を調べることができるように明記している。(P.8,P.21,P.38等)	・学年ごとに、体育理論、保健分野の順で配置されている。 ・第3学年では、保健分野の項目の合計が16項目で見開き1ページを1時間として16時間分となっている。 ・教科横断的な関連を一覧にしたページはない。マークと関連する内容を示している。(P.30,P.158,P.171等) ・SDGsについての掲載がある。(口絵P.7-P.8) ・WEBを使った学習を一覧にしたページはない。	・章の始まりの見出しは、見開き1ページで、「学習内容・ページ数」「小学校で学んだこと」「中・高校で学ぶこと」「6枚の写真」「章の課題」が示されている。(P.28-P.29,P.58-P.59等) ・重要語句を太字で表記している。 ・イラスト、グラフ、写真は文章に沿って配置している。(P.30-P.31,P.80-P.81等) ・語句について補足説明をしている。(P.30-P.31,P.86等)	・章末に「章のまとめ」の問題がある。(P.56-P.57,P.94-P.95等) ・章末の「章のまとめ」に、思考・判断・表現の問題と活用問題と自分の生活に活かす問題があり、自分の考えを記入する欄を設けている。(P.56-P.57,P.94-P.95等)
学研	・「キーワード」を「単元名」の下に示している。(P.28,P.30,P.32等) ・本文中にある「重要語句」を強調表記している。(P.28,P.32-P.33等) ・各章末に「章のまとめ」があり、「学びに向かう力、人間性等」に関する振り返りの場面という構成になっている。(P.41,P.68-P.69等)	・学習の導入部分では、「課題をつかむ」を提示し、事例や情報などから学習課題を示している。(P.28,P.30,P.32等) ・各章末に「章末資料」はないが、活用の場面として「探求しようよ」を表記している。(P.22-P.24,P.38-P.40等) ・「リンク」や「教科書サイト」のマークがあるページでは、参考になるウェブサイトやデジタル教材の情報を掲載している。(P.24,P.33,P.38等)	・学年ごとに、体育理論、保健分野の順で配置している。 ・第3学年では、保健分野の項目の合計が11項目で見開き1ページを1時間として、13時間分の構成としている。 ・教科横断的な関連を一覧にして示している。(P.190-P.191) ・SDGsについての掲載がある。(P.148,P.189) ・WEBを使った学習を一覧にしたページはない。	・章の始まりの見出しは、見開き1ページで、「学習内容・進め方」「小学校で学んだこと」「中・高校で学ぶこと」「7枚の写真」活躍するひとからのメッセージ「ひと」がある。(P.42-P.43等) ・重要語句を太字で表記している。 ・イラスト、グラフ、写真は文章に沿って配置している。(P.44-P.45,P.98-P.99等) ・語句について補足説明をしている。(P.46-P.47,P.90-P.91等)	・章末に「章のまとめ」の問題がある。(P.68-P.69,P.105等) ・章末の「章のまとめ」に、観点に沿った活用問題と自分の生活に活かす問題として、自分の考えを表記する欄を設けている。(P.68-P.69,P.105等) ・「学年の振り返り」がある。(P.70,P.134等)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 技術・家庭（技術分野）

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・各編ごとに振り返りの基礎問題と重要語句のリストを掲載し、学習の定着を図っている。(P.86-P.87,P.136-P.137等) ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして「ポイント」コーナー、「TECHLab」として工程ごとの基礎的・基本的な技能の記述、「コンピュータの基本操作」の説明を掲載している。(P.50-P.67,P.114-P.117等) ・黒太字で表記してある重要語句を、用語解説としてその内容を掲載し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、Dマークを表示し、デジタルコンテンツを利用し、学習できるようにしている。(P.286-P.288) ・基礎的なプログラムについて、手帳として切り離して使用できるようにしている。(別冊P.1-P.7)	・自らの問題解決に主体的に取り組むことができるように、問題解決カードを記載している。(P.39,P.41,P.47,P.49,P.77等) ・ガイダンスにおいて「問題の発見、課題の設定」、「設計・計画」、「製作、制作、育成」、「成果の評価、改善・修正」、「新たな問題の発見」という技術による問題の解決の学習過程を示し、社会での技術による問題の解決の過程の具体例を掲載している。(P.14-P.15) ・各節学習の始めに「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」という活動を設定している。(P.20,P.22,P.30,P.34等) ・各内容の制作実習例を「問題解決例」として事例を取り上げ、「問題の発見」、「課題の設定」の具体例を示すとともに、製作、制作、育成の手順を掲載している。(P.68,P.69,P.70,P.71等)	・日本の伝統・文化がわかるように「伝統文化」マークを付けている。(P.37,P.65,P.109,P.134) ・他教科との関連、小学校との関連した内容について、アイコンで示し、説明のQRコードがある。(P.9,P.20,P.24,P.25,P.26等)	・全てのページに、説明のあるさし絵、地図、図表などの資料を掲載している。 ・学習内容に関して、安全への配慮や参考になる資料等についてマークを付けている。	・各編の終わりに「ふり返ろう」を設定している。(P.87,P.137,P.197,P.263) ・「製図」や「プログラム」など、技術分野特有の言語を示し、その後の学習内容に使っている。(P.42-45,226,227) ・問題を解決するために必要な思考を手助けする表記やチャートを示している。(P.77,78,103,111等)
教図	・各編ごとに知識・技能についての振り返りの基礎問題と思考・判断・表現についての発展的な問題を掲載している。(P.76,118,184等) ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「基礎技能」コーナー、ハンドブックにおいて基礎技能を掲載し、必要な技能は、加工順に「つくってみよう」「育ててみよう」としてまとめられ、図や写真とともに説明している。(P.28,P.29,P.32,P.33,P.52-P.55等) ・青太字で重要語句を表記し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、QRコードを表示し、デジタルコンテンツを利用し、学習できるようにしている。(P.27,P.29,P.31,P.33,P.51等)	・各編末に「主体的に取り組む態度」を構成している。(P.77,P.119,P.185,P.269) ・各内容の設計・計画において「問題を発見する」、「目的や条件をもとに構想を考える」、「構想を具体化する」、「設計をまとめる」という技術の問題の解決の学習過程を示し、学習過程ごとに具体例を掲載している。(P.37-P.43,P.92-P.95等) ・発展的な内容について「もっと知ろう」として示している。(P.17,P.83,P.107,-P.109,P.113等) ・各内容の制作実習例を「題材例」として事例を取り上げ、「問題の発見」、「課題の設定」の具体例を示すとともに、制作・製作・育成の手順を掲載している。(P.26-P.33,P.50-P.69等)	・伝統文化に関する写真と説明をマークを付けて掲載している。(P.21,P.35,P.71) ・学習活動やポイントを絵と吹き出しで示している。	・全てのページに、説明のあるさし絵、地図、図表などの資料を掲載している。 ・学習内容に関する資料、安全への配慮等について関連したマークを付けている。	・「設計をまとめる」「育成計画をまとめる」などの技術・家庭科としての言語活動を設定している。(P.42-P.49,P.94,P.95等) ・「製図」や「プログラム」など、技術分野特有の言語を示し、その後の学習内容に使っている。(P.44-P.49,P.222-P.231)
開隆堂	・黒太字で表記してある重要語句を、学習のまとめで一覧表にしている。(P.92,P.138P.,192,P.264) ・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「動作のポイント」マーク、学習の参考になる内容や資料・解説として「参考」の囲みを掲載している。(P.13,P.27,P.31,P.35等) ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために、QRコードがある。(P.13,P.17,P.27,P.29等) ・基礎的なプログラムについて、巻末資料として掲載している。(P.280-P.287)	・各編末に「学びを深めよう」を設けている。(P.93,P.139,P.193,P.265) ・各内容において、「問題解決の流れ」の項目を示し、「問題の発見と課題の設定」、「設計と試作」、「製作」、「成果の評価と改善」等の技術による問題の解決の学習過程の具体例を掲載している。(P.44-P.47,P.114-P.117等) ・「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」を記載している。(P.22,P.24,P.26,P.28等) ・各内容の制作実習例を「実習例」として事例を取り上げ、技術による問題解決の学習過程の具体例を掲載している。(P.56-P.67,P.120-P.133等)	・各編ごとに歴史資料として「年表」で技術の発展を示している。(P.11,P.21,P.95,P.141P.,195) ・他教科等との関連、小学校との関連した内容についてアイコンをつけて示し、QRコードからコンピュータで説明を参照できるようにしている。(P.14,P.17,P.34等)	・全てのページに、説明のあるさし絵、地図、図表等の資料を掲載している。 ・資料や等、安全への配慮、他との関連等についてマークを付けている。	・各節末に「技術のしくみ、工夫」に関する課題を設けている。(P.92,P.138,P.192,P.264) ・「製図」や「プログラム」等、技術分野特有の言語を示し、その後の学習内容に使用している。(P.40-43,P.241,P.251)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 技術・家庭（家庭分野）

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・各編の終わりに「学習を振り返ろう」、「学習したことを確かめよう」、「生活に生かそう」の3段階で構成する「学習のまとめ」を設けている。(P.100-P.101,P.156-P.157,P.208-P.209,P.264-P.265) ・実習や生活の中で必要な基礎技能を「いつも確かめよう」とタイトルをつけてまとめている。調理の基礎技能(P.54-P.63)、日常着の手入れの基礎技能(P.124-P.131)、布を用いた製作の基礎技能(P.136-P.141)。 ・調理実習では「これだけできるようになろう!」、布を用いた製作実習では「チェック」で押さえた技能をチェック形式でまとめている。(P.67,P.73,P.75,P.81,P.83,P.143-P.147) ・五大栄養素と6つの食品群の関連を折り込みページでつなげて示している。(P.27,P.33-P.34) ・新設された「蒸す」調理について、調理法の特徴、蒸し器の使い方、蒸し器がない場合の蒸す調理法、題材例(ぶた肉と野菜の重ね蒸し、蒸しどりのごまだれ、野菜の蒸しパン)を掲載している。(P.60,P.76,P.231) ・新設された「高齢者との関わり」について、高齢者の体の特徴、介助の仕方、声の掛け方をイラスト付きで掲載している。生き生きと高齢期を送る方の資料、専門家からのアドバイスも掲載されている。(P.258-P.259)	・巻頭の「ガイダンス」巻末の「生活の課題と実践」で流れを統一して、問題を解決する道筋を具体例を用いて示している。(P.6-P.7,P.267-P.277) ・意思決定のプロセスを食生活、衣生活、消費生活で統一した形式で示している。(P.44-P.45,P.116-P.117,P.196-P.197) ・見開き構成で「始めの活動」「展開」「まとめの活動」の3ステップで流れを示している。(P.22-P.23,P.24-P.25,P.26-P.27等) ・巻頭の「ガイダンス」に自分の生活をチェックするページを設け、1年ごとに変容が見られるようになっている。(P.12-P.13) ・各節ごとに、主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするための発問を「話し合ってみよう」、「やってみよう」、「考えてみよう」、「調べてみよう」で示している。(P.22,P.26,P.28,P.30,P.32等) ・調理実習のページに「私のオリジナル」、布を用いた製作実習では「工夫例」として、問題解決学習へのヒントがある。(P.67,P.73,P.75,P.143,P.145,P.146等)	・伝統や文化の内容に「伝統文化」マークを付けて示している。(P.90-P.95,P.112-P.115,P.155,P.164-P.167,P.219,P.237) ・技術・家庭の他の学習内容と関連する箇所に「リンク」マーク、他教科と関連する箇所に「他教科」マーク、小学校で学習した内容の関連箇所に「小学校」マークを付けて示している。(P.22,P.23,P.24,P.25,P.26等)	・実物大の野菜、果物、幼児の靴や箸の写真を掲載している。(P.36-P.39,P.226) ・ユニバーサルデザインの観点からDマークコンテンツ一覧としてまとめられており、インターネットを活用した学習ができるようになっている。また、他教科とのリンクや、他教科との関わりを示している。画像には音声による解説がある。(P.291) ・ガイド役のキャラクター4人の挿絵を随所に表示している。(P.2,P.3,P.8等) ・教科書の下部分に「せいかつメモ」がある。(P.22,P.24,P.26等) ・「プロに聞くと!」と題した学習内容に関する職業の人のコラムがある。(P.29,P.43,P.53,P.114,P.131,P.151,P.155,P.165,P.177,P.204,P.207,P.239,P.251,P.259,P.285)	・自分の思いや気持ちを伝え合う活動「話し合ってみよう」やロールプレイング等の言語活動を取り入れた活動例や実習例がある。(P.22,P.26,P.108,P.110,P.262,P.263等) ・ワークシート例やレポート例、目的に応じて書く例を示している。(P.30,P.111,P.176,P.241,P.249等) ・学習内容のまとめ方や伝え方のポイント、及び実践例が示している。(P.270,P.272-P.277) ・自分の考えを書き込めるスペースがある。(P.7,P.13,P.15等) ・家庭分野の学習に関わる用語について、「言葉のページ」で解説している。(P.286-P.287)
教図	・章末の「学習のふり返し」には、3観点に沿って学んだことを確認できる問題を掲載している。(P.34,P.68,P.78,P.102,P.160,P.188,P.210,P.234,P.280) ・実習や生活の中で必要な基礎技能を各編に掲載している。調理の基礎技能(P.112-P.121)、日常着の手入れの基礎技能(P.182-P.187)、布を用いた製作の基礎技能(P.190-P.198) ・調理実習例において、材料の一つ一つが6つの食品群の何群にあたるかをマークで示している。(P.124,P.126,P.128,P.129,P.132等) ・五大栄養素、6つの食品群、食品成分表を統一した6色で分類し、関連させて示している。(P.81,P.88-P.97) ・新設された「蒸す」調理について、調理法の特徴、蒸し器の使い方、フライパンを使った蒸し方、題材例(シュウマイ、魚のホイル蒸し、蒸し野菜サラダ)を掲載している。(P.120,P.129,P.137,P.143) ・新設された「高齢者との関わり」について、高齢者の一般的な身体の特徴を理解するための活動例、関わるときのマナーや歩行の介助をイラスト付きで掲載している。(P.28-P.30)	・巻頭に「ガイダンス」巻末に「家庭分野の学習を振り返ろう」を設けている。(P.8-P.11,P.292)巻頭資料に課題解決学習の流れが示されている。(P.4-P.5) ・各章の終わりに、これまでの学習を生かして課題に取り組む例が示されている。どの項目も統一したステップで示され、流れに沿って学習を繰り返せるようになっている。(P.32-P.33,P.66-P.67,P.78-P.79,P.102-P.103,P.158-P.159,P.282-P.291等) ・各節が見開き構成で「見つめる」「学ぶ」「振り返る」の3ステップ構成になっている。(P.14-P.17,P.18-P.23,P.26-P.27,P.28-P.31等) ・各領域の導入に、自立度チェックを設けている。(P.13,P.37,P.71,P.163,P.213,P.239) ・「話し合ってみよう」、「考えてみよう」、「発表してみよう」等で、学習活動を示している。(P.14,P.15,P.18,P.19,P.20,P.22等) ・実習のページに「私のアレンジ」、「どうしてこうなったのかな?」として、問題解決学習につながる問いが示されている。(P.127,P.133,P.135,P.205)	・伝統や文化の内容に「伝統文化」のマークを表示している。(P.98,P.150,P.154,P.168,P.217) ・カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科や小学校、他の学習とのかかわりを「リンク」マークで示している。(P.25,P.28,P.33,P.39等)	・実物大の手形、足型、野菜、卵、綿花等の写真を掲載している。(P.38,P.91-P.94,P.181) ・インターネットを活用した学習ができるように、二次元コードにより、サンプル動画として参考資料が示されている。画像には、音声による解説がある。(P.7,P.17,P.27,P.29等) ・双子の兄弟のキャラクターがガイド役をしている。(口絵1等) ・「センパイに聞こう!」と題した学習内容に関する職業の人の意見が掲載されている。(P.35,69,161,211,235,281)	・ロールプレイングや話し合い等の言語活動を取り入れた実習例がある。(P.15,P.17-P.19,P.22,P.41等) ・「生活の課題と実践」と題して内容末に、問題解決の過程とまとめ方や発表方法の例がある。(P.282-P.291) ・章ごとに、自分の考えを書き込めるスペースがある。(P.13,P.17,P.23,P.31,P.34,P.37等)

開隆堂

・章末の「学習のまとめ」には、3観点に応じた確認問題を掲載している。(P.67,P.155,P.205,P.225,P.265) ・実習や生活の中で必要な基礎技能を各編に掲載している。調理の基礎技能(P.110-P.113)、日常着の手入れの基礎技能(P.180-P.184)、布を用いた製作の基礎技能(P.196-P.201) ・調理実習例のページに「調理法Q & A」として、調理のポイントがまとめられている。(P.116-P.117,P.118-P.119,P.120,P.121,P.124-P.125,P.126,P.127等) ・五大栄養素、6つの食品群、食品成分表がそれぞれに示されている。(P.83,P.85-P.93,P.156-P.159) ・新設された「蒸す」調理について、水蒸気で加熱する調理の特徴、蒸し器の使い方、題材例(蒸し野菜サラダ、米粉蒸しパン)を掲載している。(P.112,P.132,P.139) ・新設された「高齢者との関わり」について、体験的な活動を通して高齢者の一般的な身体の特徴や基礎的な介助方法が学べるようイラストで示している。(P.60-P.61,P.280)	・学習のまとめりごとの「生活にいかそう」や巻末の「生活の課題と実践」のページで、課題解決学習の進め方、まとめ方、課題例を示している。(P.25,P.41,P.53,P.266-P.277等) ・巻頭の「ガイダンス」では、「主体的」「対話的」「深い学び」について具体的に示されている。(P.2-P.9) ・見開き構成で、本時の学習の目標や学習活動を見通すことができる。「導入課題」が、身の回りの事をもとにした課題で示してある。(P.18-P.19,P.20-P.21等) ・学習の前後での変容が見とれるよう、学習を始める前と後の興味・関心を記入する欄がある。(P.14-P.15,P.70-P.71,P.160-P.161,P.206-P.207,P.228-P.229) ・アクティブラーニングの学習技能を用いた課題を「話し合ってみよう」、「やってみよう」、「考えてみよう」、「発表しよう」の4つに分類して示している。(P.19,P.21,P.23,P.31,P.32,P.36,P.38等)	・地域や社会、世界の生活文化に関わる内容に「伝統文化」のマークで示している。(P.140-P.141,P.166-P.167,P.282-P.285) ・「小学校での学び」で、本時と関連した、小学校での学習を想起させる言葉がけがある。(P.18,P.22,P.56,P.72,P.82等) ・他教科と他分野の関連を「他教科・他分野」マークで示している。(P.21,P.23,P.25,P.29,P.57等)	・実物大の野菜、果物、魚、卵、手形、足型等の写真を掲載している。(P.14,P.15,P.70,P.71,P.88-P.94等) ・インターネットを活用した学習ができるように二次元コードが示されたページがあり、コンテンツが掲載されている。画像が作業工程ごとに細かく区切られている。(P.23,P.29,P.31,P.33等) ・中学生のキャラクターがガイド役をしている。(P.8,P.9等) ・教科書の下部分に「豆知識」がある。(P.16-P.45等) ・奇数ページの右上には、各内容を特徴づけるマークがついている。(P.17,P.19,P.21,P.23,P.25等) ・「先輩からのエール」と題した学習内容に関係する職業の人のコラムがある。(P.21,P.24,P.37,P.44,P.66等)	・「話し合ってみよう」の課題提示やロールプレイング等の言語活動を取り入れた活動例がある。(P.19,P.21,P.23,P.31,P.32,P.35,P.36,P.38,P.39等) ・「生活の課題と実践」に関わり、まとめの方法と発表方法の例がある。(P.266-P.277) ・自分の考えを書き込めるスペースがある。(P.14,P.15,P.25,P.41等) ・「言語活動の充実のために」に、書いて気持ちを伝える例がある。(P.286)
--	---	--	---	--

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 英語

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○生徒にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・目次に各Unitの「活動目標(GOAL)」を提示している。 ・単元であるUnitごとに目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.10,P.15,P.24,P.42,P.50,P.62,P.64,P.66,P.75,P.78,P.82,P.92,P.115,P.117,P.122)	・二次元コードにおいて、新出語句と本文の音声を取録している。新出語句と本文を掲載している。Previewに音声と映像を取録している。 (Preview 第3学年P.9,P.21,P.37,P.59,P.73,P.91) ・Let's Talk,Let's Listen,Let's Writeで日常生活の場面を設定し,Step1～3で話すこと,聞くこと,書くこと等の活動を設定している。 (第2学年P.17,P.20,P.31,P.34,P.45,P.56,P.67,P.70,P.81,P.82,P.93,P.104,P.115,P.117)	・小学校外国語科との接続を図るために,Unit0で小学校で習った英語表現を使う活動を扱っている。 (第1学年P.4-P.8) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.67-P.72,第2学年P.21-P.29,第3学年P.19-P.27)	・資料編として,Optional Reading,小学校の単語,Word List,Word Room等を掲載している。 (第1学年P.127-P.167,第2学年P.127-P.159,第3学年P.115-P.155) ・巻末に「学習をふり返ろう-CAN-DOリスト」を示し,学年学習到達目標を領域ごとに1項目設定している。また,それぞれを4段階で自己評価する欄を設けている。他学年の各領域の学習到達目標も示している。	・各UnitのPracticeにおいて,自分の考えを話し,書く活動を設定している。 (第2学年P.9,P.10,P.12,P.14,P.23等) ・Unit ActivityやStage Activityにおいて,4技能5領域を統合的に活用する言語活動を設定している。 (第3学年P.16,P.28,P.44,P.48-P.50,P.50,P.66,P.80,P.84-P.86,P.98,P.102-P.104)
開隆堂	・単元であるPROGRAMごとに目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.30,P.31,P.32,P.36,P.38,P.45,P.60,P.66,P.121)	・二次元コードにおいて,Scenesのアニメと音声,Listenの音声,本文の音声,本文イラストを取録している。 ・Power-UpのListening,Listening&Speaking,Speaking,Listening&Speaking,Writingで日常生活の場面を設定し,4技能の活動を設定している。 (第2学年P.26,P.27,P.68,P.98,P.112)	・小学校外国語科との接続を図るために,Get Ready!-4で聞く,話す,書く活動を扱っている。また,PROGRAM0で文字と音を扱っている。 (第1学年P.7-P.19) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.53-P.57,P.95-P.99,第2学年P.89-P.94,第3学年P.7-P.12)	・巻末資料として英語のつづり字と発音,不規則動詞活用表,単語と熟語等を掲載している。 (第1学年P.131-P.159,第2学年P.125-P.159,第3学年P.119-P.151) ・巻末資料として「英語で『できるようになったこと』リスト」を示し,3年間を通した学習到達目標を領域ごとに8～16項目設定している。また,できるようになったことに○を付ける欄を設けている。	・各PROGRAM ScenesのSpeak&Writeにおいて,新出文法を用いて相手に伝えたり,書いたりする活動を設定している。 (第2学年P.9,P.19,P.31,P.51,P.61,P.71,P.91,P.101) ・Our ProjectやSpecial Projectにおいて,4技能5領域を統合的に活用する言語活動を設定している。 (第3学年P.39-P.43,P.85-P.89,P.106-P.108)
三省堂	・単元であるLessonの活動ごとに目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.22,P.23,P.24,P.26,P.29,P.30,P.31,P.35,P.37,P.51,P.58,P.59,P.78,P.79,P.94,P.110,P.123)	・二次元コードにおいて,新出語句,本文の音声,スピーチ動画等を収録している。二次元コード横に,収録内容を記載している。 (スピーチ動画第1学年P.120,第2学年P.28,第3学年P.14,P.112) ・Take Action!のListen&Talkで,日常生活の場面を設定し,聞くことや話すことの活動を設定している。 (第2学年P.16,P.17,P.32,P.33,P.60,P.61,P.82,P.83,P.100,P.101,P.114,P.115)	・小学校外国語科との接続を図るために,Starter1-3で文字と音のつながりを確認し,Lesson1-3で小学校で行ったコミュニケーション活動を扱っている。 (第1学年P.8-P.13,P.15-P.61) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.97-P.103,第2学年P.105-P.111,第3学年P.51-P.59)	・付録としてFurther Reading,会話表現,Role-Play Sheet, Audio Scripts等を掲載している。 (第1学年付録1-付録36,第2学年付録1-付録50,第3学年付録1-付録54) ・巻末にWhat Can I Do?を示し,学年学習到達目標を領域ごとに2～4項目設定している。また,できるかどうかをチェックするボックスを設けている。	・各LessonのSpeak&WriteやTalk&Writeにおいて,新出文法を用いて自分の考えや意見を伝え,書く活動を設定している。 (第2学年P.9,P.11,P.23,P.25,P.41等) ・Projectにおいて,4技能5領域を統合的に活用する言語活動を設定している。また,Project内のThink&Talkでは,思考を深める手順を示している。 (第3学年P.32-P.33,P.84-P.86,P.118-P.121)

教出	・単元であるLessonのPartごとに目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.13,P.25,P.32,P.33,P.39,P.40,P.41,P.46,P.58,P.65,P.68,P.86,P.96,P.115,P.120-P.122)	・二次元コードにおいて、本文の音声を収録している。 ・Useful Expressionsで日常的な場面を設定し、その場面で使われている表現を紹介している。 (第2学年P.29,P.75)	・小学校外国語科との接続を図るため、Springboard1-4ですごく等を取り入れ、小学校で習った英語表現を使う活動を扱っている。(第1学年P.4-P.11) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.51-P.58,第2学年P.95-P.102,第3学年P.4-P.7)	・巻末資料として語形変化のまとめ、不規則動詞変化表、重要構文復習リスト、辞書についていっしょに学ぼう！等を掲載している。 (第1学年P.142-P.163,第2学年P.140-P.167,第3学年P.132-P.167) ・巻末付録として活動用カード、つづりと発音,Can-Do 自己チェックリストを掲載している。 ・巻末付録にCan-Do 自己チェックリストを示し、学年学習到達目標を領域ごとに2～3項目設定し、それぞれ4段階で自己評価する欄を設けている。他学年の各領域の学習到達目標も示している。	・各LessonのThink&Try!において、新出文法を用いて相手に質問したり、自分の考えを伝えたりする活動を設定している。 (第2学年P.11,P.13,P.15,P.21,P.23等) ・Projectにおいて、4技能5領域を統合的に活用する活動を設定している。また、既習事項を総合的に活用する内容を設定している。 (第3学年P.40-P.41,P.78-P.79,P.90-P.91)
光村	・単元であるUnitごとに関連する領域の目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.22,P.23,P.29,P.31,P.32,P.38,P.42,P.43,P.48,P.52,P.53,P.55,P.69,P.80,P.82,P.84,P.88,P.90,P.93,P.96,P.104,P.105,P.108,P.113,P.114,P.115,P.122)	・二次元コードにおいて、本文の音声、本文スライドアニメ、Listenの音声を収録している。学習に役立つリンクで、外部サイトを紹介している。 (第3学年P.11,P.13,P.17,P.67,P.74等) ・Daily Lifeで日常生活の場面を設定し、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を設定している。 (第2学年P.29,P.41,P.50,P.60,P.72,P.73,P.104,P.117)	・小学校外国語科との接続を図るために、Let's Be Friends!1-7やSounds and Lettersで文字と音をつなげたり、小学校で行った活動を扱ったりしている。 (第1学年P.6-P.24) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.104-P.113,第2学年P.126-P.127,第3学年P.91)	・付録としてYour Coach,Sing a Song等を掲載している。 (第1学年 Your Coach P.102,134,144, Sing a Song P.47,103,135) ・巻末付録として英語のしくみ、Word List、基本本文のまとめ、CAN-DO List等を掲載している。 (第1学年P.151-P.175,第2学年P.143-P.175,第3学年P.129-P.175) ・巻末付録にCAN-DO Listを示し、学年学習到達目標を領域ごとに2～3項目設定している。また、それぞれ4段階で自己評価するチェックボックスを設けている。 (第1学年P.174-P.175,第2学年P.174-P.175,第3学年P.174-P.175)	・各UnitのSpeakにおいて、新出文法を用いて、自分の考えを伝え合う活動をWriteにおいて話したことを書く活動を設定している。 (第2学年P.21,P.23,P.25,P.33,P.35等) ・各単元のGoalやYou Can Do It!において、4技能5領域を統合的に活用する活動を設定している。また、You Can Do It!では思考を整理し、表現につなげる活動を設定している。 (第3学年P.48-P.49,P.86-P.87,P.110-P.111)
啓林館	・単元であるUnitのPartごとに目標を提示している。 ・文構造や文法事項に繰り返し触れる機会を設定している。 (want toの場合 第2学年P.20,P.22,P.27,P.39,P.43,P.52,P.53,P.54,P.55,P.57,P.58,P.70,P.74,P.84,P.88,P.111,P.112,P.119,P.121)	・二次元コードにおいて、新出語句と本文の音声を収録している。新出語句とその意味、本文を掲載している。新出語句とその意味を表示、非表示にしたり、文字サイズを変更したりできる。 ・Let's Talk,Let's Listenで日常生活の場面を設定し、話すこと、聞くことの活動を設定している。 (第2学年P.18,P.30,P.44,P.45,P.60,P.72,P.86,P.87,P.102,P.116,P.117)	・小学校外国語科との接続を図るために、Let's Start!1-7で文字と音をつなげたり、小学校で行った活動を扱ったりしている。 (第1学年P.8-P.21) ・日本の伝統や文化に関する題材を各学年で扱っている。 (第1学年P.104-P.111,第2学年P.7-P.15,第3学年P.100-P.104)	・付録として英語の歌、基本本文のまとめ、英語のつづりと発音、Word Box、Word List等を掲載している。 (第1学年P.6,P.26,P.65,P.122-P.149,第2学年P.6,P.48,P.90,P.126-P.157,第3学年P.6,P.48,P.105-P.141) ・巻末付録にCAN-DOリストを示し、3年間を通じた学習到達目標を領域ごとに3項目設定している。また、できるようになった項目をチェックする欄を設けている。 (第1学年P.150,第2学年P.158,第3学年P.142)	・各UnitのUseにおいて、新出文法を用いて相手に質問したり、自分の意見を伝えたりする活動や書く活動を設定している。 (第2学年P.9,P.11,P.13,P.21,P.23等) ・Projectにおいて、既習表現を生かして総合的に学習する言語活動を設定している。 (第3学年P.46-P.47,P.90-P.91)

令和3年度使用中学校教科用図書 調査研究 報告書

種目 道徳

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現・表記	観点5 言語活動の充実
	○自己を見つめる工夫 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ○自己の生き方についての考えを深める工夫	○問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れた生徒の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫 ○発問の工夫	○生徒の発達的特質に応じた内容構成や分量 ○関連的、発展的に取り扱われた内容項目の配列 ○いじめの問題や情報モラル、社会の持続可能な発展等の現代的な課題の扱い	○本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・地図・図表等の活用	○自分の考えを基に話し合ったり書いたりする言語活動の工夫
東書	○自己を見つめる工夫 ・巻頭に年度初めの今の気持ちを書くスペースがあり、巻末に学期毎の振り返り「自分の学びをふり返ろう」を設けている。教材文の終わりに、「自分を見つめよう」と問い、自分を振り返る場面を設定している。 ○自己を見つめる工夫 ・自分の考えを視覚化し伝える際に、巻末付録の心情円を活用するよう促している。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・各学年、「生命の尊さ」「いじめ問題」の2つについて複数の教材をまとめてユニット化している。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・話し合いの時間を確保するために、教材末の設問は各教材2つとなっている。話し合いの際に、巻末付録のホワイトボードの活用を促している。新聞の意見投書文を活用し、様々な立場から考える教材を掲載している。(第3学年P.91-P.93) ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・教材で学習した内容を広げるためのコラム「プラス」が各学年5つずつ設けている。 ・第3学年巻末の振り返りに、「自分の学びをふり返ろう」という場面を設定し、卒業後の生活につなげる問いかけをしている。	○問題解決的な学習 ・教材冒頭にテーマを示して、考える道筋を示している。 ・教材文の終わりに、めあてに沿って考えられる「考えよう」のコーナーを設けている。 ・各学年1テーマずつ、導入で問題を発見し、教材を読んだりグループで話し合いをしたりすることで問題解決を図る教材を設定している。(第3学年P.144-P.151) ○体験的な学習 ・各学年2つずつ、「アクション!」とした体験的な学習教材を位置付けている。(第1学年P.38-P.39,P.104-P.105,第2学年P.84-P.85,P.142-P.143,第3学年P.100-P.101,P.138-P.139) ○その他の学習 ・巻頭に、詩とオリエンテーション教材を位置付けている。教材には、「話し合いの手引き」や「道徳の授業はこんな時間に」を設けている。 ○発問の工夫 ・教材末に2つの問いを示しており、「考えよう」では話し合いによる多面的・多角的な意見の深まりを、「自分を見つめよう」では自己を見つめる場面を設定している。	○内容構成や分量 ・AB判,23行／頁,46字／行 - 総P.204(第3学年) - 内容項目別教材数(第3学年) - A:7 B:7 C:15 D:8 ・35教材+付録5教材,合計40教材である。 ・巻頭見開きに、「話し合いの手引き」で司会カードと学習の進め方を示している。 ○内容項目の配列 ・内容項目の学習順序の配列をばらしている。 ○現代的な課題の扱い ・各学年「いじめ問題」と「生命の尊さ」のユニット学習を設定しており、「いじめ問題は」年度始めの早い時期4,5月に設定している。(第3学年P.20-P.30,P.72-P.81) ・各学年「情報モラル」とSDGsに関連する教材を設定し、他教科等の関連を示している。(第3学年P.143-P.147)	・文章ではなく漫画・イラストを主たる資料とした教材が各学年にあり、テーマを考える材料として漫画の1-2コマを各学年の5テーマで掲載している。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。(第1学年P.134,第2学年P.126,第3学年P.66) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色のアイコンで表示している。 ・他教科との関連が教材ごとに示している。 ・色覚に配慮した配色をし、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「話し合いの手引き」により、話し合いの具体的な姿やを例示しており、司会カードがある。 ・巻末付録の心情円盤 ホワイトボードが付いている。 ・グループで役割演技や考えを伝え合うことができる「アクション!」を設定している。(第1学年P.38,P.104,第2学年P.84,P.142,第3学年P.100,P.138) ・グループで話し合っ出た友達の考えを書く欄を設けている。 ○自分の考えを基に書く ・生徒が手軽に思いを書ける「つぶやき」欄を設定している。 ・学習したことを学期ごとに振り返られるよう、巻末に「自分の学びをふり返ろう」を設けている。

教出	○自己を見つめる工夫 ・巻頭に年度初めに、興味のあること学びたいこと等を書くスペースがあり、巻末に学習したことを1時間ごとに記録するとともに、学期毎や学年末の振り返り「道徳の学びを振り返ろう」を設けている。 ○自己を見つめる工夫 ・日常生活とのつながりについて考える問いを設定している。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・「生命の尊さ」「いじめや差別のない社会」について複数の教材やコラムをまとめてユニット化している。(第1学年3か所、第2学年2か所、第3学年2か所) ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・巻末に「都道府県のゆかりのある人物と、その言葉」が全ての学年に設定している。 ・巻末の「これから生きる皆さんへ」に自分の生き方について書くページがあり、保護者のコメント欄を設けている。	○問題解決的な学習 ・冒頭の教材名の下に導入時に、教材を通して考える視点になる問いを設けている。 ・問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「学びの道しるべ」のコーナーを設けている。 ○体験的な学習 ・教材文の終わりの「やってみよう」のページに発問を示し、役割演技を促している。(第1学年P.29,P.81,第2学年P.13,P.107,第3学年P.99) ○その他 ・巻頭の「道徳で学びを深めるために」で、どんなことをどのようにして学んでいくかを示している。 ○発問の工夫 ・文末に「学びの道しるべ」として、3つの問いを設定し、登場人物についての問いを1-2問、自分の思いについての問いを1-2問設けている。	○内容構成や分量 ・B5判,19行／頁,43字／行 総P.202(第3学年) 内容項目別教材数(第3学年) A:6 B:5 C:15 D:9 ○内容項目の配列 ・内容項目の学習順序の配列をばらしている。 ・各学年「生命の尊さ」「いじめ」に関する2,3時間のユニット学習がある。(第3学年P.32-P.49,P.110-P.123) ○現代的な課題の扱い ・「いじめ問題」とコラムを組み合わせたユニット学習を設けている。 ・スマホを扱った教材があり、食品ロスや難民等のSDGs問題を各学年で扱っている。	・文章ではなく漫画・イラストを主たる資料とした教材が第1学年と第2学年にある。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。(第1学年P.168,第2学年P.156,第3学年P.159) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色のアイコンで表示している。 ・色覚に配慮した配色をし、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭で「道徳科で学びを深めるために」で話し合いのポイントを例示している。 ・教材文の終わりの「学びの道しるべ」で教材における話し合いを促す問いを示している。 ・グループで役割演技や話し合いを促す「やってみよう」を設定している。(第1学年P.29,P.81,第2学年P.13,P.107,第3学年P.99) ○自分の考えを基に書く ・教材文の終わりの「学びの道しるべ」で自分の考えやその理由を書かせるための問いを示している。 ・学習したことを1時間ごとに記録するとともに、学期ごとや学年末に振り返られるよう、巻末に「道徳の学びを振り返ろう」を設けている。
光村	○自己を見つめる工夫 ・学習したことを1時間ごとに記録するとともに、巻末には、学期毎や学年末の振り返りのための「学びの記録」を設けている。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・「見方を変えて」を設け、「考えよう」とは切り口を変えた問いを設定しており、各学年「現代的な課題」について、教材と結び付けて考えるコラム「広げよう」を設けている。(第3学年P.30-P.31,P.94-P.95,P.116-P.117,P.127-P.128) ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・「つなげよう」は他教科や生き方につなげる問いを設けている。 ・最終教材に年間に学んできたことを振り返り、自己評価できるよう、「道徳の学びを振り返ろう」を設けている。また、第3学年で人生目標年表を設けている。	○問題解決的な学習 ・文末に示した「考えよう」により、問題を考えていく手引きとしている。 ・「深めたいむ」で「Aさんはこの後どうすればよいだろう。」という問いにより、考えを深める場面を設定している。(第3学年P.83) ○体験活動的な学習 ・各学年、活動を通して複数時間で取り組む教材「深めたいむ」が4か所(第3学年は3か所)設けている。(第3学年P.36-P.37,P.82-P.83,P.92-P.93) ○その他 ・各学年4か所(第3学年は3か所)、「深めたいむ」を配置し、自分に引き付けて考えるようにしている。(第1学年P.145) ・「学びのテーマ」を3つのシーズンに分け「ユニット」で構成している。シーズンの冒頭には、とびらを設け「学びのテーマ」と語りかけの言葉を掲げている。 ○発問の工夫 ・教材末に「考えよう」でめあてと問いを2から3つ程度、さらに「見方を変えて」「つなげよう」の2つの問いを加え、最大5つの問いを生徒に示している。	○内容構成や分量 ・B5判,20行／頁,51字／行 総P.206(第3学年) 内容項目別教材数(第3学年) A:8 B:7 C:12 D:7 ・31教材+付録4教材、合計35教材 ・各学年の1年間の学びの見通しをもたせられるよう、第1教材「道徳を始めよう！」を設けている。(全学年P.6-P.9) ○内容項目の配列 ・内容項目の学習順序の配列をばらしている。 ・シーズン3のステップを明確にし、テーマをもっていくつかのユニット学習を設けている。 ○現代的な課題の扱い ・全学年に「いじめ問題」に対応した3から4時間のユニット学習があり、現代的な課題に関連するコラムが各学年5か所掲載している。	・文章ではなく漫画・イラストを主たる資料とした教材が各学年にある。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。第1学年P.151,第2学年P.116,第3学年P.48) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色のアイコンで表示し、語句を表記している。 ・他教科との関連を巻末に示している。 ・色覚に配慮した配色をし、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「どうやって学ぶの？」で話し合いのポイントを示している。 ○自分の考えを基に書く ・教材文の終わりの「考えよう」でめあてに迫るための問いを示し、自分の考えを書くようにしている。 ・教材文の終わりの「見方を変えて」「つなげよう」で多角的・多面的な考えを書かせるための問いを示している。 ・学習したことを1時間ごとに記録するとともに、学期毎や学年末に振り返りができるよう、巻末に「学びの記録」を設けている。

日文	○自己を見つめる工夫 ・別冊「道徳ノート」に、毎時間の自分への振り返りを設けている。 また、巻頭に年度初めに、自分の思いを書くスペースがあり、巻末に学期ごとの「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」を設けている。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・「よりよい社会と私たち」「『いじめ』と向き合う」について複数の教材やコラムをまとめてユニット化している。(各学年5か所ずつ) ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・各学年、関係する教材の前後に、学習内容を他教科や活動とつなげ考えや視野を広げるコラム「プラットフォーム」を配置している。(第3学年P.34～P.35、P.42～P.43)また、別冊の「道徳ノート」は、友達の見解を記入する欄等を設けている。 ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・「私の生き方」に教材の筆者からの生き方のヒントや応援メッセージを載せている。 ・各教材に自分の生き方を考える問い、「自分に+1」を設定している。別冊道徳ノートに記入できるようにしている。	○問題解決的な学習 ・各学年「学習の進め方」を設け、解決していくステップを例示している。(第3学年P.32～P.33、P.108～P.109、P.120～P.121、P.139) ○体験活動的な学習 ・各学年2教材、体験的な学習に適した教材を設け、その教材の後に、「学習の進め方」を設定し、役割演技等の活動例の写真を提示しながら授業場面をイメージできる説明をしている。(第1学年P.22～P.27) ○その他 ・巻頭オリエンテーションのページで「道徳科で学ぶこと」や「道徳科での学び方」を示している。 ○関係する教材の後にコラム「参考」を配置している。(第3学年P.9、P.41、P.55、P.61、P.101) ○発問の工夫 ・「考えてみよう」「自分に+1」という視点で2つの問いが設定されており、別冊道徳ノートと連動している。	○内容構成や分量 ・B5判、21行／頁、49字／行 総P.198(別冊P.42)(第3学年) 内容項目別教材数(第3学年) A:6 B:6 C:16 D:7 ○内容項目の配列 ・内容項目の学習順序の配列をばらしている。 ・「よりよい社会と私たち」というユニット学習がある。(第1学年6教材、第2学年9教材、第3学年10教材) ○現代的な課題の扱い ・全学年に「いじめ問題」に対応した3.4時間からなるユニット学習があり、「プラットフォーム」でいじめの解説を行っている。(第3学年P.34、P.42) ・情報モラルに関する教材が1～3つ、「この教科書で学ぶテーマ」でも見やすく掲載している。	・文章ではなく漫画・イラストを主たる資料とした教材が第1学年と第2学年にある。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。(1年P.162、2年P.86、3年P.130) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色のアイコンで表示し、テーマを表記している。 ・他教科との関連を巻末に示している。 ・色覚に配慮した配色をし、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「道徳科での学び方」で話し合いの具体的な姿を例示している。 ・各学年4教材、教材文の終わりの「学習の進め方」で話し合いを促す発問を示している。 ・別冊「道徳ノート」に友達の見解や話し合いをメモする欄がある。 ○自分の考えを基に書く ・別冊「道徳ノート」の「考えてみよう」「自分に+1(プラスワン)」で自分の考えを書かせるための欄を用意している。 ・学期毎に振り返られるよう、ノートの巻末に「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」を設けている。
学研	○自己を見つめる工夫 ・巻頭に自分を見つめる「マイプロフィール」、巻末に学期毎の振り返る「学びの記録」と心の成長を振り返る「心の四季」を配置している。(第1学年P.9、P.176、第2学年P.9、P.188、第3学年P.9、P.186) ○自己を見つめる工夫 ・資料を読みながら気づいたことや思ったことを記入できる「メモ」を設けている。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・各学年において「SDGs」と「キャリア教育」について複数の教材やコラムをまとめてユニット化している。 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・「深めよう」のページの「やってみよう」では、演技の手順を示し、役割演技を促している。(第1学年P.37、P.95、第2学年P.89、第3学年P.61、P.179) ・各学年絵や写真、図やグラフ等のみで構成し、考えさせる教材を位置付けている。(第3学年P.68～P.71、P.122～P.124、P.146～P.151) ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・教材に関連した情報を「クローズアップ」で、教材の視点や学習内容の違う情報を「クローズアッププラス」に載せている。 ・第3学年巻末に「未来への扉」、各学年巻末に各学期の振り返りを行う「学びの記録」を配置している。(第1学年P.177～P.183、第2学年P.189～P.195、第3学年P.187～P.195)	○問題解決的な学習 ・「深めよう」で問題解決的な学習の手順を示している。(第3学年P.145「礼儀について考える」) ○体験活動的な学習 ・「深めよう」で役割演技の手順を示し、役割演技を促している。(第1学年P.37、P.95、第2学年P.89、第3学年P.61、P.179) ○その他 ・巻頭に、詩と道徳で学ぶこと・考えること、学び方について示している。 ・ソーシャルスキルを扱っている。(第3学年P.161「怒りのプロフィール帳」) ○発問の工夫 ・基本的に、教材末に問いを2つ示しているが、「深めよう」のページの「考えよう」では、考えを深める4つの問いの中から構成している。	○内容構成や分量 ・A5判、24行／頁、48字／行 総P.198(第3学年) 内容項目別教材数(第3学年) A:8 B:8 C:12 D:7 ○内容項目の配列 ・内容項目の学習順序の配列をばらしている。 ・ユニット学習が2本ある。(第3学年P.72～「地球と地域の未来のために」、P.162～「夢に向かって共に輝く」) ○現代的な課題の扱い ・いじめ防止に繋がる教材がある。 ・各学年、SDGsは2教材と、スマホに関する教材を扱っている。(第3学年P.72「地球と地域の未来のために」)	・文章ではなく漫画・イラストを資料とした教材が各学年にある。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。(第1学年P.120、第2学年P.144、第3学年P.72) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色のアイコンで表示している。 ・色覚に配慮した配色をし、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「新しい(第2学年:明日への、第3学年:未来への)扉を開く」に話し合う学習活動を提示し、考えを深める4つのステップを示している。 ・多くの「深めよう」において「話し合おう」を設定している。 ○自分の考えを基に書く ・生徒が手軽に思いをかける「メモ」欄を設定している。 ・教材文の終わりの「考えよう」で自分の考えを書かせるための問いを示している。

廣あかつき	○自己を見つめる工夫 ・別冊ノートの巻頭には、年度初めに課題や目標を捉える学習が行えるページを設定している。また巻末には「心のしおり」があり、毎時間の振り返りを行えるようにしている。 ・「心に残っている授業の記録」で、毎学期及び一年間の振り返りを行えるようにしている。巻末に記述欄がまとめであり、時系列に沿って記述・振り返りを行えるようにしている。(別冊全学年P.26) ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ・別冊ノートに、自分を見つめ、振り返るための22の内容項目に関連する資料が掲載されており、教材に関連した資料として「Thinking」を各学年3つずつ載せている。(第1学年P.41,P.99,P.158,第2学年P.30-P.31,P.103,P.157,第3学年P.22-P.23,P.53,P.141) ・教材ごとに「考える・話し合う」を設け、考えを広げ・深める発問を配置している。 ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・教材ごとに先人・著名人の「名言」を記載している。	○問題解決的な学習 ・教材文の終わりに「考える・話し合う」のコーナーを設け、「学習の手がかり」の中で、学習のめあて等を示している。 ○体験活動的な学習 ・「考える・話し合う」のコーナーでは、めあてと役割演技につなげることのできる問いを示している。 ○発問の工夫 ・教材の最後の「考える・話し合う」で「学習の手掛かり」とともに3から4つの問いを示している。 ・別冊「中学生の道徳ノート」に内容項目に関連する資料を用意し、自己の生活や体験活動と関連を図った問いを示している。	○内容構成や分量 ・AB判,24行／頁(2段組みの場合,26行×2／頁),43字／行 総P.166(別冊P.52)(第3学年) ・内容項目別教材数(第3学年) A:8 B:7 C:12 D:8 ○内容項目の配列 ・巻末に内容項目ごとにまとめている。また、内容項目は各教材のタイトルページに小さなマークで示している。 ○現代的な課題の扱い ・巻末に「いじめ」について、履修済みの学習を振り返って考えるページを設けている。(第3学年P.154「いじめを許さない私たちの心」) ・道徳ノートにいじめに関する資料がある。 ・スマートフォンやSNSを扱った教材や、地球や環境に関する教材がある。	・すべての教材に挿絵や写真を掲載している。 ・「感動・畏敬の念」を扱う教材については写真を大きく掲載している。(1年P.166,2年P.14,3年P.111) ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色の配色で表示している。 ・他教科との関連を巻末に示している。 ・色覚に配慮した配色をしている。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「自分を見つめよう(第2学年:考えよう,第3学年:のばそう)」で話し合いのポイントを示している。 ・教材文の終わりに「考える・話し合う」のコーナーに「考えを広げる・深める」を設定し、教材における話し合いを促す問いを示している。 ○自分の考えを基に書く ・教材文の終わりに「考える・話し合う」のコーナーに「学習の手がかり」を設定し、教材における自分の考えを書かせるための問いを示している。 ・別冊「中学生の道徳ノート」に感じたことや気づいたこと、考えたことを記録する欄を設けている。 ・「心に残っている授業の記録」で毎学期の振り返りを行えるようにしている。
日科	○自己を見つめる工夫 ・巻頭に自分を見つめる「今の僕、私」、巻末の「振り返りましょう」で1年間の振り返りと、次年度に向けての目標を立てる欄を設けている。(全学年P.6,P.190-P.191) ○自己を見つめる工夫 ・「私のいいところはどこ?」「自分が好きですか?」等関連する資料を掲載している。 ・「僕たちのキャリアプランニング」(コラム)「わたしのカルテ」で今の自分を掘り下げて考えるワークシートを掲載している。(第2学年P.22) ○自己の生き方についての考えを深める工夫 ・キャリア発達の段階の連続性と系統性を意図した教材を全ての学年に設定している。 ・第3学年の巻末に「私の道徳記録」として、これからの人生に向けての思いを確認するワークシートを掲載している。	○問題解決的な学習 ・問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーを設けている。 ○体験的な学習を取り入れた工夫 ・役割演技を促す問いを設定し、理由を考える場面を設定している。(第3学年P.56-P.57) ・教材文の終わりの「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーで、役割演技につなげることのできる問いを示している。 ○その他 ・巻頭に、詩と「道徳科って何を学ぶの?」「教科書の使い方」を配置し、学び方を示している。 ○発問の工夫 ・文末の「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」に、資料から考える問いと自分や生き方についての問いを2から3つ設定している。	○内容構成や分量 ・AB判,21行／頁,45字／行 総P.194(全学年同数) 内容項目別教材数(第3学年) A:7 B:7 C:15 D:8 ○内容項目の配列 ・内容項目ごとに教材をまとめて掲載している。 ○現代的な課題 ・「いじめ問題」を考えさせるため、「友情・信頼」の内容項目に該当する教材を扱っている。 ・写真のみで構成されているコラム(考えてみよう)[世界を知ろう]で、地球の温暖化や飢餓、難民等の教材を扱っている。(第3学年P.22)	・文章ではなくイラストを主たる資料とした教材が第1学年にある。 ・すべての教材に挿絵や写真が掲載されている。一部で大きな写真を使用している。 ・道徳の内容項目は教材のタイトル部分に4色の配色で表示している。 ・色覚に配慮した配色をしている。	○自分の考えを基に話し合う ・巻頭「道徳科って何を学ぶの?」で話し合いのポイントを示している。 ・教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーで、話し合いを促す問いを示している。 ○自分の考えを基に書く ・教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーで、自分の考えを書かせるための問いを示している。 ・巻末の「振り返ってみよう」で、1年間に自分が育んできたものの振り返りと、次年度に向けての目標を立てるワークシートがある。